



231号

今月の発信  
無報酬労働の数値化を考える会  
あごら新宿

# 女性とアンペイド・ワーク

- ◆経済大国の実態を暴く——女性のアンペイド・ワーク 北沢 洋子
- ◆無償労働、男女の格差にこそメスを 久場 嬉子
- ◆〈講座〉女性とアンペイド・ワーク 無報酬労働の数値化を考える会
  - ・ジェンダーという概念 渥美 節子
  - ・無報酬労働とは 加藤登紀子
  - ・生活時間について 野村三枝子
  - ・経済企画庁発表「無償労働の貨幣評価」について 藤原 千沙
- ◆〈資料〉男女共同参画の現状と施策 内閣総理大臣官房男女共同参画室

— AGORAZEIN —

「男女共同参画白書」から見えてくるもの

——アンペイド・ワークを中心に——

芦澤礼子／加藤登紀子／斎藤千代／しまようこ／

田村伴子／野村三枝子

〈シリーズ〉母を語る

限りない受容の人——私の母 小林カツ代

赤と青のツートンカラー。

表紙の意味がおわかりになりましたか？

総理府男女共同参画室が六月二十六日に発表した『男女共同参画の現状と施策』の中に掲載された、日本の女と男の総労働を貨幣価値に換算して数値化した図が、この号の表紙です。

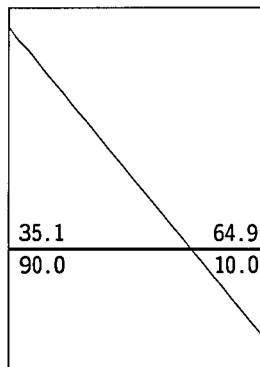
数値化した結果、

無償労働（下の濃い色）は女性（左）が九〇・〇％、男性（右）が一〇・〇％  
有償労働（上の薄い色）は女性（左）が三五・一％、男性（右）が六四・九％  
総労働は女性が五二・五％、男性が四七・五％分担していることがわかりました。  
いわゆる専業主婦の無償労働（炊事・洗濯・掃除等）は、貨幣価値に換算して年額二七六万円という数字も出ました（経企庁発表の数値より）。

一九六〇年以来、女性の家事労働もGNPに加えるべきではないか、という論が起こり、その意味がある、ないと、女性の間でも意見が分かれていましたが、こうして数値化してみると、労働について女と男の間に大きな偏りがあることが明確になったと思います。

専業主婦の仕事は年収二七六万円にも相当するのだ、だから主婦業は重要だ、というのではなく、女も男も、有償・無償労働をそれぞれなるべく一対一の割合で分担するのはどうすればいいか、建設的な方向で考えていきたいと思っています。

この特集が、そのお役に立てば幸いです。



経済大国の実態を暴く——女性のアンペイド・ワーク—— 北沢洋子 2  
無償労働、男女の格差にこそメスを 久場嬉子 4

〈講座〉女性とアンペイド・ワーク 〈無報酬労働の数値化を考える会〉

◆ジェンダーという概念 渥美節子 7 ◆無報酬労働とは 加藤登紀子 12

◆生活時間について 野村三枝子 20 ◆経企庁発表「無償労働の貨幣評価について」 藤原千沙 31

「男女共同参画白書」から見えてくるもの——アンペイド・ワークを中心に——

芦澤礼子／加藤登紀子／斎藤千代／しまようこ／田村伴子／野村三枝子

54

AGORAZEN

〈資料〉男女共同参画の現状と施策（概略） 内閣総理大臣官房男女共同参画室 87

TOPICS 組織犯罪対策法の要綱骨子発表／セクハラ熊本県議に賠償命令 ほか 100

集会から 自閉するニッポン？ アジアからの問い／あごら二十五周年記念大阪集会 ほか 103

めじやーなりすとのめ じよっぱりな女たち 清水典子 106

気になる英語 シリコン・スネーク・オイル 奥川睦 108

沖縄から 高里鈴代さん、那覇市議選で大苦戦／この海を汚すな！ヘリポート基地はいらない 110

阪神から 「被災者支援法案」成立をめざして——「人間の国へ」大報告集会 ほか 112

語りかけたいあなたへ6 ボタン 大里知子 114

〈シリーズ〉母を語る3 限らない受容の人——私の母 小林カツ代 116

あごらのあごら 160

# 実態を暴く

## ワーク——

北 沢 洋 子

去る五月十五日、経済企画庁はアンペイド・ワークについてのレポートを発表した。

これは第一にジェンダーの視点にもとづいていない、とくに女性の低賃金を合法化したところで計算されている、第二に基礎となつている統計が一九九一年に経務庁が余暇の調査のために行なつたものを使つてゐる、第三に貨幣計算することだけに終始してゐる、など問題の多い「欠陥商品」である。しかし一方では、ともかく日本政府が北京で採択された行動綱領を実施したという点で評価すべきであろう。さらに、不備な統計と誤つた計算方法にもとづいてゐるとはいえ、女性のアンペイド・ワークが一日平均約四時間にたいして、男性はたつた三十分という恐るべき状況が浮きほりにされたことについては意義がある。

そもそもこれは、北京JACのメンバーである清水澄子参議院議員が経企庁の政務次官に就任したことにはじまる。彼女の努力で、経企庁に「無償労働に関する研究会」が設けられた。研究会では男女同数計十人の委員が、対象範囲、評価の方法論などについて三回の会合を開いて議論するはずであった。しかしほとんどの時間は、女性委員がジェンダーに無理解な経企庁や男性委員を説得するのに費やされてしまった。

今回のレポートは、GNPなどの計算を担当してゐる経企庁・経済研究所の国民経済計算部が、研究会と同時進行の形で住友生命総合研究所という業者に依託して推計作業させたものであった。そして、マスコミに事前に洩らしてはならないという口実で、レポートの草案を議論する時は非公開の懇談会になり、終了後草案は回収されてしまった。次に最終の研究会が開かれたのは、記者発表の二時間前で、細部にわたる議論はなされなかった。このことについては、委員の一人である私は文書で留保を表明した。

## 経済大国の ——女性のアンペイド

以下はレポートにたいする私の簡単なコメントである。

まず、これは無償労働一般の貨幣評価であって、行動綱領にあるような「女性のアンペイド・ワーク（仕事、活動）の社会にたいする貢献」を明らかにしたものではない。すでにEUが取り組んでいるように、女性のアンペイド・ワークを目的にしたサンプル調査を行なうべきで、それには調査員と被対象者にたいするジェンダー研修が必要である。アンペイド・ワークの最大の問題は、女性を含めて社会的に意識化されていないところにある。

また、行動綱領ではアンペイド・ワークの重要な要素として、PTA活動、環境保全、消費者運動などの社会運動が挙げられている。しかし総務庁の調査項目では、老人ホームの慰問など狭い意味でのボランティア活動に限定されてしまっている。したがって、この点は男性のほうが女性より二倍近く多くなっている。これは一般の常識とはあまりにもかけ離れている。調査項目を細かくして、被対象者の意識化をはかるべきである。

アンペイド・ワークがGDPに占める比率が20%台、とヨーロッパ（40～50%）との比較では非常に低い。その理由は、日本では女性が担っており、その貨幣評価をする時にまず女性の低賃金を基準にしていること、その上、その職種の見習いの賃金を充てているからである。

一方、日本のGDPそのものが極端に大きいということもある。そもそもGDPに占める賃金所得の比率が40%と低い。ヨーロッパではこれは70～80%である。日本では残りの60%は企業収入と輸出になっている。

少なくともこのレポートは、男性が長時間の労働で企業とGDPの肥大化に貢献し、女性は低賃金とアンペイド・ワークを担っているという経済大国の実態を証明している。

# 無償労働、男女の格差にこそメスを

久場 嬉子

去る五月十五日、経済企画庁は、「無償労働の貨幣評価」の試算結果を初めて発表し、一斉に新聞やテレビで報道された。ほとんどは、それがGDPの二割を占めることとともに、特に専業主婦の「家事的価値」といったことを大きく取り上げるものであった。しかし、今回の試算結果をみると、これらの報道からは見えてこない、より重要な事実が隠されていることが分かる。

経企庁は、今回の作業にあたり、女性の「無償労働（アンペイド・ワーク）の測定と評価」を重要な政策課題として取り上げる「世界女性会議」の動きや、UNDP（国連人間開発計画）など国際諸機関による具体的な取り組み、さらに基本の国民勘定体系（SNA）をめぐる国際的な動向を知るため研究会を発足させた。私もその委員の一人として参考意見を述べてきた。

一体国際的には女性の「無償労働の測定と評価」をめぐり、何が問題とされているのか。今回の経企庁の作業は、日本政府も実施の責任を負う「北京行動綱領」の最初の取り組みとしても位置づけられるのであるが、残念ながらその意図を十分に反映するものとなっていない。これらの点について検討し、当面する課題について指摘したい。

既に二十年以上にわたるこの問題への取り組みを総括して、九五年の「北京行動綱領」は「無償労働」を次のようにとらえている。一つは、農業、食料生産又は家族経営の企業における市場向け及び自家消費用の物資及びサービスの生産活動であり、これらはSNA体系や労働統計の国際基準に含まれてはいないものの、女性の場合多くが過少評価されるか、不十分にしかとらえられていない。今一つは、家庭内での子どもや高齢者の世話、食事づくりなどの家事であり、さらに環境の保護や弱い立場、障害をもつ人々を支援するコミュニティでの無償の労働でありこれらはSNA体系の外におかれている。

問題は、グローバルにみてこれらの労働のほとんどを女性が担っており、男女の格差（ジェンダーの偏り）が大きいこと、かつ、その経済的貢献が不明のままにされ、それが経済的資源の女性への公平な分配を妨げていることである。したがって①生活時間等の調査を行い、社会統計を整備して、時間というモノサシでこれら実労働量を把握すること、②後者のような、SNA体系の外におかれている労働については、「サテライト（衛星）勘定」など新しい手法を開発しその価値を評価すること、③特に「無償労働」について、女性と男性、さらに個人と社会の間での平等で公平な分担を進めるための方策を、労働時間政策や社会政策、労働政策や広く経済政策として展開することを求めている。

国際的な動きからみると、経企庁の作業は、①基礎データとしている社会生活基本調査自体、介護や社会的活動の詳細な実態把握には不十分であること、②そもそも貨幣評価に採用している職種が多くが、女性の低賃金職種であり、③「無償労働」の価値の評価も、代替賃金や平均賃金による「貨幣価値」の計算であり、生産性の相違や「質」の把握に配慮する新しい評価手法の開発を試みるものとは全くなっていないという問題点を含む。

「無償労働の測定と評価」は、現在EUが「統一ヨーロッパ生活時間調査」を計画し、「無償労働」についてのデータの収集に努めているように、関連する基礎データを整備し、引き続き腰を落ち着けた取り組みが必要である。ともあれ、今回の試算作業により、①GDPに占める「無償労働」の評価額比率が、国際的にみてかなり低いこと、さらに何よりも、②「無償労働」の分担をめくり、日本では他国に比べて格段の男女格差が存在することが明らかになった。特に、後者について、公式にその試算を出したことは大変に意義が大きい。評価額で無償労働の九割近くを女性が担っているが、これは「無償労働」をめくり、緊急の政策課題が存在することを示している。

今年六月十一日、国会で可決された雇用機会均等法の改正案には、「女子保護規定」の撤廃が含まれ、女性から相次ぐ不安と疑問が出されている。今回の調査では、男性の家事・育児などの時間は平均して一日三十分である。一方「有業女性」は有償労働と無償労働の総労働時間において最も長い。このようななか、女性も「男並みに働く」ことは、家庭の崩壊と少子化を一層加速する。つまり「女子保護規定」の撤廃には、時間外労働等の「男女共通の規制」が不可欠であり、男性の働き方こそ見直さねばならない。

少子・高齢の労働力不足社会の到来を前提にすれば、男性も女性も共に職業と家庭を両立させうる労働時間政策や社会政策、そして「生活の質」を重視する経済政策を実施し、働きたい女性は誰でも働くことができ、また働くことに積極的なインセンティブを持ちうる社会を形成することこそ不可避である。今回の試算作業は、このような重要な示唆を提供している。

(東京学芸大学教授)



## 講座

# 女性とアン・ペイド・ワーク

〈無報酬労働の数値化を考える会〉

## ジェンダーという概念

渥美 節子

最近よく使われる「ジェンダー」という言葉は、ご存じの方はご存じだと思いますが、なかなかわかりにくい概念です。女性と男性が対等なパートナーシップを築くということは常に言われていることですから、女だから、男だからという、性別役割分担にとらわれた考え方を、変えていく必要が今出てきているのではないかと思います。

※ジェンダー (Gender) 男子、女子という生物学的性差を「sex」という語で表すのに対し、社会的・文化的につくりあげられた性別をジェンダーという。男性は仕事をもち、女性は家庭を守るというような伝統的な性別役割分担や、女性が汗水流して畑を耕し、農産物を作ってもその農地は決して女性のものにならないという法制上の問題、あるいは低賃金の職に女性が多い問題などを扱う際の性差に関してジェンダーという語を使用する。

女性問題の根幹は、性別役割分業の解消にあると言われています。女性問題はわからないとか、難しいとか言う方もいらつしやいますけど、「女性問題は人権問題」です。女性が職業を持ち、自立した生き方を選択できるようになっても、やはり女性は家事も育児も、そのうえ老いた両親の介護まで背負わされてしまうというのが現状としてあり、家事労働や地域活動など、社会で認識されてもいいないし、評価も受けていない仕事はたくさんありますが、その多くは女性が担っています。

国連開発計画（UNDP）の『人間開発報告書（一九九五）』では、一九九三年度の世界で記録された全生産高二十三兆ドルに加えて、家事労働や地域活動など、全く経済活動には計上されていないアンペイド・ワーク（無報酬労働）——が十六兆ドル分あったと推定し、この目に見えない生産高のうち、女性が十一兆ドル相当を貢献していると報告しています。

日本の男性は長時間労働で有名ですが、家事労働を含めて最も長時間労働なのは、職業を持つ日本の女性です。女性の無報酬労働は一日四時間であるのに対し、男性は一日わずか三十分という報告が出ています。女性はアンペイド・ワークに時間を費やしているものですから、働きたくても働けないし、パート労働など、細切れに働くことが多く、結局低い賃金になってしまい、労働市場では一人前と思われていないという現状があります。

アンペイド・ワークを担わない男性は、長時間労働で高い賃金を得ることができません。スウェーデンでは男性が日本の男性の十倍、一旦三時間家事をするようになって、出生率が上昇してきたと言われてます。それは、女性が子どもを持つことと、自分が生きたいと思う生き方を両立させていくことができるようになったからです。日本の男性も、家事と職業の両立の道を探ってほしいと思いますが、今の日本では、家庭の中でも、地域や企業の中でも、性別役割分業意識が強いことが、非常に大きな障害に

なっています。男性は仕事、経済活動、ペイド・ワークの部分を担い、女性は家庭を守ることによって、ほとんどアンペイド・ワークの部分を担わされているということが根本的な問題です。

ジェンダーは女性と男性の社会的・文化的性差としての、現代社会のシステムを形成する基本的な要素となっています。ポーボワールが『第二の性』の中で言っているとおり、「女性は女に生まれず、女に作られる」ということで、生物学的には女性に生まれるけれども、社会的に女性に作られていく。産む機能を持っているということで、生物学的な性につなぎとめられる、その運命の呪縛から自己解放していくことが、女性には必要なことだと思います。ジェンダーの概念で、女性と社会との関係、社会のシステムを読み取っていくと、これまで見えなかった問題が見えてくると言えると思います。

男性中心主義の社会で、性別役割分業が慣行となり、社会通念として「女はこうあるべき」「母はこうあるべき」と思われている部分がありますよね。これは当然だということ、女性問題が見えにくくされているわけですが、「女は、母は、当然そうあるべき」ということで見ていますと問題は全く見えません。「なぜそうなのか」ということから問題に気づいていかなければいけないと思います。

女性は「産む性」として家庭内役割に拘束されてしまう。母性神話とか、三歳児神話とか、そういうものもあります。また、主婦として家庭内労働に従事させられ、経済活動ができないとか、あるいは低い賃金で働くパート労働に従事させられるということもあります。性別役割分担の中におかれている問題に気づいて、女らしさ・男らしさといった思い込みから解放されていくことが必要だと思います。

アメリカでは、一九五〇年代、女性たちがいろいろ内面的な問題で悩んでいたことがありました。当時「アメリカン・ドリーム」と言われて幸せな家庭を築いてきた主婦たちが、良妻賢母的な考え方にずっととらわれていまして、「家事をして当たり前」とか、「しないと女ではない」とか、「完全にこなせない

のは私が悪いからではないか」と自分を責めたりすることで、精神的にボロボロになっていくという心の病が出てきたことがあつたんです。ベティ・フリーダンが社会の問題として、女性に共通の問題として取り上げ、背後に政治的な問題といわれる、差別の問題が深くあつたことを指摘しましたが、これこそジェンダーの問題です。個人的な関係こそ極めて政治的・権力的に社会の男女のジェンダー関係の中に映し出されているということは、家庭の中においても、性差別が深く構造的に組み込まれているということだと思えます。

差別の原因が社会の中にあるのか、家庭の中にあるのか。社会といえば公的な領域で、家庭は私的領域・プライベートな部分と言われてますけれども、公的領域、政治とか経済の分野からは女性排除されていることがあります。私的領域——家族関係とか男女のプライベートな関係の中にも性差別を生み出す要因があるのではないかと言われています。男女のジェンダー関係は、生まれたときから作られているという考え方があります。子育ての段階で女らしく・男らしくということとは、私たちもやってきた覚えのあるところです。

江原由美子さんが『フェミニズム理論への招待』に書かれていますので、それを少し読んでみます。

女性たちは、「あなたが現代社会の一員として、当然平等ですよ」というメッセージを受け取りつつ、他方「あなたは女であるから当然にもこの社会では二流市民です」ということを暗黙に了解させられている。なぜなら、女性はその「生物学的運命」から、「私的領域」の労働の専門的従事者であると規定される。しかもそれは単に諒解事項なのだから、差別でも抑圧でもなんでもなく、「私個人の自由な選択」であるというわけだ。従って、「私的領域」の責任を負うがゆえに、「公的領域」において不利な参加条件を余儀なくされたとしても、それは「個人の自由な選択の結果」なのだから仕方がないことになるのである。

る。私はこの一方において「男女平等」だと言い、他方において「女性は二流市民である」という、二つの相矛盾する定義を同時に受け入れるように要求されることを、「経験の欺瞞化」と呼びたいと思う。要するに、公的な部分の社会と私的な部分は、それぞれ違った原理で構成されているということだと思ひます。公的な部分からは女性は排除されていますけれども、公的領域というのは優先性や経験性が非常に高いわけで、私的領域は「個人的なこと」とであると言われています。例えば夫婦喧嘩とか、家庭内暴力というものはプライバシーに関することで、これが社会問題化されていないということがあります。私的生活領域のことはすべて個人的なことであり、主観的なことであるとされていますが、「個人的なことは政治的である」という言葉もあります。個人的なことこそ政治的で、社会的な構造的な背景を持っている、差別の問題につながっているということです。

ウーマンリフ以降の平等論は、「男性の女性並み平等」とも言われまして、女の暮らしの部分を取り捨てないで、社会的な財の分配を公正にしていこうという意味での平等論が提唱されました。法的政治的な、形式的な平等に対して、実質の平等とか、結果の平等を問題にしています。私的領域の権利付けとか、生産世界に対する再生産の領域の権利付けが課題になっています。女性は出産とか育児、介護、老人の看取りとかのケア労働を多く分担していますけれども、これが不当におとしめられているというか、そういう活動が低く見られているということも大きな問題だと思ひますけれども、女性の社会的地位の向上ということで、経済的活動や政治的活動への参加のために力をつけることが必要だと思ひます。

それともう一つ性別役割分業の解決のための戦略を考えていくことです。ここに、いま私たちがやっている「アンペイド・ワーク」の問題が、大きく浮上してきます。それについては加藤さんからお話します。

## 無報酬労働とは

加藤登紀子

私は経済企画庁の「無償労働に関する研究会」と第四回世界女性会議行動綱領などについてお話ししたいと思います。

まず経済企画庁の「無償労働に関する研究会」ですけれども、新聞などでも報道されていますからご存じかと思いますが、これは当時経済企画庁の政務次官でした清水澄子さんの強い意向もありまして、昨年の七月二十三日に第一回の会合を持ちました。しかし、アドバイスをするというか、そのあたりにとどまっておりまして、実際に作業を行ないましたのは経済企画庁で、民間の企業に委託して行なったということです。メンバーは女性と男性半々、五人ずつだったんですけど、アンペイド・ワークにたいへん詳しい久場嬉子さん、目黒依子さん、矢沢澄子さんたちも入っています。ただ、残念ながら他の五人の男性の方たちをジェンダーの視点までもっていくというのは難しかったようです。

この経済企画庁の中につくりました「無償労働に関する研究会」を男女半々と言いましたが、男性のほとんどがSNAに関心があつて、女性のほとんどがジェンダーのほうに関心があるということでした。このSNAという言葉がよく使われるのですが、これは一九九三年に改訂されました。

## SNAとは何か

SNAとは、英語で言いますとSystem of National Accountです。略してSNA、政府は「国民経済計算体系」と訳し、久場さんは「国民勘定体系」と訳しています。辞書を見ますと、また違った訳

になっていまして、「国民所得勘定方式」というふうに有斐閣の経済辞典ではなっています。訳がけっこうバラバラなんですけれども、このSNAというのはGNPとかGDPなどの出し方の統一を図るために、一九五二年に国連で作成された「国民所得勘定方式」です。

SNAが九三年に改訂になりました、社会的関心の高い特定分野の分析ニーズに應えるために、サテライト勘定——GNPやGDP、SNAとは全く同一ではないんだけど、つかず離れずの関係で、それと並行した付属的な勘定——ということで、GNPとかGDPには含まれないけれども、それにプラスした情報として付け加えることができる。そういうった概念が、九三年の改訂で導入されました。研究会の五人の男性は、そのSNAのほうに関心をもった人たちでした。ただ、こういう人たちに十分ジェンダーの視点があるかというと、ちょっとそのあたりが不十分だったわけです。

北京会議では、非常にまとまった形でアンペイド・ワークに関する文言が行動綱領に入りました。「行動綱領においてSNAの中枢体系の中で評価されていない家事などの無償労働の価値の数量的評価についての研究促進が盛り込まれた」（無償労働に関する研究会「議事録」）。これが研究会の大きな目的であったわけです。結果としては十分ではなかったんですけども。

## 北京行動綱領に示された「アンペイド・ワーク」

その「世界女性会議行動綱領」を少し見ていきたいと思います。

行動綱領は十二の重大領域に分かれているんですが、最初のA「貧困」というところにもう出てきていまして、パラグラフ68あたりに「性別データ」であるとか「無償労働部門・家事部門の寄与を含む」女性の能力を認識し、認識を明らかにして、貧困との関係を明らかにするというようなことも出ていま

す。ただ、無償労働に関して一番メインとなる文言は、F「女性と経済」というところと、最後のほうのH「女性の地位向上のための制度的な仕組み」のところと。

まずFの「女性と経済」のパラグラフ156のところに、無償労働についてこのように書いてあります。

156 女性是有償労働を通してではなく、膨大な量の無償労働を通して開発に寄与している。一方において女性たちは農業・食物生産・家族経営企業において、市場向け及び世帯消費のための財やサービスの生産に従事している。国連が各国に採用を勧告した国民経済計算体系(SNA)及びその結果、労働統計の国際基準には含まれているものの、この無償労働——特に農業に関する無償労働は、往々にして低く評価され、記録されることも少ない。

女性是他方で、子どもや高齢者の世話、家族の食事の準備、環境保護、並びに弱い立場や障害を持つ個人やグループを支援するボランティア活動のような家庭内及び地域社会の無償労働の大部分を担っている。これらの労働は数量的に測定されることはほとんどなく、国民経済計算において、価値が量られることもほとんどない。開発への女性の貢献はひどく過小評価され、そのため、その社会的認知も限られている。この無償労働の形態、範囲、分布を完全に目に見えるようにすることは、より良い責任分担に寄与することである。

農業などで女性たちが労働を担っているけれども、その仕事が十分評価されていない。それから家族経営企業(例えば開業医とか、自営業の商店)の中で夫の仕事を助けているけれども、それが十分労働として評価されていないということがあります。



女性たちはそういうふうに「市場向け」や「世帯消費」のための財やサービスの生産に従事しており、これは先ほどの国連のSNAや、それに基づくGNP・GDP、労働統計に関する国際基準に含まれてはいるんですけど——「応SNAには入っているんだけど——低く評価されています。」

もう一方において女性たちは、家庭のなかのアンペイド・ワーク、「子どもや高齢者の世話」や「家族のための食事を準備」しています。しかも「環境の保護」「弱い立場にある個人や集団のために自主的な援助を提供する」など、ボランティア活動とか社会運動、福祉的な活動とかコミュニティ活動などを行なっているのはほとんど女性たちであるということが問題なのです。SNAで価値が量られることもほとんどない。評価が十分行なわれていないというわけです。この無償労働にはどういう「形態」があるのか、「種類」「分布」を目に見えるようにして、女性と男性がもっとバランス良く責任を担うことに向けて、実態を知ることが必要になったわけです。

ですからこのアンペイド・ワークの実態を統計にきちんと出して知るということは、女性と男性のアンペイド・ワークとペイド・ワークが非常にアンバランスになっている状況を、バランス良いものに変えていくうえで、非常に大事なことだと思えます。私たちがグループを作ってやっているのも、結局、「男女の役割分担を変えたい」という思いからです。圧倒的に私たち女性が無償労働を担わされていることに、納得できないわけです。

## アンペイド・ワークは七〇年代から言われていた

北京会議でアンペイド・ワークがきちんとした文言として行動綱領に入りましたので、非常に注目されてまして、日本でも北京会議以降注目されているんですけど、久場嬉子さんがよく言われることなんで

すが、七〇年代からアンペイド・ワークに関しては言われていて、世界ではそういう動きがあるのに、日本では非常に立ち遅れています。一九七五年のメキシコシティでの第一回世界女性会議の行動計画にも、アンペイド・ワークに関する文言が入っていますし、一九八〇年のコペンハーゲン会議の「世界行動プログラム」にも、八五年のナイロビ会議の「西暦二〇〇〇年に向けての将来戦略」にも入っています。九〇年に行われたナイロビ将来戦略の見直しにも入っています。先ほど渥美さんが話されましたが、九五年にUNDP(国連人間開発計画)が出している本ですけれども、『人間開発報告書'95ジェンダーと人間開発』にもアンペイド・ワークのことがかなりのページ数を割いて述べられています。

このように、七〇年代から世界ではずっとアンペイド・ワークが注目されつつづけているのに、日本では七〇年代にはアンペイド・ワークというと専業主婦の家事労働に限定され、働いている女性と主婦の対立の構図のようになってしまっただけです。しかし北京会議以降は、アンペイド・ワークは家事労働だけではなくという警戒感があつたようです。しかし北京会議以降は、アンペイド・ワークは家事労働だけではなくて、ボランティア活動も、コミュニティワークもそうですし、「サービス残業」なども入りたい。農業・自営業などの女性の労働など、家事労働以外のものもすべて対象として考えていくという、七〇年代に行なわれた議論とはまったく違う形になっていることは、非常に注目していいことだと思います。

## 行動綱領で求められていることは

さっきの行動綱領に戻るんですけども、Hのところですね。これが行動綱領の中では一番アンペイド・ワークについてまとまっています。重要なんですが、206のところを見て下さい。

206 調査及びドキュメンテーション(文書管理)機関と、各自の責任分野で協力しつつ、国内、地域及び国際統計サービス並びに関係の政府及び国連機関により

a 個人に関するすべての統計が、性及び年齢別に収集され、集計され、分析され、提供されて、社会における女性と男性に関する課題、争点及び問題点を反映するよう保障すること。

b 政策及び計画の立案・実施の際の利用に供するため、年齢別、性別及び扶養家族数を含む社会経済その他の関連指標別のデータを、定期的に収集、集計、分析及び提供すること。

c ジェンダー分析を強化するための適切な指標及び調査方法の開発とテスト、並びに行動綱領の目標の実施に対する監視と評価に、女性学センター及び調査機関を巻き込むこと。

d ジェンダーに関する統計プログラムを強化し、調整、監視及び統計業務のあらゆる分野との連携を確保し、さまざまなテーマ分野からの統計をまとめた情報(アウトプット)を準備するための担当スタッフを指名または任命すること。

e 非公式部門への参加を含めた、経済に対する女性及び男性の全貢献のデータの収集を改善すること。

f 以下により、あらゆる形態の労働及び雇用について、より包括的な知識を開発すること。

① 農業、特に自給農業及びその他の型の非市場生産活動におけるように、すでに国連の国民経済計算体系に含まれている無償労働に関するデータ収集の改善

② 現在労働市場における女性の失業及び不完全雇用を過少に見積もっている測定の改善

③ 女性の経済的寄与を認め、女性及び男性の間の有償労働と無償労働の不平等な分布を目に見え

るものとするために、扶養家族の世話及び食事の用意のように、国民経済計算に含まれない無償労働の価値を数量的に評価し、中核的な国民経済計算とは別個にはあるが、それと調和したものとしてつくられる可能性のあるサテライト(補助的)勘定またはその他の公的経済計算に反映できる方法を、適切な討論の場(フォーラム)において開発すること。

a には性別・年齢別の統計であるとか、e はインフォーマルセクターへの参加を含めた経済に対する女性及び男性の全貢献のデータの収集を改善するとかあります。

f を見ていただきますと、まず、「あらゆる形態の労働及び雇用について、より包括的な知識を開発すること」というのが入っています。先ほどと重複する面もあるんですけども、f-①に「農業、特に自給農業及びその他の非市場生産活動のように、すでに国連の国民経済計算体系に含まれている無償労働に関するデータ収集を改善すること」とあります。自給農業など、SNAには入っているけれども無償労働であるものに関するデータ収集を改善するということです。

②は「女性の失業及び不完全雇用を過少に見積もっている測定の改善を行なう」ということで、日本では専業主婦の状態は失業とは考えられていなくて、結構日本の失業率というのは低く出ていますけれども、外国との統計の違いということから、そういうことも出てくるのではないかと思います。失業率の取り方を、もう少し女性の実態を入れながら統計を出して欲しいということです。

③は女性の経済的寄与を認め、「女性及び男性の間の有償労働と無償労働の不平等な配分を目に見えるものにするために」とありますが、この女性と男性のアンバランスが非常に問題です。「被扶養者の世話」及び「食事の準備」のような家庭内労働のことですけれども、国民経済計算に含まれない無償労働につ

いて、中核的な国民経済計算とは別個であるが——SNAやGNPそのものではないけれども——「それと調和したものとして作られる可能性のあるサテライト(補助的)勘定またはその他の公的経済計算に反映できる方法を、適切な討論の場において開発すること」とあります。

g 有償及び無償労働における女性及び男性の差に敏感な、時間使用統計のための活動の国際分類を開発し、性別のデータを収集すること。国内レベルでは、各国の制約を条件にしつつ

① 有償の又は他の無償の活動と同時に行われるそれらの活動を記録することを含め、無償労働の価値を数量的に測定するための定期的な時間使用調査を行うこと。

② 国民経済計算に含まれない無償労働を数量的に測定し、中核的な国民経済計算とは別個だがそれと調和したサテライト(補助的)勘定又はその他の公的経済計算にその価値を正確に反映する方法の改善に努めること。

g は「有償と無償労働における女性・男性の間の差に敏感な、時間使用統計のための活動の国際分類を開発すること」。無償労働の貨幣的な価値を出すためには、どれくらい時間を使っているかが必要ですので、時間使用統計というのがたいへん重要になってきます。それも、「性別のデータを収集する」ということです。今回の「無償労働に関する研究会」の助言を得て出した経企庁の試算は、経務庁の一九九一年の時間使用調査「社会生活基本調査統計」、これは不十分なものですけど、それを基にして、女性が何時間無償労働に使っているか、男性は何時間か、を出し、じゃあ女性は貨幣に換算していくらになったか、女性の中でも既婚の人、未婚の人、介護をしている人……というふうに出していったわけです。

ですから、時間使用統計が基礎になりますので、非常に大事になります。

g―①は「有償の又は他の無償の活動と同時に進行される無償の諸活動を記録することを含め、無償労働の価値を数量的に測定するための定期的な時間使用調査を行うこと」となっています。g―②では、SNAに含めない無償労働を「数量的に測定」して「サテライト勘定またはその他の公的経済計算」に、貨幣的に「正確に反映する方法の改善に努めること」と言っています。一番大事なものはその結果から、女性がいかに無償労働を担っているかという実態を把握して、それを政策に生かすということです。「無償労働に関する研究会」で女性の委員たちが不満を持っていたのは、政策に生かすという視点がないということでした。

あと、「男女共同参画ビジョン」ですが、平成八年の七月に男女共同参画会が出しまして、それに基づいて「男女共同参画二〇〇〇年プラン」が十二月に出されました。そこにも無償労働について書かれています。とくにサテライト勘定については、「介護・保育サービスとの関連」ということで、介護・保育に限定して算出するという意思があるようです。男女共同参画室の説明では、現在、具体的にあがっていて約束できるのがそれだとのことでした。時間ですので、一応このあたりで終わりたいと思います。

## 生活時間について

野村三枝子

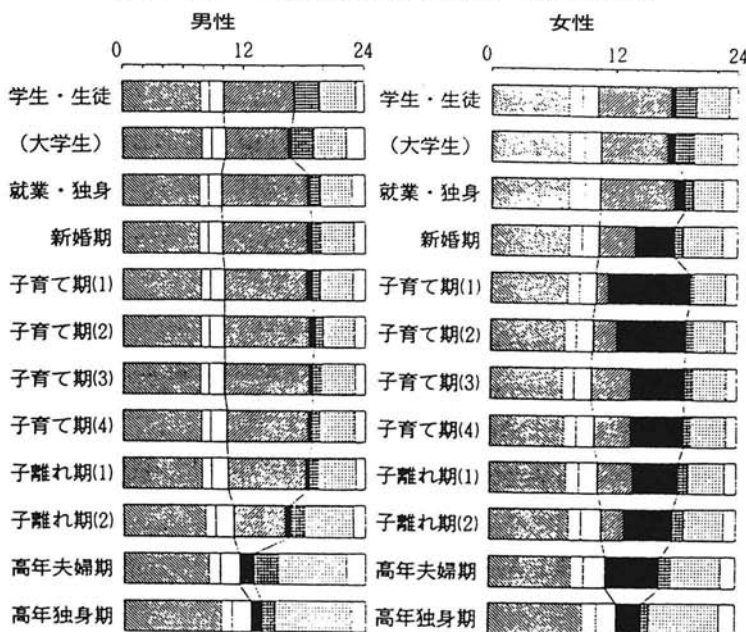
私は、生活時間についてお話ししたいと思います。お手元に一九九一（平成三）年の総務庁の社会生活基本調査の結果をグラフにしたものをお配りしていますので、ごらんください。これをどれくらい

人に調査したかというところ、九万九千世帯で約二十四万七千人だそうです。

黒い部分が家事時間です。左側が男性で、右側が女性ですが、一目瞭然、女性が多く家事をやっているというのがわかりいただけると思います。ここには学生から就業・独身、新婚、子育て(1)(2)(3)(4)、子離れ(1)(2)、高年夫婦、高年独身期というふうになってますが、どの層でも男性に比べて女性が格段に多くの家事を担っている。性別による役割分業を忠実にこなしているのが、わかると思います。

九一年の社会生活基本調査の結果をなぞってきかといいますが、今回経済企画庁が出した統計はこれに基づいて家事労働と社会奉仕活動を足しまして、平均値を出したものであります。その結果、女性が一日三時間五十四分で男性が三十分と出たんです。これも、ちよつと不正確なところがありまして、男性のアンペイド・ワーク時間である通勤時間

ライフステージ別生活時間 (週全体・総平均時間)



などは、全然入っていないんですよ。諸外国では通勤時間がそんなにかかるところはまずないらしいので、その三時間を有償労働の方へもし入れれば、日本は所得が高いつて言ってますけど、一時間当たりの単価は結構低くなっちゃうんじゃないかという気がします。

その次の一番新しい調査が一九九六（平成八）年十月の調査で、これ（23ページに掲載）が調査票です。全部で十二ページもあるんですが、まず最初に氏名と、次に「世帯主との続柄」があります。3が出生の年月、4が配偶者の有無、5が教育で、小学校から大学・大学院まで五段階に分かれていまして、在学中か卒業したかの区別を書くようになっていきます。6が「家族の介護・看護をしていますか」という質問で、7が「あなたの子はどこに住んでいますか」。徒歩で五分とか、子はいないとか、六つの選択肢があります。8問目は「ふだん仕事をしていますか」。「仕事をしている人」の中には「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」。「仕事をしていない人」は「家事」「通学」「その他」となっています。専業主婦は「仕事をしていない」んですね。そういうふうに見なした調査なんです。

9が勤めと自営の別、10が本人の仕事の種類、これに関しては11に会社の規模・業種などと従業員数を書きます。公務員は「官公庁」に記入するようになっていきます。12が一週間の就業時間。十五時間未満から始まって六十時間以上となっていますね。13がふだんの片道通勤時間、14が週休制度、15が連続した休暇の取得の有無・時期。16番目がスポーツです。スポーツが野球から始まってずっと下まで、四十二種類もダーツと書いてあるんですね。17が学習・研究について。18が社会的活動について。これはたった六つにくくっちゃってあるんです。「地域社会や居住地域の人に対する奉仕」「福祉施設等の人に対する奉仕」「児童・老人・障害者に対する奉仕」「特定地域（へき地や災害地等）の人に対する奉仕」「その他一般の人に対する奉仕」「公的な奉仕」と。こういう活動って無限にあると思うんですね。こんなに



16 スポーツについて (単に見物している場合や授業、研修として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含めます。)

次のスポーツについて それぞれ右の質問に答 えてください	(1) この1年 間にしま したか		(2) この1年間に何日 ぐらいしましたか							(3) どのような人と しましたか		(4) どのような 施設を利用 しましたか							
	し な か つ た	し → (2) (4) へ	年 に 1 1 4 日	年 に 5 1 9 日	年 に 10 1 9 日 月 に 1 日	年 に 20 1 3 日 月 に 2 3 日	年 に 40 1 9 日 月 に 1 日	年 に 100 1 9 日 月 に 2 3 日	年 に 200 1 9 日 月 に 4 日 以 上	家 族 の 人 々	職 場 の 人 々	学 校 の 人 々	地 域 の 人 々	そ の 他 の 人 々	職 場 の 施 設	学 校 の 施 設	公 民 の 施 設	利 用 の 施 設	そ の 他 の 施 設
			(当てはまるものすべてに記入してください)																
野球(キャッチボールを含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ソフトボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バレーボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バスケットボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サッカー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ラグビー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハンドボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ドッジボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
卓球	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
テニス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バドミントン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゴルフ(練習場を含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゲートボール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ボウリング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
陸上競技	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
体操競技	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
柔剣道	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
空手合気道	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
相撲道	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
馬術	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アーチェリー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
射撃	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
乗馬	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
水泳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
スキューバダイビング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ヨット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サーフィン・ホードセーリング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハンタグライダー・ハラセーリング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
スキー・スノーボード	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アイススケート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ローラースケート・スケートボード	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
登山・ハイキング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
フィールドアスレチック	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サイクリング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ジョギング・マラソン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
運動としての散歩	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
なわとび	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
器具を使ったトレーニング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エアロビクス・ダンス・美容体操	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
車椅子体操	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(上記以外に この1年間にした種目か あれば 右の「○」内にマークし 様のわく内に記入してください。       )			種目名及び1年間にを行った日数																

スポーツをたくさん挙げるよりは、私はこのところをもっと増やして調査して欲しいと思うんですが、この調査はそうなっていないんですね。

驚いたのがその次です。19の趣味・娯楽ですが、それも五十種類もあるんです。何と洋裁も和裁も「趣味」なんですね。趣味でやってるわけじゃない、仕事でやっている人もいますよ。そして最後には競馬・競輪・競艇・オートレースまで入っている。こういうのを趣味っていうんでしょうかね。

その次のページを見て下さい。時間を細かくつけるために、一日の行動を書くようになっていきます。行動が二十種類に分かれておりまして、最初が睡眠、身の回りの用事、食事。ここまでは第一次活動といいまして、人間誰しもそれがなければ生きていきませんよね。ですからそういった第一次活動を、NHKの視聴率調査では「必需時間」といいます。その次が第二次活動といいまして、通勤・仕事・学業・家事・介護・育児・買い物・移動・テレビなどの活動があります。時間の目盛りがバーツとついているのはおわかりですか？ 一番上の睡眠のところを、午前零時から始まって横にずっと線を引いていきますよね。六時に起きられる方は六時まで延ばして下さい。六時からは身の回りの用事。歯磨きとか洗顔とか十五分くらいですか、二段目に引いてみて下さい。それから食事——食事がいきなり出てくるわけにはいきませんよね（笑）。食事の準備という時間もあると思います。その下の「仕事」というのは、収入のある仕事のことです。この調査では収入のないものは「仕事」になっていないんですね。

それから、ご飯を食べながら洗濯機を回したりとかは、どちらか「主なほう」を書いてください、という取り方をしているわけです。ご飯食べながらテレビ見て、洗濯機回して……と三つくらいのことを同時にやっけていても、一番主になる行動しか書けないんです。そういった限界があるんですね。これはザライという人が国際比較をするために決めた方式らしくて、もっといい方法を私たちが考えて提言し

① この日は 次のいずれの日でしたか  
 (うちはまらしのすべてに記入してください)

・「行動の種類」及び「一緒にいた人」については、当該

一 家 人 で  
学 校 場 の  
そ の 他 の 人

一緒にいた人 { 一人で:  
一 家 族:  
学 校・商 場 の 人:  
そ の 他 の 人:

たつていいんです。この調査に、家事こそたくさんの欄を設けて、今まで無視してきた多様な家事を、どう金銭的に評価するか、考えてみたいと思います。

なぜこんなことをやるかというと、戦後憲法が改正されて、女性と男性の法の下の平等というのが、法律上まず達成されましたよね。機会の均等という面では、例えば大学なんかに行く場合は、実力さえあれば教育の機会均等はある程度達成されています。ですが、賃金の不平等というのは今も厳然としてあると思いませんか？ 例えば女性の生涯賃金は、高校を出て定年まで一生懸命働いたとしても九千六百万円だそうです。ところが、この間秋田県の知事が退職金で二億何千万もらいましたね。稼ぎのいい会社だと、男性の生涯賃金は平均五億ですって。賃金の不平等は大きいんです。

次に出てくるのが「時間の不平等」。先ほども言いましたように、無報酬労働の時間が、女性に圧倒的に多い。同じように生まれてきても、男に生まれるか女に生まれるかによって全然時間の使い方が違っちゃって、それによってさらに辛いことには、収入も少ない、財産もない、土地もない。時間の不平等と賃金の不平等からくる女性の老後の不安。老後はますます困りますよね。

そこで主婦の無償労働を貨幣価値になおすとどうなるかと、経企庁の調査で生活時間を算出して、それに賃金をかけるという計算をしました、五月十六日に出了ましたよね、「奥さんの賃金は二七六万円」とあれを見て、これでは「少ない」と思った人と「多い」と思った人がいると思うんですね。というのは平均しちゃいますから。例えてみれば昔テストで「平均点」っていうのがありましたよね、あれがおかしいというので「偏差値」に変わったんですけど、もともとこういう欠陥のある調査をもとにしてやっただけ、不十分なところがあるんですね。

賃金も、生涯賃金でスライドしても男性と女性とはうんと違いますから、相対的に低く出ちゃうんで

すね。だから数値が「ああ出た、よかった」ではなくて、今まさにスタート・ラインに立ったばかりなんです。いろんな無報酬の仕事がある程度数値化して、その現金を主婦に渡せと言うんじゃない、政策にどう生かしていくかが問題です。社会・経済政策というのは、GNPとかGDPとかの数値で決まるわけです。例えば、防衛費はGNPの1%とか言ってますよね。一九九一年の湾岸戦争に日本が負担したお金は、一兆六千億円でしよう。あれは私たちが働いて納めた税金なんです。それで戦争されちゃうんです。女性の働きや賃金はほとんど無視して、すごい不合理なことがまかり通っているんですね。本来なら女性政策のためにも使っていいお金が、よその国の人を殺すお金になるなんて。そういう怒りを私たちはぶつけていかなければいけないのではないだろうかと思えます。では質問をどうぞ。

Q 無報酬労働の数値化を考える会について教えて下さい。

野村 最初は、北京会議の時にニューヨークの事務局にボランティアでいらした石川さんという方と知り合って、「アンペイド・ワークが今度北京会議で勝利したので、勉強してみませんか？」ということで、集まりはじめたんです。そしたらたまたまマリリン・ウォーリングさんというアメリカの女性経済学者が「女と男が平等に働くための政策制度研究会」の招聘で来日され、川崎国際交流会館でシンポジウムが開催されました。そこで、ウォーリングさんの『新フェミニスト経済学 (If women counted)』を読む勉強会をしました。無報酬労働を切り口に、女性問題をやっていこうと、毎月一回くらいずつ資料を交換しているんですけど、皆さんそれぞれ忙しいので、資料が山ほどたまっているんですね。

主婦と働いている女の人の間で、第二号被保険者の問題とか、「パートの百万円の壁があるから働いてもつまらない」とか、「あなた遊んでいるのに女性の権利ばかり主張して」とか、どうしても論争があ

るんですね。根本に「女は扶養されているんだ」という頭があつて、「私は夫に扶養されているんだからしょうがないわ」とか、好まない性交渉なんかだつて「私は養われているから断られない」とか、いろいろ日常生活であると思うんです。夫は仕事をやってるんだから、「家のことはお前がやって当然じゃないか」と思う人も多いし。だから「女もある程度経済的に自立すべきだ」と言われると、引き裂かれるような思いなんですね。

文献を調べましたら、一九五五年からこの論議がありまして、磯野富士子さんが、六〇年の母親大会で有名な演説をしているんですね。上野千鶴子さんが『主婦論争を読む』という本にまとめています。ただここで注意しなければいけないのは、当時とは全くステージが違つてきているということです。アメリカでノーベル経済学賞をもらったベッカー教授が——シカゴ学派なんです——「人的資源」という考え方で「女性の積極活用」とか「女性の権利主張が大きく変わったのは、女性の教育程度があつて人的資源が向上したからだ」とか、いろいろ新しいことを言っています。一九九三年十月三日の読売新聞の切り抜きがありますので、興味のある方にはコピーいたします。

このように、経済学というものの観念がだんだん変わつてきているんですね。二〇世紀初めにビグーという経済学者が「もし独身男性が家政婦を雇つていて、家政婦に給料を払つていたとする。その家政婦と結婚したらどうなるか。非常に『経済的』になる」(笑)。給料払わなくてよくなるんだから。でも女はどうですか? 『不経済』ですよ、給料をもらえなくなるんだから。いかに「男の視点の経済学」だったかがよくわかると思うんですが。アンペイド・ワークというのは新しい視点で、「有償労働イコール無償労働」と言っている。イコールだ、両方とも価値がある、という考え方です。たまたま貨幣価値に換算して比較しているだけであつて、それにお金を払うといった問題ではないんですね。片や経済で

お金が出るのであれば、無償労働も金銭に換算してイコール評価しようという考え方なんです。ですから、あくまで「これだけの金額が出ているんだから、これだけ下さい」というのではないんです。

これを政府で出したのは、いろんな経済政策の誤りが顕著になったからです。ケインズ経済学が長い間たいへん幅をきかせていまして、「景気が悪くなれば公共事業を増やすと、雇用が拡大して景気が良くなる」などと言ったツケがいま来ている。経済学自体が再検討されている時期にきているんです。今までは「市場を通じてカウントされたものだけの経済数値」だけを計算してGDPを出して、それを基に国家予算を立てたりしていたわけですが、それでは限界があると。無報酬労働の数値を出して、女性にはこれだけの働きがあるんだから、それを含めて社会・経済政策を立てないとだめだよ、ということになったわけなんです。

一月に〈アンペイド・ワーク 市民・議員フォーラム〉が結成されました。メンバーは百人を超えていると思います。七月十一日に『ジェンダーと人間開発』を出されたUNDPの福田・パー・咲子さんをお招きして、参議院議員会館で勉強会を開きます。どなたでも参加できますから、ぜひいらして下さい。『ジェンダーと人間開発』をまずお読みになるといいと思います。主要十一か国（日本は入ってません）で調査したもので、女性の労働の三六％が有償労働、六四％が無償労働で、男性はその逆です。日本でもやりますと、男性の無償労働は一〇％です。一九九六年にはUNDPから『経済成長と人間開発』という本が出て、今年十月にはまた新しい本が出ます。

では、これからグループワークで「女性の家事労働とボランティア・ワークについて」皆さんでプレーストリーミングして書いてください。グループに分かれて、女性の家事労働の多様さを、こんなこともそう、あんなこともそう……と、模造紙にワイワイ書いてみて下さい。これはアンペイド・ワークだけ

ど、それは違うよ、とか、自分の思っていることと違うことが出てくると思います。頭の中にある資料じゃなくて、書きながら身につけていくことをやっていきたいと思います。

### グループワークで出た主な「女性の家事労働とボランティア」

#### 〈家事・育児・介護〉

食事作り・あと片付け／弁当作り／保存食作り／新聞の取り込み／郵便物整理／買い物／洗濯、アイロンかけ／クリーニングに出す／衣替え／裁縫、繕いもの／掃除／ゴミ出し・分別／庭の手入れ／家庭菜園の世話／風呂を沸かす／あいさつ状書き／お中元・お歳暮・その他贈答／季節行事の準備・後片付け／家計管理（税金・年金・各種保険・家計簿つけなど）／家族の健康管理／看病／病院付添い／介護／老親の世話／授乳／おむつ替え／子どもの行事の世話／保育園送り迎え／幼稚園・保育園・学校などへ持っていく物の準備／塾の送り迎え／子どもの勉強を見る／夫の送り迎え／夫の会社行事に参加／親戚付き合い／冠婚葬祭（結納・お宮参り・法事・お盆など含む）

#### 〈地域活動・社会活動〉

PTA・子どもの学校関係／町内会／近所付き合い／生協活動など共同購入／公民館活動／女性施設活動（企画・広報など）／福祉ボランティア／NGOボランティア／自治体委員（審議会など）／グループ・サークルなどの勉強会／市民運動（消費者運動、文庫活動、リサイクル運動、環境保護運動、署名活動、行政申し入れ、陳情、デモ、ピラマキ、座り込み、会費管理、資金作り、資料作り、広報、発送作業、会場予約、海外支援、災害支援など）／労働組合（専従除く）／通勤／民生委員・保護司・青少年指導員・児童館指導員など（謝礼まちまち）

野村 「第三者基準」第三者に代わってもらえるものはアンペイド・ワークということで無償労働を定義してみると、はつきりすると思うんです。代わってもらえないものはアンペイド・ワークではない。例えばお惣菜なんかは少人数の場合は買ってきたほうが安いということもあり、社会化されてきました。炊事とか洗濯とかも社会化されているから貨幣価値に換算して評価されるのであって、それが無い限りそんなものは賃金としての対価にならない。社会化されたおかげということもあるんですね。

今は、主婦が交通事故なんかで遭ったときに逸失利益の補償金を払うときに、AIUなどの損害保険



会社は家政婦の値段を基準にしています。ですから今度政府が初めて無償労働の評価を出したということとは、それなりの意味のあることだと思います。政府として公表された数値をもとに公的な評価を出したのは初めてなんです。これは、家事は「愛の労働」だとか「気分転換になるし、家事はちつとも苦にならないわ」とか言う考えとは別の次元の話なんです。

平均賃金の表を見ると、県別でも違うんですよ。東京が一番高いんです。それから子どもが何人いたりと、子育て中のお母さんのアンペイド・ワークとか、全部違うんです。だから今回の調査は平均値の平均、本当に目安で、経済企画庁から出た「無償労働の貨幣評価について」の、氷山のほんのてっぺんの数字なんです。その詳しいデータは、住友生命が作ったんですが、コンピュータのMOという普通のフロッピーの何倍も入る中にぎっしりと統計が入っています。一九九一年の総務庁の「社会生活基本調査」は、百科事典くらいの厚さで一メートルくらいあるんです。性別・年齢別・結婚の有無とか全部出ています。経企庁の調査は、そこから拾いだした数値でしかないんですね。図書館でぜひ見てみて下さい。

(一九九七年七月五日 杉並区女性団体連絡会主催、第一回講座より)

## 経済企画庁発表「無償労働の貨幣評価について」 藤原 干沙

きょうはまず経済企画庁が今年の五月に発表しました「無償労働の貨幣評価について」というリポートをご紹介します。その意義や注意点を話したいと思います。

五月十五日に発表されて、その日の夜のニュースと翌日の朝刊にかなり大きく取り上げられたんです

けど、ご覧になった方はいらつしやいますか？（ほとんどの人が挙手）。では、今お配りした、元の資料をご覧になった方は？（挙手なし）。ということは、新聞発表やニュースでしか知らないということですね。新聞もテレビも嘘ではないんですけど、報道のしかたとか、取り上げられかたが「やはりマスコミだなあ」というような結果になっていますので、きょうはこういう機会ですから、数字ばかりでちょっと難しいと思いますが、少し詳しくお話したいと思います。

## なぜ経企庁が「無償労働の貨幣評価」を

まず、ちょっと注意していただきたいのは、「無償労働の貨幣評価について」を、経企庁の経済研究所の国民経済計算部というところが出しているんですね。何でこんなところが出すんだろう？って思われるかもしれませんが、これは日本のGNP（国民総生産）やGDP（国内総生産）を主に計算しているところで、その部署がこういうものを作ったんです。これは厚生省の仕事じゃないのかとか、総務庁じゃないのか、と思われるかもしれませんが、別に変なことではないんですね。といいますのも、この経企庁の国民経済計算部は、グリーンGDPというものも出しています。GNPの伸び率が何%で、日本の経済成長率はすごいと議論されたりもしますが、環境破壊に結びつく行為も経済成長率を増やすことになるんですね。破壊された環境を元にもどすことも経済成長率を増やす行為なわけです。でも考えようによってはそのようなGNPは「負の生産」ですよ。また逆に見ますと、森林とか大気だとかの環境資源はそれ自体でものすごい経済的価値を生んでいるわけですが、GNPにはあらわれてこない。グリーンGDPというのはそのような目に見えない経済への貢献、あるいはマイナスの貢献といったものを本来のGNPやGDPと比較するために開発された指標なんですね。経企庁が家庭内の無償労働の経済的

貢献をGDPと比較する形で計算するというのは、その意味では不思議なことではないのです。

## 「無償労働を見える形で検討しよう」は、北京の「行動綱領」にも明記

では順番にいきましょう。「1 はじめに」で目的が書かれています。国民経済計算（SNA）、これは一国で見るとGNPやGDPとなりますが、それは「基本的には市場を介した経済取引を記録する体系である」ため、有償労働、いわゆるペイド・ワークは「その対象に含まれている」が、無償労働は「経済取引と認められていない」ことから、その対象に含まれていない。しかし「社会は有償労働のみならず、無償労働によっても支えられて」おり、「家計による非市場生産を無視することができない」ことから、欧米諸国ではこういう試みがすでに実施されている、と書かれています。だから日本でもやってみましょう、というのが第一の目的です。「また、一九九五年北京で開催された世界女性会議では……女性が無償労働の大部分を担っているにもかかわらず、それが貨幣的に評価されていないとの問題が指摘され、無償労働の貨幣評価に関する研究及び経験についての情報交換をすべきことが『行動綱領』に盛り込まれた」と書かれてあります。だからやるんだ、というのが第二の目的というか意図であるとしているのですが、ここにまず認識の違いというか、やはり経企庁の捉えかたとアンペイド・ワークを考えなきゃいけないと主張してきた女性たちとの認識の違いが表れていると思います。

といいますのは、九五年の世界女性会議では、無償労働が貨幣的に評価されていないということが問題として指摘されたのではなく、無償労働が見えないがゆえに女性の貢献が過小評価されているということだったのです。だから貢献に対する見返りが少なく、国の政策においても反映されていない。無償労働の内容や大きさを明らかにして、そのジェンダーギャップを解消する。男性や社会とどのように担

いあうのかを考える。つまり「よりよい責任の分担」というのが「行動綱領」でも言われている目的なんですね。その手段として、まずは見えない無償労働がどれだけあるのかを測ってみよう、ということですね。

## 「アンペイド・ワーク」の範囲

でもまあ、政府機関が初めて計算したということで、問題点は多々あるんですけど、見るべきところもありますので、その点をもっと詳しく見ていきたいと思います。そもそものように測ったかというのが「2 無償労働の範囲及び貨幣評価の方法について」にあります。まず範囲ですね。「家計が行う活動のうち無償労働と考えられる活動は、サービスを提供する主体とそのサービスを受取る主体が分離可能で、かつ市場でそのサービスが提供されうる活動とした。これは第三者基準といって、国際的に用いられている基準である」と書かれているんです。具体的には「家事、介護、看護、育児、買物、社会的活動」を無償労働と定義しています。ほかにも睡眠とか食事とかは、お金が払われていないわけですからアンペイド・ワークじゃないかなと思うんですけど、睡眠というのは、誰にも代わってもらえないですよ。そういうものを労働と捉えるのはおかしい。一方、家事、介護、育児などは、もちろん「私がやりたい」という気持ちもありますけど、第三者に代わってもらうことも可能なんです。そのような第三者基準で「労働」というものを考えると、これだけだ、と経企庁は提示しています。

## 「貨幣評価」の方法

次に貨幣評価の方法なんですけど、三つの方法が使われております。新聞発表ではほとんど一つの数字しか取り上げられていなかったんですけど、これを見ると三つのやりかたで計算されています。一つ

は「a 機会費用法」で、「b 代替費用法」は、「b-1 スペシャリスト・アプローチ」「b-2 ジェネラリスト・アプローチ」の二つに分かれています。

a の機会費用法についての説明を見て下さい。「家計が無償労働を行うことにより、市場に労働を提供することを見合わせたことによって失った賃金で評価する方法」。これは、家にいて、家事をやっているけれども、もしその時間に外で働くと、いくらかのお金が得られると想定して計算するやり方です。その費用を稼ぐ代わりに私は家で労働をしていた、ということ、家事をすることによって市場労働をする機会を失っている「失った利益」と考えて下さい。これは opportunity cost といって、OC 法と略されています。OC 法で計算するときの賃金は、産業計の性別・年代別の平均賃金を利用されています。

次に b の代替費用法です。これは「家計が自己生産しているサービスと類似のサービスを市場で生産している者の賃金で評価する方法」ですけれども、代替費用 (replaced cost) RC 法と略されています。b-1 はスペシャリスト、専門職の賃金で測るものです。例えば、機会費用では家事をしても育児をしても中身は問わずに、私が一時間働いたら一体いくらかということ、で測るんですけど、代替費用法では同じような労働を市場ではどう評価されているかということで、育児は保母さんの賃金で測るといったように、無償労働を専門職として分化させて、その賃金で測る方法です。

では、どの家事がどの職種で測られているかというと、最後のほうに表があります。清掃はビルの清掃員、洗濯は洗濯工……という形で、家庭内労働をそれぞれに分けて、対応する職種の賃金をもつてくる。介護・看護は看護補助者、炊事は調理師……ではなくて、調理師見習いの賃金があてられています。

そのような「職種別にみた男女平均賃金を利用する」と書かれてあるのですが、元データを調べてみると、男女の平均賃金とは厳密には言えないですね。「保母」と「看護補助者」は女性の賃金で、「洗濯

「工」は男性の賃金です。というのも、そもそも賃金統計がないからなんです。そのほかの職種はちゃんと男女の平均賃金になっていましたが、育児と介護と洗濯の貨幣評価は、元データに性別の偏りがあるということに注意したいと思います。

もう一つ、代替費用のほうでb-2のジェネラリスト・アブローチがあります。これは「家事使用人の賃金で評価する」方法です。一人で家事や掃除や洗濯をこなしているという実態を考えれば、洗濯工とか清掃員というより家政婦の仕事として評価することもできないわけじゃない。そこで日本臨床看護家政協会が実施した「一般在宅勤務者の賃金実態調査」から、いわゆる家政婦の賃金に置き換える方法がとられています。これをRC-G (generalist) 法とい、RC-S (specialist) 法とOC法と合わせて三つの方法で無償労働が計算されているのです。

## 無償労働の貨幣評価額

さてその結果はどうだったのか、「3 推計結果について」を見ていきましょう。まず、無償労働の貨幣評価額です。測定方法によって違いますけれども大体どうなるのかということを比較しています。一九九一年の無償労働の貨幣評価額は、六七兆円から九九兆円です。一番小さいのがRC-G法で、一番大きいのがOC法で測った数値です。九一年のGDP (国内総生産) と比

代替費用法 (RC法)

活動の内訳	対 応 職 種	活動の内訳	対 応 職 種
炊事	調理師見習い	買物	用務員
清掃	ビル清掃員	育児	保母
洗濯	洗濯工	介護・看護	看護補助者
縫物・編物	ミシン縫製工	社会的活動	サービス業加重平均
家庭雑事	用務員		

較してみますと、二一・六％（OC法）にもほる生産をしているんだ、ということが書かれています。まずこれが、はじめに経企庁がやりたかったGDPとの対比という話です。

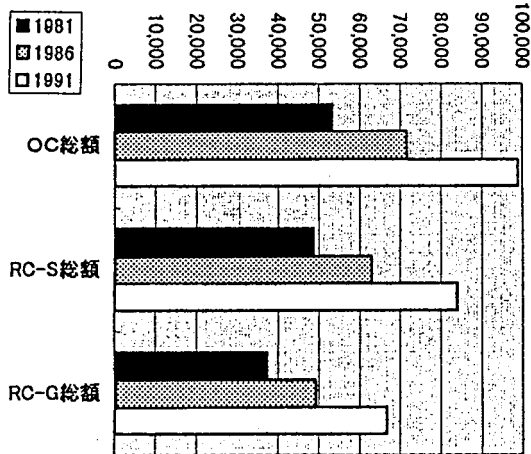
これを男女別で比較したらどうなるかといいますと、総額のうち、

女性が九割前後を担っている。OC法で見ますと、九一年に日本で生産された無償労働総額の八五・三％を女性が生産したんだということになります。十年前の八一年だと九〇・五％ですから、だんだん女性

の割合が下がってきて、その意味では、近年は男性が担ってきているという評価もできるかもしれません。しかしながら、八五％が女性の労働による貢献だということことです。

### 無償労働も性別分担

次に、活動別評価額と男女の構成比（九一年OC法による）を見てみましょう。家事全体では女性が九二



三つの評価額の数値とGDP比

(単位: 10億円, %)

	GDP	OC		RC-S		RC-G	
		総額	GDP比	総額	GDP比	総額	GDP比
1981	257,962.9	53,264	20.6	48,538	18.8	37,339	14.5
1986	335,457.2	71,828	21.4	62,857	18.7	49,037	14.6
1991	458,299.1	98,858	21.6	84,027	18.3	66,728	14.6

%、炊事や洗濯のサービス生産はその九七%を女性が行なっています。びっくりしますのが「社会的活動」です。生産額の六割を男性が生産しているという結果で、これだけが突出して高いんですね。

男性のほうが女性よりもボランティアをやっているの？と不思議に思うんですが、別に数が多いわけでも男性の社会的活動の時間が長いわけでもないんです。男女ともにそれほど変わらない。それなのになぜ男性の評価が高くなるのか。賃金が高いからなんです。実質は違わないのに機会費用で見れば男性の貢献度はうんと高くなる、という方法上の問題があらわれています。そう考えますと、社会的活動以外はほとんど女性という結果になっていますが、女性による労働の貨幣評価はこれまでもまだ低いと言えるわけです。

では、経年変化をみてみましょう。

活動別評価額との構成比 (1991年OC法) (単位: 10億円、%)

活動別評価額と構成比(1991年-OC法)

(単位:10億円, %)

活動種類	全体	男性	女性
家事	66,497 (100.0)	5,353 ( 8.0)	61,144 ( 92.0)
炊事	28,681 (100.0)	808 ( 2.8)	27,873 ( 97.2)
清掃	8,220 (100.0)	707 ( 8.6)	7,513 ( 91.4)
洗濯	13,422 (100.0)	305 ( 2.3)	13,116 ( 97.7)
縫物・編物	1,855 (100.0)	7 ( 0.4)	1,848 ( 99.6)
家庭雑事	14,320 (100.0)	3,525 ( 24.6)	10,795 ( 75.4)
介護看護	2,313 (100.0)	540 ( 23.3)	1,773 ( 76.7)
育児	9,334 (100.0)	1,371 ( 14.7)	7,963 ( 85.3)
買物	16,557 (100.0)	4,743 ( 28.6)	11,814 ( 71.4)
社会的活動	4,157 (100.0)	2,522 ( 60.7)	1,636 ( 39.3)
活動計	98,858 (100.0)	14,528 ( 14.7)	84,330 ( 85.3)



一人あたりの年間評価額は、一九八一年で、男性二万六千円、女性一〇万八千円で、女性は男性の九倍を生産していました。一九九一年では、男性二万九千円、女性三〇万七千円で、女性は男性の五・五倍という結果になっています。労働時間を見てみますと、賃金に換算する前の無償労働時間・有償労働時間を測った表を見てもわかりますように、男性の無償労働時間は一日一人当たりで八一年十七分、八六年二十二分、九一年三十分。本当に短いですね。女性は四時間一分、四時間二分、三時間五十七分と、若干減っている。男性は増えつづけてはいるんですが、男女のギャップはものすごいものがあるということです。有償労働時間を見ますと男性の方がずっと多くて、六時間四分から五時間四十六分、女性は三時間十一分から二時間五十九分となっています。

男女の無償労働時間と有償労働時間(経年別)

	(参考) 無償労働時間		(参考) 有償労働時間	
	男性計	女性計	男性計	女性計
1981	0時17分	4時01分	6時04分	3時11分
1986	0時22分	4時02分	5時58分	3時02分
1991	0時30分	3時57分	5時46分	2時59分

(注)一日一人当たり時間(週平均)

男女別の評価額(経年別) (単位:10億円, %)

	OC		RC-S		RC-G		女性の構成比(OC)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
1981	5,082	48,182	3,465	45,073	2,395	34,945	90.5
1986	8,150	63,678	5,373	57,485	3,844	45,192	88.7
1991	14,528	84,330	9,724	74,303	7,044	59,684	85.3

## 総労働時間は女性のほうが長い

しかし、ここで大事なものは、対比することだけでなくトータルに捉えることです。そもそも社会に対する経済的な貢献度と考えるならば、有償も無償もすべてを労働としてとらえてみなければいけないのではないだろうか。そういう議論があるわけです。そこで総労働時間——無償も有償もなく、とにかく何時間労働したのかを、九一年で、ちょっと計算してみましょう。男性を見てみますと、有償が五時間四十六分ですね。無償労働の三十分を足すと、一日で六時間十六分の労働をしているということになります。女性はどうかといいますと、無償が三時間五十七分、有償が二時間五十九分。足すと六時間五十六分です。ということは、女のほうが労働時間が長いじゃない、っていう話になるんですね。トータルな評価、貢献度ということで見ると、男も女も貢献している。時間は女のほうが長いけど、共に社会に対して経済的な寄与をしているんだという見方をしなければいけないのかな、と思います。もちろん、同じ貢献をしているながらその見返りは……という問題にもつながっていくわけです。

## 専業主婦のほうが経済的価値が高い？

次に、属性別比較に行きましょう。これが新聞やニュースで大きく取り上げられたところですが、男と女を有配偶かそれ以外に分け、有配偶の中でも有業か無業かで測ってみた、というものです。年齢平均で見ますと、女・有配偶・有業で年間百七十七万円、無業で見ますと二百七十六万円、有配偶以外つまり夫のいない女性は六十六万円という数字になっています。有配偶・無業とは、いわゆる専業主婦なので、「専業主婦は二百七十六万円働いている」とこの数字を新聞各紙が取り上げたわけです。

# 無償労働の属性別の比較

一人当たり無償労働評価額を男女別にみると、女性が男性に比べて圧倒的に高いが、このことは有配偶・有業での男女別比較でも同様である。女性についてみると有配偶・無業(いわゆる専業主婦)において 約276万円と女性の平均市場賃金約235万円を上回っている。有配偶・有業においても約177万円と市場賃金の約75%となっている。

一人当たり年間無償労働評価額 (1991年—O C法)

(単位: 万円)

			平均	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-39歳	40-49歳
女性	有配偶	有業	176.5	67.7	122.5	180.4	212.1	183.8
		無業	276.2	162.1	258.5	337.8	355.1	302.5
	有配偶以外		66.0	17.4	31.6	50.9	87.6	114.1
男性	有配偶	有業	31.4	10.0	20.1	27.4	34.7	31.9
		無業	59.0	20.6	126.7	62.8	61.9	81.7
	有配偶以外		18.6	6.9	12.3	14.7	23.7	40.4
			50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳
女性	有配偶	有業	155.8	146.3	135.3	126.3	124.7	74.4
		無業	264.3	240.3	201.3	178.2	154.6	105.6
	有配偶以外		133.1	146.2	135.0	122.7	101.4	67.9
男性	有配偶	有業	32.2	27.5	27.6	25.5	23.5	23.8
		無業	93.5	70.7	67.9	56.0	49.1	34.0
	有配偶以外		62.9	69.9	72.5	72.4	52.9	47.1

経企庁がまとめた四角で囲ってある文章を見てみます。「有配偶・無業（いわゆる専業主婦）は約二百七十六万円」とここでも強調しております。「女性の平均市場賃金約二百三十五万円を上回っている」とわざわざ解説しています。この解説に基づいた新聞記事やニュースをみて、専業主婦の方は「よかった」って思われたらしいです。「私ってすごい価値がある。外で働いているよりいいんだ」って、ちょっと優越感を与えたんだということを何人かの方から聞いてすごくびっくりしました。でも、こういうまとめ方だと、まさにそうなんですね。なんで女性の市場賃金がこんなに低いのか、という話にはならなくて「働くよりも経済価値を生んでいる」という話になってしまいうんです。

しかし、ちょっと考えますと、これはOC法で測ってますよね。機会費用というのは市場で働けば得られたはずの賃金ということで、女性正社員の賃金で測っているわけです。でも、専業主婦の女性が外で得られたはずなのに失った賃金として考えるのだったら、普通パート賃金じゃないかというふうにも考えられるわけで、正社員として働けば得られたはずの賃金で主婦の家事労働を計算するのはおかしいんじゃないか、という指摘もあります。パート賃金ですと、当然こんな高い数字にはならないんです。では正社員賃金ではなくパート賃金で測ればいいんでしょうか。そんなことは簡単にできるわけで、数字はどのようにも好きなように操作できるんです。それよりもむしろ、この数字から何を読み取るかが重要だと思っただけです。たとえば先ほどありましたように、女性の市場平均賃金は二百三十五万円です。これは、ボーナスや残業代を含めていない数字なのですが、二百三十五万円分、外で働きなから、無償労働としても百七十六万五千円も仕事をしている。それを足すと経済的貢献はいくらになりますか？ 有業の女性は約四百十二万円の経済的貢献をしているんです。こうなりますと、女は男に比べて経済的貢献度は少ない、とは言えないんですね。男性の無償労働の平均は有配偶有業三十二万円、無

業五十九万円、有配偶以外十九万円なわけですから、単に給料が高いとはいえないわけです。実は有業有配偶の女性には給料分以外に無償労働でも百七十六万円の価値を生んでいて、合わせて四百二十三万円働いているんだから、トータルで見れば男性の市場賃金に匹敵する。この評価額は、年齢別に見てもかなり違いますし、いろんな見方ができるのではないかと思います。

次は介護をしている人の無償労働ですが、介護労働がいかに大変か、ということがわかるのですが、元々の「社会生活基本調査」の資料の制約から、実態よりかなり低いんじゃないかという疑問がないわけではありません。でも、家族の介護をしている人の無償労働の貨幣評価額はかなり高いという結果がここでは明らかにされています。

## 市場産業を上回る無償生産

無償労働によるサービス生産と市場労働との比較です。家計における炊事というサービス生産は七九兆円で、市場の外食産業十一兆円と比べて七倍の生産をしている。洗濯は三一・四倍、育児・介護は民間の非営利団体と比べて九

家計において生産されたサービス評価額と市場活動との比較 (1991年-R-C-S法)

(単位:10億円)

	炊事 (家計)	外食産業 (市場)	家計/市場	洗濯 (家計)	洗濯業 (市場)	家計/市場
無償労働評価額	22,361	——	——	13,401	——	——
生産されたサービス評価額	79,560	11,079	7.2	38,273	1,220	31.4

(注-1) 家計で生産されたサービス評価額＝

無償労働評価額×3.558(外食産業産出額/外食産業賃金俸給(平成2年I-0表f-1))

(注-2) 外食産業には、一般飲食店、喫茶店及び遊興飲食店が含まれる。外食産業のサービス評価額は、外食産業の産出額のうち家計による最終消費額である。

(注-3) 家計で生産されたサービス評価額＝

無償労働評価額×2.856(洗濯業生産額/洗濯業賃金俸給(平成2年I-0表f-1))

(注-4) 洗濯業のサービス評価額は、洗濯業の産出額のうち家計による最終消費額である。

倍も行なっている。これを取り上げた日経新聞は、「企業にとつては家事や育児などの分野に参入できる余地が大きい」と記事にしたんですね。家庭内にはまだまだ経済的な進出分野が残っているんだと。アンペイド・ワークの問題がこのように捉えられるなんてちょっとびっくりしたんですが、経企庁の二つの意図があらわれていると思います。

## 国際的には低い 日本の無償労働評価

次は地域別比較で、これは日本国内の地域によって違いがあるということですが、面白いのは国際比較なのでそちらを見てみましょう。これもまた問題が多いのですが、いろんなことが見えてくると思います。

「諸外国と比較すると、わが国の無償労働の貨幣評価額のGDP比は、いずれの評価方法でもかなり低い」

勤と有償労働)

(単位:時間)

イギリス	イタリー	オランダ	オーストリア	デンマーク	フィンランド	ノルウェー	イスラエル	ブルガリア
1985	1988-9	1987	1992	1987	1987-8	1990-1	1991-2	1988
15	15	12	10	16-74	15	16-79	14	10
3:29	3:08	2:06	3:25	5:10	3:33	3:37	3:11	3:50
3:27	3:54	3:54	3:34	2:24	3:28	3:36	3:04	3:50
0:21	0:16	0:40	0:31	0:30	0:15	0:26	0:05	
3:06	3:38	3:14	3:03	1:54	3:13	3:10	2:58	3:50
6:56	7:02	6:00	6:59	7:34	7:01	7:13	6:15	7:40
6:35	6:46	5:20	6:28	7:04	6:46	6:47	6:10	7:40
4:39	4:41	2:58	4:40	6:00	4:21	4:24	4:40	4:34
2:19	1:26	2:48	1:53	1:38	2:29	2:28	1:36	2:24
0:33	0:22	0:52	0:41	0:35	0:25	0:39	0:08	
1:46	1:04	1:56	1:12	1:03	2:04	1:49	1:28	2:24
6:58	6:07	5:46	6:33	7:38	6:50	6:52	6:16	6:58
6:25	5:45	4:54	5:52	7:03	6:25	6:13	6:08	6:58
2:34	1:45	1:13	2:17	4:19	2:48	2:44	1:50	3:22
4:38	6:16	5:04	5:01	3:10	4:22	4:31	4:25	5:02
0:10	0:10	0:29	0:22	0:26	0:06	0:04	0:03	
4:28	6:06	4:35	4:39	2:44	4:16	4:27	4:22	5:02
7:12	8:01	6:17	7:18	7:29	7:10	7:15	6:15	8:24
7:02	7:51	5:48	6:56	7:03	7:04	7:11	6:12	8:24

編:household's unpaid work: measurement and valuationより作成  
は国連開発計画(UNDP)のOCASIONALPAPERより作成

この理由としては、「まず有償労働時間に  
対して無償労働時間の比率が低い」

つまり日本では無償労働時間が短いん  
です。なぜか。男がしないからなんです。

もう一つ、無償労働の範囲として、諸外  
国が移動とか住宅のメンテナンス、園芸も  
含めているのに対し、今回の日本の数値は  
含めていないということ。また、調査年齢  
が外国では十歳から十二歳以上が多いん  
ですが、日本では十五歳以上ですね。そのよ  
うな限定もあるということですが、そんな  
ことは大したことではなくて、何よりも男  
性の無償労働時間が圧倒的に少ないとい  
うことなんです。

## 性別格差が 圧倒的に大きい日本

国際比較の表を見ていきましょう。日本、  
アメリカ、カナダ……と十五か国がありま

国際比較(無償労

	日本	アメリカ	カナダ	オーストラ リア	フランス	ドイツ
調査時点	1991	1985	1992	1992	1985・6	1991・2
調査年齢	15	15	15	15	15	16
有償労働	4:20	3:38	2:35	3:17	3:03	3:16
無償労働	2:16	3:42	3:11	4:07	3:48	4:05
住宅関連		0:16		0:38	0:38	0:46
無償労働一住宅関連	2:16	3:26		3:29	3:10	3:19
①合計(有償労働+無償労働)	6:36	7:20	5:46	7:24	6:51	7:21
②=①一住宅関連	6:36	7:04		6:46	6:13	6:35
男性						
有償労働	5:46	4:31		4:29	4:00	4:28
無償労働	0:30	2:37	2:17	2:54	2:28	2:53
住宅関連		0:23		0:50	0:57	1:02
無償労働一住宅関連	0:30	2:14		2:04	1:31	1:51
①合計(有償労働+無償労働)	6:16	7:08		7:23	6:28	7:21
②=①一住宅関連	6:16	6:45		6:33	5:31	6:19
女性						
有償労働	2:59	2:47		2:06	2:10	2:12
無償労働	3:57	4:46	4:04	6:17	4:59	5:08
住宅関連		0:11		0:26	0:19	0:32
無償労働一住宅関連	3:57	4:35		4:51	4:40	4:36
①合計(有償労働+無償労働)	6:56	7:33		7:23	7:09	7:20
②=①一住宅関連	6:56	7:22		6:57	6:50	6:48

出典:カナダはカナダ統計局  
カナダ以外の諸外国例

すね。三つに分かれた上の欄が平均で、真ん中が男性、下が女性です。男性の有償労働時間を見てみますと、日本は五時間四十六分。それに対してアメリカは四時間三十一分、オーストラリアは四時間二十九分と、外国に比べてかなり長いということがわかります。無償労働時間を見ますと、日本の男性は三十分ですが、アメリカは二時間三十七分、カナダは二時間十七分……と、三十分なんて、どこにもない。これほどの違いがありますと、男女の合計値でみても、日本での有償労働時間は四時間二十分、無償労働時間は二時間十六分ですが、外国では無償労働に有償労働と同じくらい三時間から四時間かけているわけですね。ですから、GDP比較で見た場合日本では二・六％にすぎないのに、外国ではカナダが五四・二％、オーストラリアが六九％など、GDPの半数以上に匹敵する貢献を無償労働が行なっている、ということになるんです。

しかし男が短いというだけではなくて、実は女も短いんですね。女性の無償労働時間を見てみますと、日本では三時間五十七分ですが、アメリカでは四時間四十六分、カナダでは四時間四分、オーストラリアでは五時間十七分……となっていて、日本は男性だけでなく女性の無償労働時間も短いことがわかります。これはいったいなぜか、ということが議論にもなっているのですが、統計のとりかたが各国バラバラで統一されていないという問題があることは確かです。「本当にこんなに短いのか」ということをきちんと調査しなければならないわけですが、それにしても短いですよ。そのことをどう考えるか。あの研究者の方は「日本では家事サービスの外部化、商品化があまりに進んでいるということではないか」と指摘されています。さきほど家計の炊事サービスは市場の外食産業の七倍という推計を見ましたが、七分の一は今や外食産業で行われていると見ることもできるわけです。日本での家事サービスの商品化の進み方が、女性の無償労働時間の短さにつながっているのでは、という指摘です。しかし一般家事の



商品化はあまりにも進みながら、介護サービスの社会化などはいまだに遅れていると言われているわけで、商品化・社会化という問題も、この単純な国際比較から見えてくるところです。

## 経企庁リポートの意義

説明は大体こんなところですが、意義としては第一に政府機関が初めて無償労働という言葉を用いて家事や育児や介護などを「労働」としてとらえているということ。また、三回の比較ですけれども、一年・八六年・九一年という形で、経年比較しているということ。さらに不十分ではありますが、国際比較を試みているということがあげられるかと思います。

問題点としては、はじめにも述べたように、有償労働と無償労働のジェンダーギャップの解消という視点が無い、ということでしょうか。やはり経済企画庁の目的はそこにはない。もちろん経企庁なりの意図はあってもいいんですけど、北京会議を踏まえたいうでの政府の取り組みなわけですから、その意味ではきわめて不十分です。どうも総理府の男女共同参画室はこの取り組みに対して何の要望も出してなかったようで、各省庁との連携のなさがいろんなところで批判されています。

あと注意しなければならないのはデータの制約があるということです。総務庁の社会生活基本調査は無償労働の測定を目的とした調査ではないわけで、ああいうデータを使うことには限界がある。移動時間がない、ながら仕事がない、といった項目の妥当性についても考えなくてはならない。職種の妥当性についてもそうですね。炊事は調理師見習い、掃除はビルの清掃員といった賃金でよいのかどうか。機会費用も男女別年齢別の正社員賃金でよいのかどうか、といったことも議論しなければならぬ。

## 男女のジェンダーギャップを認めた上での数字

ではどういうふうに測っていけばいいのか。実は数字がどういうふうに出ても操作はできるんですね。男女別ではなく男女合計の賃金で測ればもつと高くなりますし、パートの賃金で測ればすごく低くなりますし、数字を操作する意味はあまりないんじゃないかな、と私は思っています。九一年の無償労働評価額は九十九兆円、GDPの二一・六％、女性は八十四兆円の労働をし……これらの数字は、無償労働の時間が長いかわりに、市場賃金が高いかわりに、という現実世界をものすごく表わしているんですよ。男性はほとんど有償労働しかしてなくて、女性の賃金はあまりにも低いという市場の実態がそのまま反映して、無償労働の評価を低くしているんです。だから……このあたりが、経企庁の数値が出て一か月以上経った現段階での議論でしょうか。以上です。

### 〈質問〉

#### 「ながら活動」は入れない

Q1 普段家事をするときに、二つの家事を並行してやる人が多いですが、こういうやり方に対する諸外国の算出の仕方は？ 日本ではカウントされていないということですが。

藤原 日本では社会生活基本調査がそういう「ながら活動」は計測してないので、それを使った経企庁の計算です。で主な活動の時間しか測っていません。外国では、「ながら活動」を測定してはいるんですが、国際比較をする場合、全部含めると一旦二十四時間を超えてしまうんですね。だからその場合は

主な仕事だけを計算しているはずですが。この数値は、ながら活動を含めた数字ではない。主な仕事だけととらえていいと思います。

いまEUやOECDで、各国が同じ方法でペイド・ワークとアンペイド・ワークを測定しようという試みが進んでいます。日本の統計でそれらがどのように活かされるかということはまだわかりません。大切なことですので注目していきたいですね。

## 数値化によつて主婦労働をかえつて固定化させるのでは

Q2 アンペイド・ワークを測ることによつて、かえつて主婦労働を固定化してしまうことになりませんか？ 主婦の仕事＝女性の役割という、性別役割分業の固定化につながるのでは。

藤原 すごく危ないと思います。先ほどの経企庁の前文にもありましたが、貨幣的に評価することが目的であれば、「評価」「偉い」になりがちなんです。日本語の「評価」というのは、プラスのイメージのある言葉ですよ。でも、中立にとらえるべきだと思います。どうも日本では「偉い偉い」つてほめてしまうような、そういう傾向がある。その辺は、この数字を使つて発言する者が気をつけなければいけない部分だと思います。経企庁も専業主婦を大きく取り上げたように、そういう意図があることは明白なんです。だから、アンペイド・ワークの測定というものがどういう意味があるのかということをもっと押さえて、男女平等をめざすあらゆる政策に結びつけていかなければならない。時間で測つたり貨幣で測つたりするのはそのための手段にすぎないのだ、ということを確認しなければならぬと思います。

先月、韓国でこの問題に対する国際会議が開かれたんですけれども、そこではちゃんと「ペイド＆アンペイド・ワークを国の政策に組み入れること」がテーマとなっています。アンペイド・ワークだけと

りあげられているんじゃないんですね。実はアンペイド・ワークを見なければ、いまのペイド・ワークのあり方は全然改善できないし、女性の低賃金の問題も男性の働きすぎの問題も、アンペイド・ワークの世界をみなければわからないのです。アンペイド・ワークの測定がペイド・ワークの世界を含めた社会のあり方を変えるために行われるんだということを確認しておかないと、そういうふうには「偉い偉い」ということで終わってしまうというような気が私します。

## 調査項目を見直す予定は？

Q3 社会的活動で男性が六〇%というふうに出てますが、これだけではなくて、社会生活基本調査の項目すべてに問題があると思うんです。この調査項目を見直すという動きはあるんでしょうか。

藤原 社会生活基本調査については、研究会を作って新しい調査項目をどうしようということはやっているんですが、外部にはなかなか見えてこない。学会や研究者が「こういうふうに変えてくれ」という要望もずっとやってるんですが、これは国勢調査にしても、労働力調査にしても、家計調査にしても、問題はもうたくさんあるんですね。政府がそれをやっているわけだから、私たちはそれを使った数字しか見られないので、そもそも取り方がおかしい、ジェンダー・ギャップがあるんだということを私たちが言っていないと。でも、なかなかウンとは言わない。

少しずつでも変わったところはあります。重要なのは、例えば、社会生活基本調査に介護が今回の調査から初めて入ったんですね。それまで介護はなかったんですよ、項目自体。だから介護を何時間やっているのかわからなかったんです。それが入ったので、少し改善されたことは確かです。

## 無償労働負担を男女平等にするためには？

Q4 男性にこういう内容をわかりやすく説明するのが重要だと思うのですが、どういう言い方がいいのでしょうか（男性参加者から）。

藤原 言い方ですか、それは……わからないですね（笑）。無償労働を男性とどのように分担していくか、ということを考えますと、これはよく言われることですが、あまりにも男性の労働時間が長すぎて、仮にしたくてもできないのだと。だから労働時間の短縮が必要なんだと言われているのですが、日本の時短の動きというのは、一日当たりではなくて「年間」なんです。二千三百時間を千八百時間にしようとか、あるいは週休二日制、週四十時間制の確立など、週あたりで考えられているんですね。そういう話ですと、家事や育児というものは毎日のものなんで、一日当たりの労働時間を短縮しなければまったく意味がない。それが求められているわけです。

じゃあ、時短が進めば男性が家事をするのかというと、そう単純なものでもない。時短先進国と呼ばれるドイツを見ても、やっぱりしないんですね。自由時間が増えるんですよ、男性は。余暇が増えるんですね。女性は労働時間が短くなると、家事時間が増えると言われています。意識を変えろといってもしょうがない、時短を進めてもしょうがない……じゃあどうすればいいのかというと、男女の賃金格差をなくすしかないと思うんです。

ある研究者の方がアンペイド・ワークの男性の分担率は何によって決まるのかということを国際比較しているんですが、男女賃金格差との相関がやはり最も大きいという結果になっています。つまり、アンペイド・ワークを平等に分担するためには、ペイド・ワークの世界を平等にするしかないんですね。無

賃労働の貨幣評価も結局は市場賃金で測っているわけですから、男女の賃金格差が小さくなり男性の無償労働時間が長くなれば、必然的に貨幣評価も高くなるんです。日本の無償労働の評価はなぜこんなに低いのか、ということにもつながりますけれども、男女がアンペイド・ワークを平等に分担しあうためには、賃金格差をなくすといったペイド・ワークの男女平等を進めるしかないんじゃないか、と思います。その方法しかないんじゃないか、と私も思います。

## 無償労働の数値化を労働政策にどう反映させるかが課題

Q5 賃金格差の少ない仕事となりますと、今の男性と同じような働き方、二十四時間働ける体制をとった仕事や、スペシャリスト的な仕事だったら高いということだと思んですが。私自身もそのへんのジレンマを抱えているんです。

藤原 昨日、「アンペイド・ワーク 市民・議員フォーラム」というものが開かれて参加した方もいらっしやと思います。今年一月に女性国会議員を中心に、市民、研究者、NGOのグループなどが参加して、「アンペイド・ワークの問題を政策に反映させよう」ということを目的につくられたものです。

そのフォーラムにマスコミの方も見られるのですが、朝日新聞の竹信三恵子さんが経企庁の発表のあと、コラムを新聞に書いています。これは経企庁のリポートなので、記者発表の場には経済部の記者しかいなかったらしくて、だからああいう新聞発表になったんですけど、竹信さんは今は家庭欄の記者なので、後から書かれたコラムです。最後にこういうふうに書かれています。「先日、労働基準法の女子保護規定をはずす改正案が国会を通ったが、無償労働の一割しか担っていない男性の今の働き方に合わせて労働時間を決めれば、これらの膨大な無償労働は宙に浮いてしまう。見えない労働を視野に入れた、

公正で効率的な政策作りが急務だ。今回の経企庁の測定は、こうした取り組みに向けた第一歩としなければならぬ。まさに私もそう思います。不十分ではありながら、このような形で明らかとなった無償労働を、先ほどの「偉い偉い」ではなくてどのような政策に結びつけるのか、今の無償労働を担っていない男性の働き方を基準に労働世界が決められてしまいますと、全く女は参入できない。この測定の結果をあらゆる政策に結び付けることが重要で、何より労働政策に反映させなければならぬ。このレポートは無償の労働がどのくらいあるのか、貨幣で換算すればいくらになるのか、といったことを数字で明らかにしたものにすぎませんので、どのような政策に結び付けるのかこれから問われるんだと思います。

(一九九七年七月十二日 杉並区女性団体連絡会主催 第二回講座より)

(注 五四ページからの「AGORAZEIN」は、この藤原さんのお話の前に開かれました。報告書の全文を読み、藤原さんのお話を伺った後でしたら、内容はかなり変わったと思います。)

## アンペイド・ワークについて講師を「お前」します

〈無報酬労働の数値化を考える会〉では、アンペイド・ワークについて、講師を派遣します。  
ご希望の方はご連絡ください。

(連絡先) 〒270 松戸市常磐平西窪町22-10

TEL 0473-87-8574 野村三枝子

# 「男女共同参画白書」 から見えてくるもの —アンパイドワークを中心に—

〈出席者〉

加藤登紀子／野村三枝子（無報酬労働の数値化を考える会）

しまようこ（心理学者） 田村伴子（農業雑誌編集者）

斎藤千代／芦澤礼子（あごら編集部）

1997年7月9日 あごら新宿事務所

司会（芦澤） 総理府から、九七年度版「男女共同参画の

現状と施策」、通称「男女共同参画白書」が発表されました。昨年までは「女性の現状と施策」、通称「女性白書」という名前でした。その中に、今回初めて「アンパイド・ワーク」についての報告が加えられましたので、五月に発表された経済企画庁の「無償労働の貨幣評価について」も含めて話し合いたいと思います。

この「白書」について、いろいろ批判も出ているようですが、ただ今回の白書の全文はまだ出ていないので、とりあえず皆さんには記者発表の時に配られた資料だけをお目にかけました。まず、白書全体についての感想を――。

「参画」ということばから点検したい

しま 私は「共同参画」という行政用語がすごく気になる。というのは、建前だけなのに、もう男女平等は実現したという意識をPRしたい感じを受けるんですが、偏見かもしれないけれど。

芦澤 実際はそうなっていないにもかかわらず……。

しま 男女共生という概念を九〇年あたりから出した、あ



れも危なっかしい。共生というのは本当に平等になつてい  
なかつたら成り立たないものなのに。共生は、「役割が違う  
別の種類だつて認めたうえで共に手をつなぐ」という……  
動物の共生もそうでしょ、違うものが助け合う。男女で使  
うのは危ないって、私個人は思っているのね、役割分業の  
肯定になつちやうから。

芦澤 男女の賃金格差が是正されたわけでもなく、議員の  
比率が半々になつたわけでもないのに、共生とか共同とい  
うのはまさに目くらましの話だと思ふんです。そのことも  
含めてこの男女共同参画白書には、実は現状は参画ではな  
いということが、はからずも書かれていると思ふんですが。  
しま 参画、というのは皆さんはどういうふうに思いま  
すか。

芦澤 共に計画し、共に実行するつていうことですよね。  
しま 行政と市民、と言つてもいいし、男と女とかいろい  
ろあるけれど、立場が違つても平等、対等ということがな  
いと、参画とか共生は使えない。

芦澤 そういう現状がまだないにもかかわらず、使うとい  
うことは「もういいじゃないか」というふうに言いたいん  
だろふと思ふんです。

## グローバルな視点で「格差」を考えたい

田村 しまさんが今おっしゃったことに加えて、女性の賃  
金は男性の六割しかないということですが、これをたとえ  
ば男女間だけでなく、賃金格差ということで見ると、  
日本はものすごい差がありますね。たとえば公務員の給料  
を男女比較した場合と、一部上場や中小企業とか農業を比  
べた場合にどうなのかということがあつてでしょう。いま世  
界中が弱肉強食の世界になつてゐる。そうすると男女の賃  
金格差つていうことだけで見えることだけではなくて、人  
びとが共生していくという前提をとことん考えていくん  
だつたらば、それも世界を視野に入れて、より平等な社会  
というのはどういうことなのかということをとらえずして  
男女の問題というのは本当は出てこないと思ふんです。  
白書を読んだ時に変だと思つたのは、どういふ社会を作  
ろうとしているのかというのが見えないんです。

しま 前提に今の競争中心の資本主義社会の肯定がある。  
今のような競争原理の資本主義構造では、平等は見えない。  
野村 それで、ここにきて「行革」が進行中なんです。

もうひとつ地方分権。ふたつの大きな波の下に巻き込まれ

て男女共同参画室なんてちっぽけな室が、海底に押しやられちゃうんじゃないかという危機感がすごくするのね。中央政府で外国との比較にかなり敏感なところできえ、や々と官房長官が男女共同参画白書を出したくらいで、男女共同参画推進本部というのはどれくらいしのびのび働いてくれるか、まったくわからないですよ。

しま 期待なんかできない。

野村 ここで女の人々が本当に踏ん張ってこれをもとに地方分権をやってくれとか、男女共同参画室をもっと大きなあたちで残すような行革をやってくれと声を出していかないといけない。審議会の委員もほとんど男ですから。

しま 複数の女性が入らないとね。

野村 男性側の意見にうんうんって、うなずくような人ぐらいではだめ。あれはトークニズム(女性も入れましたよ)という口先だけのことだと思っんです。

しま 一人がパワフルならいいけれど、そうではないし。

野村 週刊『東洋経済』の四月二十三日号かな。臨時増刊号に審議会全委員の名前が出ていたんですが、男もそうだけれど、女の人でも一人が二つ三つ兼任してるの。エー、な

んでほかの人を推せんしないのって思っちゃった。

芦澤 もつといういろいろ人材はいるはずなのに。

## 「地方分権」にも危うさが

しま 共同参画だけでなく、地方分権も危ない。本当に分権できるパワーが育っていればいいけれど、まだ分権と言っても上から政策を出してくるとみんなそれに飛びついてやる状態でしょ。けさ、ある県から電話がかかってきたんです。男女共同参画政策になったので、それをPRする何かをやって下さい、と言うわけね。上から出された政策実施のために助けて下さい、と言うのでは分権じゃないでしょう。相当危ないものになっている。

芦澤 現場の人も何がなんだかわからないまま、とにかくやれっていうような。

しま 女性問題に関心がなければ、普通の人でもあんまり男女共同参画なんて身近じゃないでしょ？

野村 今いろいろなことが同時進行しているけれど、東京都の選挙を見てもわかるように、選挙制度自体がすごく陳腐化しちゃった。誰がやっても同じじゃないかといった制

度っていうのはこわいですよね。

しま そういうムードが教育の中ですでに芽生えている。

私たちの頃は、選挙はぜったい行かなければって教えられましたものね。

野村 そうです。なのに選挙権は占領軍からもらったと思っている人が大部分。女性の運動を戦前からずっとやってた人、市川房枝さんとか、参政権運動を苦労してやってた人がいたおかげで、やっと参政権を得たのに……。

田村 「選挙は義務ですよね」って言ったら「馬鹿者」って怒られたことがあります。権利なんだ、その権利をどれほどのいのちと引きかえに獲得してきたかって……。

芦澤 選挙に行かない人に選挙税を課すとか(笑)。それぐらいしなきゃ日本人は目覚めないんじゃないかって。

しま そういうユーモラスな施策を出したらいいのよね、ニヤニヤしながら政府が。棄権税っていうのがいい。

野村 ある政治学者が、全員が選挙に行く社会はおかしいって言うんですけど。

芦澤 直接的な意思表示、たとえば住民投票とかは意味がある。産廃のなんかすごかったですよ。

野村 だから自分の身に関わってくればやるのよ。みんな

そこそこ豊かで生活に危機感がないんじゃないの。

しま 危機感がないとやらないということは、教育程度が低いということだと思う。自分の身にはかかってこなくて、世界のことを考えるというのが教育でしょ。

芦澤 学歴だけで、教育になっていない。

野村 ゲームと同じで、バーチャル・プレイはできるけれど実際に何もしない。

加藤 入りたい人がもつと出てほしいですよ。

野村 選挙運動の恥ずかしさ、ああいうことでは出たくないって思うよね。連呼したり、電話してお願いしたりね。

芦澤 付き合いのない友達から電話がかかってきたり(笑)。

しま そういうかたちでは良識のある人は出なくなる。残念ながら入りたい人は立候補しない。

## 逆コースの中から生まれた「女役割」

野村 敗戦になって、私が新制中学の時が一番理想的だったんですよ。それがいつの間にか逆コースになっちゃいましたね。どんどんどんどん管理教育に……。

芦澤 おかしいな、と思い始めたのは、いつ頃ですか。

しま 分岐点は、昭和三十三年頃じゃないですか。

野村 そう。勤務評定が導入された。昭和四十年には「期待される人間像」が出て、「期待される人間像」が「企業から期待されるような人間像」になっちゃったの。

しま 向こうから見ると着々と、という感じですね。

野村 そうなんでしょうね。やっぱりタテ社会がすっかり残っていて、またそれが台頭してきたのね。

芦澤 本当に戦後のわずかな間なんですな。

しま 私は高校まではよかったって思ってるんですけど。

野村 新制高校になって一応最初は、自主カリキュラムというかコース別で自分で全部選択できた。それが無理に新制高等学校を作ったんで、いろんな格差がだんだん出来てきて、中学の進路指導がその選別になっていった。

芦澤 偏差値とか出てきたあたりですか？

野村 いや、アチーブメントテストがあって、その合計点の平均点を出したの。偏差値はそのあと。

田村 共通一次の頃ですよ。

しま 戦後そういうふうにならずかな期間に教育が変わっ

た。その変化に抵抗できる先生たちが育つ間もなかったんですよ。

芦澤 結局は憲法と同じで、押しつけられたという意識。

しま 先生自身は当時、生徒から見ても学力がなかったと思う。だけど、先生たちが勉強し直すから、一緒に勉強しようというメッセージは生徒にとって強烈ですよ。新制中学ができて、資格がなくても教師になれたというのはあったと思いますけど。

芦澤 朝鮮戦争が契機とか？

しま 直接ではなくて、朝鮮戦争が契機で経済が成長したでしょ。だからそういう間接的な影響で。

芦澤 GHQの占領政策自体が変わった……。

野村 マッカーサーが「老兵は死なす ただ消え行くのみ」と帰っちゃった。それで、旧日本の伝統、国体維持がまたもり返ってきた。

田村 そして高度経済成長が始まって、東京オリンピックの頃には農村から人びとが労働力として駆り出されて地方がめっちゃめっちゃになった。

野村 農家の次・三男がサラリーマンになった。それを住宅公団の作った団地に集めて、新しい地域社会をこさえた

わけね。そこにはただ建物が建っただけで、保育所はない、医者はいない、ということで、そこから地域活動が始まった。アンペイド・ワークなんて言葉は知らないけど、すべて自分たちの、お母さんたちのグループでやってきたわけ。中学校はプレハブでものすごい灼熱地獄。で、プレハブ解消運動、図書館運動、もうぜーんぶやってきた。住民のアンペイド・ワークで地域社会の基盤を作ったのに、その評価はみんな無視されたわけ。その無報酬労働に対しての怨念みたいのがある。

しま それは怨念ではなくて、誇りだと思っていいる。

## 評価されない「主婦のキャリア」

野村 もちろん。冗談めかして怨念と言ってるんで、たとえば主婦の経験をキャリアと認めない。介護の経験があっても、福祉介護士は資格をとらないと採用されないとところもある。子どもを何人育ててもなんのキャリアにもならない。家庭にあるものでチョコチョコと惣菜を作るという才能も、リフォームの才能も、いっさい資格として認められない。何年やっても主婦は主婦で、金をかせぎ市場価値を生

まなければ、社会的に低い地位におとしめられる。統計の陰謀で、お金を稼げないのだから働いていない、と思わされてきた。

それは経済学者にも言われた。たとえば磯野富士子さんが一九六〇年に主婦論争の口火をきいたら、経済学者が気の毒そうに「主婦労働は有用だが市場価値を生み出せないから経済学的には価値は生まれない」という論争になったけれども、近年これが大きく変わってきたわけです。

しま 私は経済はまったく素人だから、間違っているかもしれないませんが、経済的な交換価値のあるものしか当時の経済学の展望には入ってないんだから、主婦労働はどんなにりっぱなことをやってもペイド・ワークにはならない。ここに入れようっていうのではなく、別の発想をしたほうがいいと私は思っているの。「私は何年主婦をやっているとも認められない」んじゃないって、「私は主婦業なんてやってませんよ、個人としてやっているけれども社会的に主婦をやっているわけじゃない」んだから、それを交換価値として認めるというのはちょっと危ない面もありはしないか。つまり主婦労働か、職業労働かの一方選択を正当化しかねないから。むしろ「支払い労働」の意味を見直す経済学を作り

直す必要があるんじゃないか。

野村 それを今までは常に警戒されて、特にオーストラリアかな、専業主婦の連盟ができたんだって。そうしたら「そういうのができちゃうと危険だ」という指摘をされた人がいた。人口が少なくなってくると、今まで専業主婦でいられたっていうのはむしろ社会が豊かであったから、つて落合恵美子さんはじめ、おつしやっています。「これからは専業主婦がもう消えざるを得なくなる」と。社会全体が右上がりではなくなっているから、男も女も平等に働いて、男も女も平等に家事をする時代がいやでもおうでも来るのではないか、というふうに予測していますね。

加藤 自由に選択できる状況だったらいいんだけど、選択できない状況に追い込まれて選択せざるを得なくなつたところが問題でしょう。男も女も自由に選べての選択の結果ならまだいいけど。

## 農業や福祉も、ほとんどアンペイド・ワーク

田村 何に對してお金を支払うかというのは、やっぱり今までの経済の枠の中で言われてきたと思うんです。私は今

農業雑誌の編集をしていて、農家の女性たちと会うことが多いんですけど、たとえばお惣菜を作る能力とかが価値として認められないできましたが、今その女性たちが家庭生活の中で身につけた技術や、女たちに代々伝わる知恵を生かして自分たちの特産品をつくったりしています。

農業なんてものは、タイムイズマネーの観点から言ったらまったく効率的じゃない。福祉も教育もそうだと思うけれど、能力も時間もものすごく投資されなきゃいけない。そうすると、何がペイドで何がアンペイドかということを考える時に、どのような経済の仕組みや分配を考えたらいいんだろうかと、考え込んでしまいます。主婦の活動だけではなくて、活動全体を「お金が支払われているもの・いないもの」と分けた時に、何を基準に数値化するか、前提に大きな問題があるんじゃないかと感じるんです。

そういう視点では、農業は金銭に換算できない。しようとするばすごくコストがかかる。そういう簡単に比べられないものを視野に入れて、女性たちの活動やこれからの男女のあり方はどうなる、どう考えていったらいいか、いろいろご意見をうかがわせていただければと思います。

野村 農家の女性の労働については、家族経営協定ってい

うのがあるそうです。今それを締結するように、という動きがあるということですね。ただそれが、嫁さんの給料というパート労働は大体八万ぐらいだから、嫁さんも八万円ぐらいでいいんじゃないかと、市場の労働価値が影響しているということなんで、その辺がちよっと怖い。

田村 いま、政策的にも農家の場合、株式会社にして、給料制にしていこうという方向に行っているんですね。四十歳になっても五十歳になっても、嫁は自分の財布を持たせてもらえない時代から、働いた分だけきちんと自分の報酬として得ることができるシステムを作ること、女性たちの発言力や行動も広がってきました。個人の労働に対する報酬を支払うことは、社会の前提だと思いますが、そうすると簡単に評価できない家事労働とか農業生産にかかわることを無理やりお金に換算してしまう方向で、今の社会の経済の中での価値にあてはめていいんだろうか、と思います。今の社会の経済的枠組そのものに対して、対抗する要素を含んでいるように思えるからです。

野村 UNDPの『ジェンダーと人間開発』によると、お金に換算できないものは友情とか健康維持とか、いくつでもあると列記しています。有償労働も無償労働も同じ価値

を持つと考えて、たまたまそれを金銭に換算して比較して無償労働も有償労働も両方大切な労働として認めました。そしてHDI（人間開発指数）、GDI（ジェンダー開発指数）、GEM（ジェンダーエンパワメント測定）の三つの指数を出したのです。だからお金を払うための計算ではまったくないのです。たとえば洗濯なんかの場合洗濯機がやるわけで大して手はかけないと思うけれども、付随するものとして干したり取り込んだりアイロンをかけたり、収納したりボタンをチェックしたり、「洗濯」ひとつでも案外細切れの時間を足していくと大変な時間になる。その分をもし働いて賃金を得るとしたらかなりの額になるので、一つの評価法として貨幣換算ということが出てきたんです。

## 「妻が働くこと」というPRが問題

しま アンペイド・ワークを誰かがしているという前提があるからそうなったんで、アンペイド・ワークを子どももおとなも夫も妻もしていれば、その部分をペイド・ワークと比較することはなくなる。実際は専業主婦が出てきてしまったからやむを得ずそういう比較をする……。

野村 特に日本型の企業経営は、うまく専業主婦を利用している典型的な例なんです。男性は終身雇用、年功序列で競争させ、女性結婚までの三、四年の給与体系で昇進・昇給の道を閉ざされるから結婚退職を選ばざるをえなくなるシステムになっているのです。

芦澤 それを税制とかで企業を国がバックアップする。

野村 妻という扶養者を持つ夫の税金を軽くして、妻には「百万円の壁」を設け、健康保険料を夫が払えば扶養家族も自動的に保険の給付が受けられるし、厚生年金も夫が払えば妻にも年金がつくようにした。内助の功を評価するために、家族手当とか扶養手当——といっても、たかだか二万円くらいだけ——をつけて、妻は家にいて夫をサポートせよ、というシステムをつくった。

しま 「女は扶養される者」にしてしまったわけ。

野村 「百万円の壁」なんて、あれもひとつのアメなんです。働いたほうが生涯賃金が高いのだけど、年収百三十万円を超えたら健康保険も年金も自分で払わなければならぬというかたちで、「妻が働けばソン」という印象を与えている。長い目で見れば、生涯賃金に必ず差が出てくるのに。

しま 自分の収入の意味づけは、日常の精神生活にも影響を与えますものね、大事なところですね。

野村 それなのに、熟練のパートの人は、百三十万円をオーバーするので、年末の多忙な時期に自分で調整しちゃって、働かないんですって。だから不本意というか、働きたい女性の意志と無関係に労働意欲をそぐ現実がある。

田村 会社側にとっては、正社員にはものすごく費用がかかりますからね。社会保険、健康保険、年金、雇用保険は会社が半額負担、交通費は全部だと、もう損だから……。野村 だから人材派遣がはやるのはあたりまえじゃない。今後は中核の人だけ正社員にする傾向が強まり、男性もパート化するでしょう。

しま 共同参画というけれど、今ある男中心の「男制」でいくって感じでしょう。今のところへ女も入れるよ、では、共同参画じゃないよね。今の状況も変えるということが含まれないと。  
(斎藤さん遅れて出席)

## 「仕事の中のアンペイド・ワーク」も問題

加藤 さつきUNDPのジェンダーの報告書がありました



よ。UNDPの表紙に出ている諸外国のアンペイド・ワークの平均値の図を白書でも真似して取り上げていますが、男性が担っているアンペイド・ワークの量を比べると日本の男性は圧倒的に少ないというのが表されてるんですね。外国と比較してもグッと少ない。全体のたった一割です。いかに日本の男性が無償労働をやっていないか……。

斎藤 日本の男性は世界でも稀な長時間労働。だから無償労働をやれないという現実がありますね。一方、日本の男ぐらいアンペイド・ワークをやっている国はないと思うんです。無償残業、通勤時間の長さ、心ならずも付き合う夜のお酒とか、日曜日のゴルフとか……。

しま アンペイドなんだけどペイド・ワークの延長でね。斎藤 そこに自分たちが平気で取り込まれているから、女のアンペイド・ワークも当然と考える。

しま 仕事の中のアンペイド・ワークという概念をもうひとつ入れたらいいですね、日本の男の場合。

加藤 ただ経済企画庁の無償労働に関する研究会の概念でいくと、移動時間の中で、無償労働に付随する移動は無償労働と考えるけれども、通勤時間のように有償労働に付随する移動も無償労働に入らない。「第三者に代わってもら

ことができる仕事は無償労働」という基準なんですね。

野村 無報酬労働の数値化ということもスタートについてはありで、いろいろな学者の間でも議論が分かれるところがあります。特に日本の場合は、風呂敷残業とかサービス残業とか、いろんな面での経営慣行がある。ですから世界的な水準表があってもあてはまらない。外国の方が日本企業に就職して一番困るのは、その問題ですって。「これは残業である」と外国の人の頭で思うわけ。ところが日本的な慣行では残業ではない。昇格や異動なんかも飲み会の席でなんとなく根回しができていて、その飲み会に行かないとわからない。しょうがないから付き合う。それを女の人はやらないからダメだとか、企業の中で出世しないとか。

しま 女はやらないからいいんですよ。

芦沢 日本の的な習慣、慣行。その悪循環をどこで切るか。

加藤 日本の場合、特に通勤時間が長いし、それをどうするかっていうのをハッキリしないと。

野村 GNPに出てきている数字は限界がある。各国で習慣も違うし、宗教も違うし、違いを含めて世界で比較できるような数値化の方法を探れると、世界行動計画では言っているわけです。私たちが、こういうのもアンペイド・ワー

クだよ、これもそうだよ、と言っていけばいいんです。経済企画庁が使った第三者基準がおかしいのなら、提言として出せばいい。今回出した数値については、「第三者基準ということでやりましたよ、通勤時間とかは入りませんよ」と断り書きで書いてあります。

斎藤 移動の時間というのは、生活時間を時系列的に書いていけば、何のための移動でも、移動すれば必ず出てきますよね。仕事に行こうとボランティアに行こうと、計上されるべきものなのでは。

しま 前後の行動でペイドとアンペイドのどっちにその時間が入るかわかる。

菅澤 会社に行ってタイムカードを押した時からペイドが始まるわけですから。

しま 賃金と時間の矛盾ですよね。時間は使ってるけど賃金には入らない。

加藤 ある女性グループで、仕事を始めたスタートの時間を、家を出た時からにしているところがあるんです。通勤時間も仕事の時間に入れるっていう測りかたをしていて、なるほどと感心しました。

経企庁の研究会は概念的には無償労働に付随する移動は

無償労働という考えですが、今回の元になった総務庁の社会生活基本調査では、移動の内訳が把握できないので、移動はすべて無償労働に入れなかったようです。

野村 社会生活基本調査は、もともと余暇時間の調査なんです。それを無償労働の数値化に用いたというのは、いま統計として公的に出ている生活時間は、あとNHKの日本人の生活時間調査だけだからだそうです。家事の種類や、地域の冠婚葬祭とかに使う時間は、按分して出したそうです。本来はEUみたいに時間をかけてプレ調査をして、ジックリやるべきだった。北沢洋子さんなんかは、拙速に過ぎたなんて言ってるしやる。

菅澤 九一年は何人ぐらいを対象にやっただんですか？

野村 NHKの調査は抽出調査で九万人。社会生活基本調査のほうは二十四万七千人。

斎藤 考えてみると、ペイドとかアンペイドという問題が発生したのは貨幣経済になってからでしょう。

野村 有償労働は貨幣で支払われるので、無償労働も貨幣に換算しないと比較にならない、ということとで換算したままで、何もお金を払うということではないのです。GNPのサテライト勘定、国民全体の総時間を社会的時間という

ふうになして、社会的時間の使い方を国民的な数値に直して比較するということが目的なのね。

斎藤 それなら、全部一時間当たりは千円なら千円で一律というのが本当だと思う。

野村 田村さんがおっしゃったように、職業によつてすごい賃金格差があるということがおかしい。たとえば大企業でトップに上がる人は何億という生涯賃金をもらうのに、農業で汗水たらして働いても低い収入しかない。同じ時間を経過しているにもかかわらず。社会の矛盾が時間の使い方、その人の人生の時間の使い方とも左右しちゃう。

斎藤 人生でその人がどういう喜びを得ているかということとなら生きていく上での指数になるのでは。何億もらつても、魂を売るような仕事だつたら、私には無意味ですね。

野村 そうです、当然そういつた考えになりますよ。たとえばニカウさんつていう裸の人がアフリカから来て、文明社会を経験させて笑いのものにしたことがありましたね。でも、ああいう生き方のほうが幸せだと思えます、たしかに。ODAのお金もGNPの何%という数値だけが使われて、本当の人間の暮らしの援助になるのかしら、と思う時もあります。

## 「主婦の働きは二百七十六万円」への街の反応は

斎藤 テレビの街頭インタビューで、主婦の働きが年間二百七十六万円という数字が経企庁から出て、どう思ふかつて聞いてましたが、主婦の半数ぐらいの人が「それは安すぎる、どんなに考えたつて六百万円くらいだ」と言つてるので、びっくりしました。とてもリッチなんだな、と。

しま 主婦が六百万もらつていいと、自分で思っている？斎藤 と、テレビの画面では半分ぐらいの人が答えているんですよ。実数として半分かどうかはわかりませんが。

加藤 ただ男性は六百万ぐらいもらっているわけでしょう。ある程度の年齢にいけば。

野村 厚生省の国民経済基礎調査によると、今年の男性の平均年収は約六百万です。

しま 六百万円男性が働いているといっても、妻が専業主婦だつたら二人で働いているのと同じでしょう。それを主婦が自分も六百万というのはやっぱり違うと思う。

加藤 たぶんその時の主婦の感覚は、自分はアンペイドだけど、意識の中では夫とまったく同じでいいんじゃないか、

という認識が先行しちゃったと思うんですけども。

野村 私は街頭で聞く意見というのは、テレビの画面を作るために聞いていると思いますよ。

斎藤 咄嗟に聞かれて咄嗟に答えたことは、その人の潜在意識を示していると思う。パツパツと六百万と答える人が多いのに私は驚いたのね。その一方、二百七十六万なら、OL時代の年収より多いと答えた人もいました。

しま 私的労働をどうしてお金で測るのか。プロセスとしてはよく意味がわかりますが……。

### 「貨幣価値に換算」という発想の根本にあるものは

野村 だから、あくまでジェンダーということを土台にして話をしていかなないと。

しま ジェンダーっておっしゃるけれど、その場合「男というジェンダー」でしかないでしょう。お金に換算しちゃうと。男というジェンダーだけではなくて、女というジェンダーの両方で考えるんだったら、別の尺度が必要。

自分のためにやっている、その部分をペイド・ワークに換算しないと比較できないというのは、男中心ジェンダー

の発想だと思う。

野村 「ジェンダー」ではなく、「ジェンダー・フリー」の考え方で、男も女も有償労働と無償労働を平等に負担できるような世の中にしていきたいと思うんです。その際に、男性と女性の賃金の格差もなくして欲しいという前提のもとにやっていくなら、私は話としていいと思うんです。

しま その前提がないんです。女の無償労働を賃金化しちゃうたら……。

加藤 現在の男女の賃金差を反映した形でやっているのが問題であって、完全にジェンダー・フリーの視点に立った貨幣評価みたいな方向に向かって開発していくべきですね。日本は男性の賃金が圧倒的に高いから、貨幣換算では、かなり差があるのに、その機会費用を貨幣換算した場合、実際の男女の差より緩和されて貨幣評価が出ちゃうので、実際はまだ正確に反映されない。外国の場合は日本ほど賃金格差のひどくないところも多いので、日本ほど問題にならないと思うんですけど。

しま 女も男も、無償であろうと有償であろうと労働は一時間千円だというふうにやればいいんじゃないかしら。

野村 見えない労働を見える労働にする目的が失われてし

まいります。

斎藤 睡眠時間が何時間あるとか、逆の視点で調査をしたほうがはつきり見えるかもしれない。

加藤 睡眠時間を比較するとすごくよくわかと思う。いつも私は夫より三十分くらい少ないんですね。それが平均してパターン化してるから。

野村 このあいだの統計調査でも、主婦で仕事をやってる人が一番睡眠時間が少ないのね。自立する女は仕事も家庭もで、睡眠不足になっているという統計が出ている。

加藤 主婦の場合でも家事とかボランティアとか、全部合わせるとかなりの時間を使っている、ほんとに遊んでる時間って夫と比べるとすごく少ない。

野村 男の人は余暇時間って確かにあるんですね。

斎藤 だけど、昼間のデパートは女の人ばかりですよ。

加藤 男の人たちは夜遊べるとか。女は昼しか遊べないというところも一方にはある。

野村 カナダのオンタリオ州では、同一価値労働同一賃金の法制化が進んでいて、同じ価値の労働なら男性も女性も同一賃金だと。そういったようなことが日本ではまだまだ不十分です。女性職・男性職があつて、女性職のほうが大

概賃金が低いという現実があります。企業の賃金体系をみても、男性は全部右上がりなんだけど女性はある程度までいったら横這いなんです。

しま 賃金体系の違いじゃなくて、管理職への昇進が少ないことから出てくる差でしょう。あと勤続年数と。

野村 企業によつてももちろん違いますが、昇進の機会もないのね。女性にはもともと。

芦澤 コース別人事もあります。総合職・一般職とか。

## 男女のアンバランスの解消を考えよう

斎藤 支払われるべき賃金の話に戻すと、私はアンペイド・ワークという視点で見るより、同一時間・同一労働・同一賃金を押し進めたほうが現実的な効果があると思う。しま ペイドとアンペイドがイコールだとおっしゃるなら、なおさらどちらも千円でやらないと。

野村 そういった視点があれば、どんどん提言していった下さい。

斎藤 家庭の掃除の時間がビルの清掃会社の値段と同じといった計算の仕方は、納得いかない。「職業」として清掃を

する時の圧迫感、緊張感は、家事としての「掃除」とはまったく違うと思う。

野村 だからそれもおかしいと言っている。

斎藤 そうしないと、また働く主婦対専業主婦問題になってしまう。八〇年のコペンハーゲン会議の時は、NGOの会場にも「主婦にも賃金を」というテントが出て、女性たちの間で論争になったんですね。

野村 そこで分断された。オーストラリアでもニュージーランドでも女性には「パラサイト」であるということで大問題になったということもありますしね。

斎藤 無償労働の統計が日本でも初めて出たというのは意味があると思うんです。でも、「主婦業にはこれだけの価値がある」と言っても、本質的な解決策にはならない。生産労働に割かれる時間と、そうでない時間のバランスが、男も女も基本的に同じになれば、兼業主婦が一番長時間働いているという問題も解決される。そういうふうにはこの調査を使っている。

野村 ILO156号勧告にも出ている「働いている女性の家庭では、夫にもっと家事を分担させる」——これは個人の努力でできると思うのね。

斎藤 それには男女の労働時間を等しくしないと。

芦澤 家にはないと家事でできないですからね。

野村 専業主婦も働きたいと思っても、女性が低賃金で働くより、夫に目一杯働いてもらって妻は家を支えるほうが得だという人もいますね。

しま それを「得」と言っているのは、問題が全部崩れてしまうと思うんですね。

野村 だけれども、「どうせ働いたって私は夫の税金分くらいしか働けない」んだったら「家の中で夫が快適に住めるように、私は無償でもいいから主婦の能力を働かせて完璧な家庭をつくる」という人や、余暇に社会運動をする人がいたっておかしくないと思うんですよ。

加藤 そういう人もいるんだけれども、主婦が自己実現できる仕事が再就職できちゃんと保証されるように社会を変えていかなければいけない。アンペイド・ワークへの評価が欲しいのは、やっぱりそっちに行きたいんだけどなかなか行けないから、これをきつかけにそっちの方へグッと押し進める契機になればいいと思ってるんですよ。主婦が単純作業ではなくて、自分のやりたい仕事で自己実現しながら、男性と同じような分野へも同等に進出できるという社

会をやはり作っていないか。

しま その場合、男の働きをもっと低めるという視点がないとダメだと思うの。私は男と同じように働きたいなんて思っていないし。

加藤 そうそう。過労死の社会を認めるというのではなくて、もっとオルタナティブな働き方になると思う。

斎藤 男の影の部分もちゃんと見たほうがいいと思う。過労死は大変な問題ですね。男性管理職の自殺も年々増えて、去年は四七八人も自殺してるんです。職場は主婦には快適に見えるかもしれないけれど、ストレスもいっぱい。

芦澤 仕事をしたら自己実現できるか、と言ったらそうでもない。

加藤 でも、その場も閉ざされているわけですから、まずは出ていくというのでなければ。

芦澤 働きかけるべきは、政府もそうだけど企業なんじゃないかという気がしますよね。

野村 企業がやとってくれるのを待たず、自分で起こす「起業」にすごく関心が集まっていますよね。『アントレ』っていう雑誌が創刊されたり、商工会議所でも無料講習会を開いている。でも、それが即ち収入になるかというと、二十

四時間労働になったりして、これも結構たいへんです。

斎藤 いま「起業ブーム」ですが、一つの成功例の影に数百の失敗例が出ていますね。失敗してでも何でも、トライすれば、そこから現実も解決策も見えると思います。

『女・エロス』の舟本恵美さんが、ある集会で「私は三十年代黙々と会社のOLをやり続けている。それが私にとつての女性運動だ」とおっしゃったのを聞いて、感銘を受けました。一つ一つ誠実に実行してこそ、女性の地位は向上する。誰かがうまい汁吸うというんじゃないくて、みんなでどれだけシェアできるかを考えて、そういう理想を具体化していくことが、結局は近道なのではないかしら。

## 「無報酬労働の数値化」は一つの切石

野村 だから私たちは、アンペイド・ワークを切り口に女性運動をやっているわけです。今回杉並でも講座をやりましたけど、まずジェンダーから入ったのはそれなりに理由があって、それをふまえた上で、「養われているから夫に殴られてもしようがない」というんじゃないくて、「私もそれなりの働きをしているから、決して卑屈になることはない、

殴られるのは不当だ」というふうな声をあげられる一つの  
よすがになれば……という気持ちもあるんですね。無報酬  
労働の数値化を考える会」というと「お金よこせ」とか言っ  
てるみたいに見えますけど、絶対そんなことではないんで  
す。あくまで女性運動の一つの切り口としてこういう新  
しい概念でやっていくということなのです。

斎藤 専業主婦の家事労働が家政婦の賃金で算出されるの  
であれば、もし女の人が家事を全部やってるなら、共働き  
の主婦は自分の収入プラス家政婦の値段という、二階建て  
で評価されなければ不当ですね。

野村 総労働時間になると、ちゃんと兼業主婦の方が高く  
なっていますよね。男性よりも多くて、一番働いている。

労働もそうですが、事故の補償も問題です。例えば交通  
事故の時にどうやって逸失利益を計るのかとAIUの資料  
を取り寄せたら、(社)日本臨床看護家政婦協会の平均賃金  
から算出しているんですね。今まで政府として一切そうい  
う数値の算出をしてこなかったんで、まず第一段階として  
曲がりなりにも政府が公式見解としてこういう数値を出  
したことにについては、評価していいと思います。ですから、  
評価の仕方に欠陥があるならば、どんどん提言していきな

いと、前向きに取り組んでいます。

斎藤 死亡事故の補償額は、若い人はあと何年働ける、年  
寄りは今後何年働くということで、逸失利益——将来得ら  
れるはずの収入に係数を掛けて算出するでしょう。私はこ  
れは資本主義の象徴だと思う。たとえば住井さんさんが九  
十五歳で亡くなりましたけど、もし事故死としてこの計算  
で出すと、平均余命では、あと一、二年ということになっ  
て、男子中学生よりずっと低くなるんですね。何億円にも  
代えがたい方なのに。男女の現在の賃金格差を基に計算す  
るのは、どう考えてもおかしい。理相論かもしれないけど、  
どんな収入の人であろうと、何歳だろうと、所得や生産高  
ではなく、「一律何千万円」にしてほしい、と思いますね。

人間の価値は誰でも同じですから。

野村 労働価値の推計平均と人間国宝的価値とを比べるの  
はあまりにも個人差がありすぎるので、これはあくまで日  
本全体のGNPという指標があります。それに限界がある  
から、そのサテライト勘定として女性の貢献を測ろうとい  
うのが大前提なんです。たまたま人口で割ってああいう  
数値がわかりやすいということであって、  
あれはもともと推計値です。各県で全部違うんですね。労



働単価も労働時間も違いますから、あくまで便宜的に出したのですが、氷山の一角の数値で発表したにすぎないのに、その数値がどんどん一人歩きしている。

「国際比較ができたということだけでも功績がある」とも言われています。日本の特徴がはつきり出てきたんですね。ですから私は、三十七年間くすぶりつづけていた主婦の労働が価値のあることだとされたのは、一つのエポックメイキングなことだとは思ってます。

斎藤 一九五五年以来の主婦論争に一つの決着がついたというか、方向性は見えてきましたね。これをどう使うか、使わないかが、これからの課題ですね。

## 数値化の危険性も考えたい

しま その中に、すでにどんな問題があると思ってるっしやいますか？ エポックメイキングだけれど、それ自体に大変危険なことも内包している。

野村 危険と言うよりは、あくまでGNPのサテライト勘定として使うわけですから、個人の労働がいくらというのはたまたま派生的に出てきた推計の数値なわけですね。し

かしGNPとかGDPは、すべての経済政策の根本のデータになっている。ですから、高原須美子さんが一九七八年にもうすでにおっしゃってましたように、男性だけの数値では政策を誤るのではないか。今までの日本の政策について誤ったのは、結局GDPに頼りすぎた。ケインズ経済学の、不況になったら公共事業をやれとかいうような政策に限界がきている。世界的な傾向であるというのが一つ。

しま そういう傾向が体制に乗ってるんじゃないかということがとても気になるんです。

野村 そういう言われ方こそ気になります。

しま 北京でとか、高原さんがとか……ではなくて、野村さんご自身がどうかということですね。

野村 今まで見えにくかった女性の労働が見えてきました。税金の使われ方については、国民すべてが関心を持つべきだと思うんですね。GNPの1%が防衛費に使われるとか、ODAは何%だとか、そういった税金の使われ方にある程度女性の働きを加味した数値で政策を立ててほしい。女性の働きは、今までは市場を通ったものしかGDP、GNPには計上されてませんでしたから、そういった意味で画期的なことだと思ってます。

加藤 女性が働いている実態が統計に正確に出てなかった。労働という概念が今まで有償労働だけだったのが、無償労働も労働の概念に入れるべきだということもあるし、実際にアンペイド・ワークとして女性も——男性もですけど——働いているわけですから、まず実態を正確に統計に出すということが必要なわけです。結局統計を基にいろいろやるわけですから、実態をつかまないと社会政策などに生かせないんですよ。私たちもアンペイド・ワークばかり担わされているのは、「自分で選択したんだろう」と言われればそうかもしれないけれども、専業主婦の状態を変えよう直そうと思っても、今度は社会が受け入れてくれない。そういう実態を変えて、自分がやりたい仕事をやって自己実現したいというのがずっと心の中にあるんですね。

## なぜ「仕事を通して自己実現」なの？

しま 気になるんですけど、「仕事を通して自己実現」ということをどうして言ってしまうんだろう。これは行政に吹き込まれた感じ方だと思いませんか？

加藤 仕事もワン・オブ・ゼムだと思ふ。実際に自分は女

性運動の中でボランティア的なことをやってるし、そこでも自己実現できるんだけど、私はその道しか自己実現する道がなかった。自由な選択の結果として社会的活動をメインに自己実現するのならわかるんですけど。まず選択の道がすべての人に開かれるということが大事だと思う。

しま 「自己実現」という言葉を使うことが危ないと思うのね。そういう言葉ではなくて「私は自分で稼いで食っていきたいんだ」と。それだけでいいんじゃない？

加藤 稼ぎながら自己実現できればベストですけど。

しま 個人でいうならいいと思うんですけど、行政に向けて言うのはね……。

加藤 働くということは自己磨滅になることも多いんですよ。働き続けてきた人間は、いかに磨滅しないかというギリギリのところが続けてきているわけです。

加藤 再就職と言ったって、女性には単純作業しか回ってこないということが、非常な問題点としてあるわけですよ。それをクリアしようと思うと「自己実現できる道も開かせよう」と言うしかないんですよ。

しま そういう情緒的な言葉を行政が吹き込んだんだと思うんです。仕事もしている、主婦もしている、と偉くなっ

たように思ったら、その人は加害者ですよ。

## 主婦の就労を阻む原因は

斎藤 参考になるかどうかわかりませんが、たまたま能登に行ったとき、日銀の発表で、「石川県の一世帯あたりの貯蓄額は日本一」と出たとかで、地元テレビが県民がどう思うか聞いて歩いているのを見ました。「えっ、石川県って貧しい県じゃないの」ってみんな言うんですね。でも一世帯あたりの貯蓄額は一、六八三万円。全国平均一、三六三万円を二三%も上回っている。なぜかという、女の人の就労率が日本で二番目。それと高齢者が働いてる。「一人当たりの所得は全国十五位だけれど、家計収入は第三位。一家で働いていれば、貯蓄がふえる」とアナウンサーが解説していました。それでイラクの話を出したのです。あの国では中学出たら月給が約十五万円、社会主義国家でほとんど全員国家公務員ですから、男女完全同一賃金で五十歳近くになると男女とも三十万円。最高給取っているのがフセインさんで六十四万円だけれど「わが家では子どもが四人いて夫婦で働いているから、フセインさんの家より私たちのほうが裕福

だ」と言っているんですね。男であろうと女であろうと障害があろうと、だれでも働けるし、就労が保証されている。みんな働いてから、労働時間は午前八時から午後二時までなんです。労働をシェアしてこそ、平等があるんだな、と思いました。北欧諸国も、重度の障害がある人を除いては、女の人も全部働いている。だからこそ高度福祉国家を実現できたようですね。

加藤 ただ、職種によつては女の人に偏っているものもあるでしょう。

斎藤 それはあるかもしれませんが、閣僚の半分を女性にまでできるかというと、基本的に「専業主婦」「兼業主婦」がないわけ。女の分断がない。みんな同じ人間。女の人が働けば、男の人も必然的に家事を手伝わざるをえなくなる。賃金も男女平等になる。いま日本で、将来年金が出なくなる問題になつてますが、みんな働けば何の問題もないんですよ。税金とか年金で専業主婦を優遇している一方で、就職のチャンスを狭めている。

加藤 やっぱり個人単位で評価しないと駄目ですね。

斎藤 個人評価というよりも、主婦の就労の阻害要因は何かということをもっとクールに見ることが必要なのでは。

加藤 女性も男性も就きたい職種に就けるといふ状況がな

ければ、いくら女性が賃金を稼いだにしても、まったく同じ条件でやりたい仕事に就けるといふことにはならない。

しま 問題を整理して考えると、「主婦というシステム」をなくせばいいということですよ。

芦澤 私は「男側の呪縛」ということを考えたんです。「主婦をなくせばいい」ということではなくて、たとえば、仕事を一時休んで勉強をするとか、家事をするという選択肢はあつていいと思うんです。男の人の精神的な呪縛として「男は働き続けなければならぬ」というのがある。「働き続けられない男は落伍者」という社会的な目もある。

しま それは「主婦というシステム」があるからで。

芦澤 それは裏腹だと思ふんですよ。女が呪縛されてるといふことは男もそうだって。

斎藤 三十年くらい前に、人間の一生に関わる生産時間は平均四万時間くらいだから、女も男も四万時間働けばいいのでは、という説が出たことがあります。若いうちにバースと二十年間働いてから休んでもいいし、少しづつ振り分けてやる人があつてもいいという論なんだけど、みんなで働けば、生涯労働時間は少なくなると思ふんです。

野村 デンマークのエレン・フランさんの市民賃金という考え方もそうですね。

## 「本当の危機」をまず第一に考えたい

田村 いまこの議論をうかがつていて、これは非常に日本的な問題なんだと思いました。働かなければ食べていけない、働いても食べていけないという世界とは対極の「豊かな社会」で、その内部だけで語られてしまう危険性はないかと。アジアやアフリカの女性たちはすべて働いています。働いているけど、同一賃金どころか賃金はもらえない。主婦というものがあるとかないとかいう議論も言えないくらい厳しい状態です。死ぬか生きるか……というくらい。

もちろん今私たちは日本にいて、その中でどうしていくか、自分が生きている場で考え、そこから変えていこうとすることは前提であり、すごく大事なことで、本当に考えなければならぬことは、地球全体の中でこれだけ格差が出てきて、女たちが本当に苦しんでいるという中で、どのような方法をもつてどんな社会に変えようとするのかだと思います。だから、ペイド・アンペイドという

考え方も、やっぱり世界全体を視野に入れたところで考えるという視点がとても大事だと思います。世界の三分の二以上の女たちが本当に生死をかけて訴えていることを、常にどこかで確認しあっておきたいと思うんです。

斎藤 黒柳徹子さんがある途上国の十一歳の売春婦に「あなた、HIVが怖くないの」とき訊いたら「怖い。でも、HIVにかかっても三年くらいは生きていられる。だけど、今日私が売春しなかったら家中の者が死ぬ」と答えた、新聞に出ていましたね。仕事というのをペイド・アンペイドで考えるときに、グローバルな視点は大切ですね。

田村 私たちは、いま、自分がおかれている立場でどうしても考えてしまうし、そこが原点だからそれは正しいと思うんだけど、それをどういうふうに広げていけるかということに相当気をつけていないと、格差を生み広げるという、歴史的にみれば男性が主導して作ってきた社会を補完する危険性がある。それは日本の中だけの危険性ではなくて、世界人として生きていく上での危険性というのも含むんじゃないかなあ、と思いました。

斎藤 「本当の平等」の追求の上に、あらゆるシステムを考えていかないと、見誤る危険性があるんですね。

田村 最初に「私たちがいま危機感を本当にもっているんだろうか」ということがあったけど、その危機感を喚起するような、発見しあっていくようなやりかたで、目に見えるようにするとか、数値化することが大事なんじゃないかと思います。この結果を私たちがどう受け止めるのか、政府からも、個々人からも、企業からも、これから反応が出てくると思うんですけど、その反応を見て、私たちが日本に閉じこもることなく危機感を持てるようにするにはどうしたらいいか。そういうことはとても大事だと思います。しま その危機感が観念じゃなく、例えば「私はコンビニでは絶対買い物をしない」とか……買わないほうがいいなんて言ってるわけじゃないけど、「私は洗濯機は買わない」とか、「私は洗濯機は使うけどテレビは見ない」とか、そういうところがしつかりないと、観念として危機感を言ってもしかたないんじゃないかと思う。普通の暮らしをしていちゃダメですよ。何もできないと思う。

## 「必要な社会資本は何か」から考え直す

野村 例えば、東京電力が「将来の電力不足に備えて、原

「子力発電所をまた作ります」とテレビで言ってるのね。「真夏の一番暑いときに、オールスターゲームを全部の人が見る」という仮定のもとに、その最高電力を基準にして言ってるわけ。そんな時間って、一年で一日くらいでしょ。その一日のために三六五日すごい電力を生産する。電力を生産して、使わないと資源の無駄になってしまふんですね。

東京電力はもっと電気を使わせようとして、発電所を作ろうとしている。都市ガスをつくるにも電気を使っている。そういうものすごい無駄の上に日本の経済は成り立っているわけで、その辺から、経済政策や社会資本政策を見直してほしいです。例えば「年金が払えなくなるから子どもをもっと産んでくれ」とか言いますよね。そんなこと言ったって産むと思いますか? (笑) 愛知県のT市では、四人目を産んだらT社の車を一台くれるんですって。そういったバカバカしい政策をやつて、何としても女に子どもを産ませたいと思つても、そんなねえ……。

根本的な政策を立てないで、行政の尻ぬぐい的なことを主婦に押しつけてきているんですよ。図書館のボランティアや、国立婦人教育会館の学習ボランティア、各区で教育のプランを立てたりとかも、ほとんど主婦の教育ボラン

ティア。無償労働の評価には、そういう問題もあるのです。加藤 でもそういう人たちも、そういう仕事できちんと就職できればそっちに行くんだろうけど、結局やりたい仕事の有償の仕事として受け入れられないから、ボランティアのほうに流れちゃう。それでアンペイドになる。

野村 ボランティア日本語教師を指導するプロ教師が、つい本音をもらしたのね。「外国人のお嫁さんにはボランティアでたくさんよ」って。そうやって女性が女性を低く見下して利用していくシステムが、いつのまにか根づいているんですよ。文部省の補助金を見ると、生涯学習のリーダー養成のための補助金とか、日本語教師養成のための補助金とか、まさに「生涯学習は女性ボランティアで」というような言いかたでやつてる。

田村 政府や行政側が市民の自発的行為に「おすみつき」を与えて、うまくやらせるシステム、NPO法案などもその一つだと思いますが、ただ、そのことを逆手に取るエネルギーを市民が持てる可能性がないかと思っています。共にその地域で暮らしてそうした行為を通して育まれていく連帯が「お上」の力をはねのけるようなエネルギーをもつようになれば、いわゆる「ボランティア」路線にのせられるこ

とはないと思います。

農村、特に山形とか秋田には、フィリピンとかタイからたくさんお嫁さんが来てるんです。語学ボランティアもその主婦たちは引き受けます。というのは、ここのアジア人妻たちは「仲間」なんですよ。同じ女同士。閉塞した村の中で、しきたりとか世間のあつれきも強い。まして外国から来てまったく違う価値観の中で暮らすお嫁さんは苦しい。だからこそ女たちは一生懸命教える。ボランティアでお金はもらえないんだけど、金では測れない何かを、作っていく。農家だから土地があり、家があり、食べていけるから、これ以上お金は必要ないと思っているところもあるかもしれない。一緒になって友達として教えて、彼女が里帰りするときは一緒にについていってネットワークを組むとかね。そういうのは行政から「お金出すからやりなさい」とか「ボランティアとしてやりなさい」と言われてやるのとは全然違うんですね。教えるほうも教えられるほうも、払うか払わないかということとは別の次元で関係をもつことができている。それをすぐ都市の中に持ってくることはできませんけど、そういう価値を共有して共生していける人たちがもうすでに日本の中に生まれつつあるので

はないか。その現実から学ぶこともあるのかな、と思っ  
たんです。

## 生産を基準に考えていいのか

芦澤 行政がタダ働きを見越して予算を組んだりするの  
が、非常に問題。

斎藤 タダ働きが、ある人は家事労働で、ある人は長時間  
労働だということから考え直してみないといけない気がする  
の。いわゆる生産に関する労働は、同時にたくさんの方の有  
害物質を出しているんですね。そういうものに加担するの  
がいいかどうかを、考える必要があると思うんです。

アメリカのウランを採掘するネイティブ・アメリカンの  
部落に行ったとき、ウランの採掘で何十人、何百人の人が  
死んだ話を聞かされました。「なんであなたたちはネオン  
サインが必要なのか、エレベーターが必要なのか」って迫ら  
れて、うつむくしかなかったんです。まずネオンサイン消  
すだけでも、消費電力はずいぶん減る。テレビもいまだん  
どん深夜化しているでしょう。あれはもう十時なら十時に  
やめて、家族だんらんの時間にするとか、そういう生産と

消費の枠組みを考えるのが先決じゃないかと思うんですよ。国家予算もそれにあわせて考える。「予算がないから消費税をとる」というのは、発想が逆なんですよ。

加藤 環境との関係をやっぱり大事にしないと。

斎藤 資本主義経済を見直さないと、平等もない。

野村 資本主義に代わる制度をどうやって構築するの。

しま それは簡単じゃないけど。

野村 ただ「資本主義がだめだ」って言っても、現実には市場経済の中で競争が行われているわけだから。大量生産、大量消費、大量投棄です。

しま だから、個人がなるべく物を使わない、買わないし食べないし、明日から食べるものを半分にするっていう感じ。まずやってみないとね。

## 本当の「豊かな社会」とは

野村 大量生産・大量消費で豊かになったかというところ、かせいだお金を使うひまもない、働きすぎの社会になった。

「豊かな社会」に対する疑問符が、いま投げかけられているんですね。

それで、新しい価値観の発見ということで、有償労働と無償労働はイコールだと、私は数字の上で出したのが今度の統計です。そこで、家事とか、育児とか、介護とか、社会奉仕とかも労働ではないか、という新しい価値観が出てきたんですね。

たまたま、高齢化社会の到来で、介護という問題が大きく出てきましたが、介護を社会化するうえにも、無報酬労働を数値化したことは意味があったと思います。

しま ただね、介護のことだけだったら、何もそういうことは必要ないんで、ちゃんと政策を出せばいいんですよ。数値化したのに反対だとか、そんなことを言っているわけではないんですよ。プロセスとしてはあり得る。あり得るけれど、そのことを自賛してはいけなないと、私はすごく思うんです。

野村 介護政策を立てるのに当たって、数値は必要になります。

しま 数値化は問題だらけだけれどいたしかたなく賃金に換算したんだ、ということをもっと強調するといいます。

野村 もちろんそうです。ですから、これがすべてではなくて、これからもっといい方法があれば、その方法で出す



べきだっていうことも考えてます。ただ、今まで全然そんなこともしないで主婦を家庭にしばりつけていたのはおかしいということで、やっと今年から『現代用語の基礎知識』にも「アンペイド・ワーク」が載ったんです。

しま その辺の発想なんです、私が気になるのは。何だか野村さんが社会に挑戦なさっているにもかかわらず、体制肯定派”に見えてしまつて。

野村 体制派なんて言われるとね。私はモラトリウム人間で、今も学生です。いずれ論文にまとめるためにやつています。体制派とか言われても困るんで……。

しま 何々に載つたからいいとか、政府が私たちの話を聞いてくれたとか……。

斎藤 しまさんのご指摘は大切なことですけど、野村さんは琴線に触れるものがあつて、アンペイド・ワークにのめり込んでいらしたわけでしょう。へ無報酬労働の数値化を考える会”はじめ、たくさんの方々の長いご苦労が実つて、とにかく数値化という、一つの形は出たのだから、これからはその数字にこだわるのではなく、発想を大逆転させればより発展的になるのではないでしょう。

加藤 それをきちんと統計とかに出さないと、政策に反映

されないわけだから。

斎藤 でも統計つて、一方では危ないものだと思うの。「少子化の危機」なんていうのは、数字で国民をあやつった典型的な例だと思ふ。

加藤 ジェンダーの視点に立つた統計じゃないから問題なんですよね。

芦澤 不十分なものではあるけれども、自分たちのためにどう生かすかということだと思ふんですね。これが不十分な数値だというのは、もうわかりきつてることだと思ふんです。もともとの資料も調査のしかたも問題があるわけだから。どかが問題か考えて、今度はこういうやりかたがいよいよ、というのを提言していくのが建設的なやりかただと思うんですが。だからここでお互いのライフスタイルがどうのこうのという話になつてしまうと……。

野村 そうそうそう。どうしてそういう発想なさるのですか。

しま そうじゃなくてね、感覚のズレはやめないで、もつときちゃんと話し合いたい。私にもレッテルを貼つて下さつていい。それは違ふよつてレッテルをはがし合えばいいんで、レッテル貼るのやめようよではないと思ふんです。

## 選挙制度も変えてみたら

しま 話を具体的なほうに持っていったほうがいいですね。例えば、先ほど出た審議会委員のことも、九〇%の審議会に女性を入れるとか言うけど、それがいいんじゃない。一人くらい入ったってしょうがない。審議会自体が男社会のシステムになってるから、そういうことをやめようという提案をしないと。

斎藤 一人の女性で複数の審議会に入っている人も多い。それは植民地支配と同じなんです。使いやすい女性を登用して、結局「飾り女」なんです。女に限らず、男も結局「お上の役に立つ人」が選ばれる。一見、民主的な装いの「審議会」というシステムに代わるものを、私たちがどう提案するか、ですね。

しま 「飾り女」になった人の見識が問われているんですよ。私、体制派じゃないよ」ってニヤニヤしてね、本気で言っちゃ駄目だけど、言えるくらいの方が飾り女になるなら、飾り女じゃなくなる。

芦澤 入りたい人が選挙に立ちたがらないのも同じです

ね。

しま 選挙にいい候補を立てたい人と立ちたがらない人が、手を結ばないとね。

斎藤 このままでは取り返しつかないことになる。何とか選挙のやりかたも変えないと。この間、朝日新聞に面白い見出しが出てたんです。年収二千何百万で、労働時間は年間百時間、競争倍率は二・三倍。読んでみたら都議会議員のことなのね。それで、この見出しのような条件で公募したらおもしろいな、と思ったんです。応募が多すぎたら定員の三―五倍くらいを抽選で絞って、討論させて選ぶ。あの恥ずかしい選挙運動はやめる。任期は一年とか二年とかにしてどんどん新陳代謝して、政治を実践させるといい。野村 それはいいアイデアね。

斎藤 都議会選挙には都費が四十何億かかるんですって。芦澤 税金ですよ、つまり私たちのお金。

斎藤 そんなことをやるよりは、抽選のほうがまだいい。ポスター看板、新聞やテレビの公費広告はやめて、公開討論一本に絞り、それをテレビでも流す。投票率も上がり、少なくとも流れが変わります。国会も、国会議員の年収が確か四千万くらいですね。年間労働時間五百時間という条

件で、公募したらどうですか？ 小論文を出させたりして。候補者は地区ごとにテレビなどで討論させる。質問者の問いに、その場でイエスカノーカ、赤と白のうちわででも答えさせて、その理由も言わせる。そんなふうになれば、棄権率は激減するんじゃないかしら。

## 「主婦というシステム」も考えよう

しま 提言のことをもうちよつと話して終わりにしましうか。

芦澤 そうですね。いろいろ出ましたよね。生活時間調査自体のやりかたがおかしいとか、こういう調査の仕方がいいという提言をしていこうとか。

斎藤 第三者基準も、もうちよつと考えたいですね。

野村 第三者基準は、EUでもみとめてますけど、生活時間調査というのは、プライベートな面があるから非常に難しい。確からしさを出す、あくまでも推計なんですよ。これを頭のどこかに置いておかなくちやいけないと思います。

加藤 アンペイド・ワークが主婦の労働というか、主婦の

問題に限定して話されていたのが一九七〇年代で、北京後はそういう議論じゃなくなりましたね。外で働いている女性もアンペイド・ワークをやっているわけで、一番問題なのは外で働いている人がアンペイド・ワークとペイド・ワークを合わせた労働時間が一番長いというそこらへんなわけです。それから、主婦と外で働く人の対立にしたくない。

しま それと、たまたま「主婦」という言葉があるわけだけど、その言葉をこまかしてはいけなと思うのね。現にあるでしょ？ もう無くなつてしまつたらいいんだけど。主観の中に「主婦」という意識がなかったらいいんです。

加藤 それはやっぱりなくす方向にいくんだけれども、もちろんすぐにはなくならないから、ある程度の経過措置が必要だと思うんです。目標としてはなくすというか、本当に男性も女性も主体的に選んで、一時期「主婦的なことをやる」のは構わないけど、社会的な状況で選ばれているということが問題なわけだから、それをなくして、全くの自由意思で選択できて、しかも男女ともに有償と無償のバランスがちゃんと取れてるということを目指したい。

しま 私たちが「主婦はこうだから」と言つても、全然対立しているわけじゃない。「働いてる人は……」と言つても

いいんですよ。そういうことを言い合わなければ。全然非難してないですよ、そういうわかりあいの上で「主婦の人の多くはこういうことであるよね」と言っただけいいと思うの。現実には現象としてあるでしょう。私がもしずっと主婦をやっていたら、そういう話し方をすると思います。だからそれは私の「資質」ではなくて、「そういう暮らしから出てきた傾向」――あなたがそうとか私がそうとかいうことではなくて――一般的にそういう傾向があるよね、という話をもっとすべきだと私は思うの。

私はよく「どうして女たちはこんなにダメなんだろう」って怒るときもありますよ。自分も含めて。これはちつとも女性差別ではないと思いますよ。女性の中で、女という位置で生きていくために、自分はこんなにトレーニングされてないんだという怒りをもっと言い合うべきだし。そこがもっと自由にできればいいと思ってるんですけど。

斎藤 アンペイド・ワークに限らず、いろんな指標をもっと洗いなおしてみたいと思うの。いま日本で一番貧しい県が沖縄県ということになっているけど、それは生産性でカウントして言うわけでしょう。私たちには沖縄が一番豊かに思える。そう思えるのはなぜか、というふうに考え

ていくと、新しい指標が生まれると思う。

加藤 今の統計が全部男性の視点からの統計だから、取り方とかすべて。

芦澤 マスコミの取り上げ方もそうですね。

加藤 だからそこをジェンダーの視点で見直していこうというのが、アンペイド・ワークへの取り組みの一貫だと思うんですけど。それはすべての統計に関してやっていかなければいけない。

斎藤 とにかく今回、数値化を一つやってみたということは、私は評価していいと思います。そのプラスとマイナスがはつきりと出た。チェックシステム自体の問題点も出てきたということを、今度の『あごろ』で問題提起できたら、一歩前進だと思っんです。

気をつけたい「ジェンダー」という言葉の使い方

しま 「ジェンダーの視点」という言い方、ちょっと気をつけたほうがいいと思うのね。男性の視点からやっても、これは「ジェンダーの視点」なんです。

加藤 男性の視点と「ジェンダーの視点」は違うと思うん

ですけど。

しま 「ジェンダーの『偏った視点』が男性の視点でしょう？ だってジェンダーというのは生物としての男・女ではなくて、女・男はいろいろな中で役割を作られている……。

加藤 「社会的に作られた」という、認識の視点が「ジェンダーの視点」であって、男性の視点でやるのは「ジェンダーの視点」ではない、と私は思うんですけど。

野村 私もそう思う。伝統的な性別役割分担からジェンダーへ、という問題提起もあるんですね。伝統的につくられた性別役割分担というだけで、セックスとは全く違う意味に使っている。だからジェンダーというのは変数で、セックスは定数ですよ。変えられませんから。例外的には変えられるんですが——かなり自分で性を決定していけるところも今の科学ではありますが、ローマ法王庁なんかでは今も認めていないし、ジェンダーは変数でセックスは定数だと私は思っています。

しま 変数・定数については異説もありますが、今、ここではそれについてはふれません。私が危惧するのは、例えば「共同参画」とか「共生」とか、行政用語として——こ

れは北京会議用語なんですけども——でも、それをいま行政用語がすくつっているわけですよ。それに乗るのはあぶないということですよ。実はジェンダーというのは「いいものだ」というのは間違いで、もっと注意深く使いたい。世の中の全部がジェンダーですから。

斎藤 いま日本でのポスト北京の流れは、そのところを本当に気をつけたほうがいいと思うんです。「ジェンダー」「エンパワメント」の言葉が独り歩きして、それを使うことが流行のようになっていく。流れに流されず、きちんと本質を、という、しまさんのご指摘だと思います。大切なことですね。

しま 足元をすくわれないように。

### 「対立の構図」をきちんと押さえておきたい

野村 女性問題の一つの切り口としてのアンペイド・ワークなんですから、むしろ一つの解決の方法として使いたいですね。私たちがすべての面で行政より進んでは思いませんが、ある程度こちらから言って行けば、彼らは知らないことはかなり率直に「知らない」と言いますし、デー

タだって「これは国民の財産ですから」ってどんどん開示してくれましね。ですからある程度市民から言って、お互いにやっていかないと……。

しま そのへんのとらえ方の差はあってもいいです。おっしゃることはよくわかります。行政と対等にやりたい、でも、言うこと聞いてもらうんじゃないくて、対立の構図があるなかで手を結んでいるんですね。対立というのを私は決して悪いものとは思っていないんです。その構図をなくしたら、やっぱりこれは原発が多くなる方向に行ってしまうので、対立のゆるやかな構図をしっかりと捉えていきたいわけ。(しまさん所用で退席)

斎藤 私は、対立は対立のままで、いいと思うんです。何も急いでアウフヘーベンしなくたって。対立があるからこそいろんな考え方が生まれると思うので。

きょうのしまさんのご発言は、アンペイド・ワークの数値化にご尽力なされた方々にはちよつときつく聞こえたかもしれないけど、決して責めていらしたわけではない。できるかぎりぜい肉を削いで、問題の本質をきっちり洗い出そう、という問いかけとして、あえて挑戦されたのだと思います。

## 共同参画「室」を「人権省」にしたい

芦澤 最後に、白書を作った人に対して何を一番聞きたいか、ということ伺って終わりにしましょうか。

野村 「白書をつくりました」っていうだけじゃね。やっぱりこれからずっと注意して見守りたい。今度は審議会があるので傍聴を申し込んでみたんです。

加藤 政策にどうつなげていくか。その現状のところでは「無償労働が何%」とかが出ているんですけども、それをぜひ政策につなげていって欲しいので、それをもちよつと突っ込んで追求して欲しいというのが希望です。斎藤 行政と私たち生活者は立っている地盤が違う。とくに今は違いすぎる。それは一つには、行政に生活者の直接的な情報が入っていないからだと思うんです。

行動綱領も国連↓各国政府↓自治体↓生活者という図式で考えがちだけど、私は、本来、それぞれの個人の行動綱領こそ大切だと思うんです。「国連で決まったから」と錦の御旗にするのもおかしい。「国連でさえこう言っている」というスタンスで発言することが大事なのでは。

芦澤 共同参画室の限界もありますよね。参画室はこれをまとめるところまでで、その先は各省庁に行ってしまう。

加藤 男女共同参画室自体の権限をもっと強くして、省庁にパワーを持つて言っていけるくらいになつてもらつて、政策の実現をどんどん推進していつてもらいたいし。

斎藤 だから、「女性省」ではなくても、「平等省」とか「人権省」を創るとか、拡大の方向に持つていきたい。参画室」というのは、行つてみると、〈あそこ〉の事務局と変わらないくらい小さいところなんです。やっぱり「省」でないとかダメなんじゃないかと思う。いま参画室の少ない予算で頑張つてゐる方たちもバックアップしたい。

加藤 男女「共同参画」ではなくて、女性と男性の「平等」ということで政策を推進してほしいですね。男女共同参画室を英語に直すと Equality なんだけれども、日本語は共同参画」になつてゐる。英語のとおりにきちんとその線で政策を実施していつて欲しいですね。

## 調査に人間の「生の声」を

田村 調査のしかたというところで、どうしても数値に置

き換えなければわからない、という呪縛があるんじゃないかなあと思つたんです。これはやっぱり生の声が聞こえてくるかによつて、かなり違つてくるのではないのでしょうか。いろいろと難しい問題はあるけど、もうちよつと一人一人の人のことを入れるとか、聞き書きとか、数値に表せないものも入れないとか。

芦澤 統計資料から拾つた数値で作ろうとするから……。

田村 制限もあるだろうし作る側の発想もあると思う。これを変えていくことによつて、ずいぶん違つた面が見えてくるんじゃないかなあという気がします。

加藤 ヨーロッパのアンペイド・ワークの調査でも、日記形式にしてゐるところもあつて、そういうふうなやりかたでとつてゐるところもあるから、ぜひ必要ですよ。

野村 でもお金がかかるし、時間もね……。それをコード化する人が必要になるんです。分類も。国際生活時間(アークタイプ)が設立され、共同処理と共通分類への再コード化が行なわれるようになった。行動を九十五種類に分類した例があります。

芦澤 図らずも自分の生活を見直すことになりましたね、私は。このままじゃいけないいつて(笑)。

加藤 去年総理府が試験的にアンペイド・ワークをヨーロッパと同じように日記形式でパイロット調査をやったらしいんだけど、それは結果がまだ出てないんで、その結果をぜひ早く知りたいですね。

斎藤 「数値化ⅡGDP対比」という発想そのものがおかしい、と私は思う。資本主義社会、男社会、生産至上主義の発想ですね。生産量がどんなに大きくても、それに匹敵するくらいのエントロピーを発生させているところに大きな問題がある。環境破壊も経済成長率を押し上げているのです。グリーンGDPで計算してみると、農民やボランティア、途上国などの指数がずっと良くなるはずですよ。そういうふうな発想そのものを逆転させるのが、フェミニズムの考え方なのではないかしら。

芦澤 それから、日本の子どもがアンペイド・ワークを担わなくなったのって、問題だと思いませんか？

野村 そうね、お手伝いはいいから勉強しなさいとか、しっかり組み込まれちゃって。

斎藤 子ども時代のアンペイド・ワークって、いろいろな能力を刺激してくれるんですよ。世界中で、いま日本の子どものようにアンペイド・ワークをしない子どもはいな

いように思います。アンペイド・ワークの中から、知恵も力もやさしさも生まれるのに。

加藤 みんなでやらなくちゃね。

芦澤 アンペイド・ワークってもう一つのものさしですね。労働時間というか、会社なり塾なりに拘束される時間が減らない限り、根本的には解決しないと思う。自分自身を見直したというのはそういうことです。いかに長時間外に拘束されているか……何で私は家にいる時間が少ないんだろうか、これじゃまずいんじゃないかと。

田村 命はぐくむための時間をどうつくるかというような発想でいかないと。そうすれば、寝る時間も一人ひとり全部違うし、簡単には一つの基準はつくれないし、数字なんか絶対に出てこないと思うんだけど、本当にそんなふうなものだと思っんですよ。生きるために無駄な時間とかたくさんあって、それがやっぱり生活には必要だと。たとえば、生きるための時間をどう取り戻すのかということが必要ですよ。芦澤 きょうの話し合いは、『白書』を叩き台に、私たち自身を見直すきっかけになったと思います。読者の皆様のご意見もお待ちしております。お話ししたいことはまだまだたくさんあると思いますが、この辺で終わります。



## 資料 男女共同参画の現状と施策

——男女共同参画二〇〇〇年プランに関する報告書(第一回)——

平成九年六月二十六日 内閣総理大臣官房男女共同参画室

男女共同参画推進本部(本部長 内閣総理大臣)は、平成八年十二月、「男女共同参画二〇〇〇年プラン—男女共同参画社会の形成の促進に関する平成十二年(西暦二〇〇〇年)度までの国内行動計画—」(以下「プラン」という。)を決定し、その着実な実現に努めているところであるが、総理府は、男女共同参画推進本部構成省庁の協力を得て、プランに関する第一回目の報告書である「男女共同参画の現状と施策」(いわゆる男女共同参画白書)を取りまとめた。

国内行動計画に係る報告書は昭和五十三年以来九回刊行しており、今回は通算十回目の報告書となる(なお、従来のも名称は、「女性の現状と施策—新国内行動計画に関する報告書」(いわゆる「女性白書」)であった)。

報告書の内容としては、第一部の現状編において、プランにおける目標設定の背景となった我が国の男女共同参画の現状を、また、第二部の施策編においては、男女共同参画に関わる我が国の施策を平成七年四月から八年十二月までの状況を中心にプランに掲げた目標におおむね沿ってまとめている。すなわち、本報告書は、プランの出発点における我が国の男女共同参画の現状と施策の状況を明らかにし、今後の男女共同参画の進捗状況及びプランの推進状況のフォローアップに役立てようとするものである。

報告書の概要は以下のとおりである。

## I 現 状

### 1 政策・方針決定過程への女性の参画

#### 女性の参画状況の国際比較

UNDP (国連開発計画) の「人間開発に関する指標」によると、我が国は、基礎的な人間の能力が平均どこまで伸びたかを図る指標 (HDI\*) では第三位、HDIと同じく基本的能力の達成度を測定した指標であって、女性と男性の間で見られる達成度の不平等に着目した指標 (GDI\*) では第十二位となっているが、女性が積極的に経済界や政治生活に参加し、意思決定に参加することができているかどうかを図る指標 (GEM\*) については第三十七位となっており、女性の能力の開発はかなり進んでいるが、それを発揮する機会があるかという点では十分ではない。

このような我が国の状況は、政策・方針決定過程への女性の参画、特に国会等の公的部門での政策・方針決定過程への進出が遅れていることによるものといえる。

\* 1 HDI…人間開発指数 (Human Development Index)

2 GDI…ジェンダー開発指数 (Gender-Related Development Index)

3 GEM…ジェンダー・エンパワーメント測定 (Gender Empowerment Measure)

## 2 職場、家庭、地域への男女の共同参画

### ○性別役割分業

女性性は天（社会）の半分を支えているか\*

収入を伴う仕事に係る総時間の35・1%を女性が、64・9%を男性が担っているのに対し、家事、介護・看護、育児等に係る総時間については90・0%を女性が、10・0%を男性が担っている。これらを合計してみると全体の52・5%を女性が、47・5%を男性が担っている。

\*「天の半分は女性が支えている」とは、第四回世界女性会議開催地である中国の言葉。

### ○就業

高まる女性の労働力率

平成七年には我が国の労働力人口全体に占める女性の割合は39・7%とこれまでで最も高くなったが、男女の労働力率の差は国際的にみても大きい。女性雇用者の割合も年々上昇し八年には39・2%と、これまでで最高となった。

平均年齢の上昇や勤続年数の伸長等の変化も見られるが、さまざまな面で男女差も残されており、こうした中で、平成七年時点の労働者の所定内給与額は、男性を100とすると女性が62・5と、女性が男性のおよそ六割にとどまっている。このような格差には、昇進や勤続年数などの要因の与える影響が大きいと考えられる。

### 農山漁村の女性

農業には、二三万九千人（全就業人口の56・9％）、林業には一万四千人（同16・6％）及び漁業には五万四千人（同17・9％）の女性が従事しているが、全体として政策・方針決定過程に参画する女性の割合は極めて低い。しかしながら、農業委員、農協の役員については、近年改善の兆しが見られる。

### 女性起業家

新規開業のうち女性が起業した割合は、13・6％で、業種別には飲食店の29・4％、対個人サービス  
の19・2％、小売業の14・7％等、第三次産業における比率が高い。また、開業前、関連する仕事に携  
わった経験は女性の方が少なく、経営資源に対する自己評価も女性の方が低い。

### ○家庭・地域生活

世代で異なる選択的夫婦別氏制度に対する考え方

夫婦別氏制度については、男女間よりも、世代間での意見の差が大きく、若い世代で「夫婦が婚姻前  
の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ること  
ができるよう法律を改めてもかまわない」という考え方を支持する者が多い。

統計史上最高となった離婚件数、離婚率

平成七年には、離婚件数は十九万九千件、離婚率（人口千対）は1・60と、共に統計史上最高を記録  
した。

### 男女の家庭生活への参画

我が国の男性は、他の国の男性に比べ仕事時間が長い一方、家事時間が少ないことが際立っている。

## 地域社会への男女の共同参画

過去一年間に社会的活動を行った者の割合は、女性31・5%、男性28・3%と女性の方がやや高く、専業主婦は、33・2%と女性全体よりわずかに高い。また、一日平均の参加時間は、男女とも五分であるが、専業主婦は六分とやや長い。

ボランティア活動について、女性では関心を持っている者が、66・5%と男性の56・4%に比べ高い一方、実際の参加経験を見ると、男女ともほぼ30%で、関心のある層の半分程度にとどまっている。

## ○高齢男女の暮らし

### 高齢者のいる世帯

六十五歳以上の高齢者のいる世帯については、三世帯世帯の割合が33・3%と最も高いが、その割合は年々低下している。また、単独世帯のうち女性の単独世帯の増加が著しく、昭和五十年には6・6%だった割合が平成7年には13・8%となっている。

六十五歳以上の女性の単独世帯の平均所得金額は164・3万円と、男性の単独世帯277・3万円の六割弱にとどまっている。

### 高齢者と介護

六十五歳以上の寝たきりの者の主な介護者は、85・1%が女性であり、また、意識の面でも女性・男性ともに、自分の介護は女性に頼みたいと考えている者が多い。

### 3 女性の人権

#### ○女性に対する暴力

女性の人権が尊重されていないと感じることのトップはセクシユアル・ハラスメント

女性の人権が尊重されていないと感じることとしては、職場におけるセクシユアル・ハラスメント、家庭内での夫から妻への暴力、売春・買春、等の順となっている。職場におけるセクシユアル・ハラスメントについては、特に女性の方が女性の人権が尊重されていないと感じる者の割合が高い。

#### 強姦、強制わいせつの状況

平成八年における強姦の認知件数は一、五六七件、検挙件数は一、三八五件で近年横ばい、強制わいせつの認知件数は四、〇二五件、検挙件数は三、四三八件で増加傾向にある。未成年者が被害者である事件は強姦については四割近く、強制わいせつについては、三分の二近くとなっている。

強姦被害（仮定）を警察に「届ける」女性<sup>1</sup>は51・2％と、半数を上回る程度となっている。「届けない（届けるように勧めない）」とする理由は、「人に知られたくないから」、「マスメディアや周囲から二重に苦しめられるから」、「事情聴取や裁判などがいやだから」などとなっている。

#### 進む売春の低年齢化

売春事犯に関わった女性の年齢は、平成八年では十八歳未満が全体の18・2％、十八～十九歳が14・1％と、未成年者が三割を占めており、売春に関わる女性の低年齢化が進んでいる。

女子少年の「性の逸脱行為」の動機については、「遊ぶ金が欲しくて」とする者が増えており、平成八

年には全体の半分近くを占めている。

テレホンクラブにかかる福祉犯の検挙人員は、平成三年頃から急増している。

### 夫婦間暴力

平成七年に家庭裁判所に離婚を申し立てた者について、妻の申し立て理由をみると、「暴力を振るう」(二万二、五一九件)、「精神的に虐待する」(七、三一八件)など、精神的なものを含めた女性に対する暴力が離婚の大きな原因となっている。

### 職場におけるセクシユアル・ハラスメント

職場における性に関する不快な経験をしたことがある女性は、平成四年の調査によれば、25・7%となっており、内容としては「性的な冗談、からかいや質問をされた」や「身体に触られた」が多い。

### ○メディアにおける女性の人権

#### よく見かける性・暴力シーン

平成六年の調査によれば「セクハラシーンやレイプなどのシーンをよく見かける」メディアとしては、映像系ではテレビドラマが、また、活字系では雑誌が最も多い。また、マスメディアにおける性表現について、七割近い者が、マスメディア業界の自主規制や市民・各種団体等とマスメディア業界との話し合いによる規制等何らかの制限が必要であると考えている。

#### 少ない女性の参画

我が国の放送・新聞界の全職種及び上級管理職とも、国際的にみても女性の参画が極めて少ない。

## ○生涯を通じた女性の健康

### 低い女性の死亡率

平均寿命は、平成七年には女性82・85歳、男性76・38歳で、死亡率は人口十万人に対し、女性が664・0、男性は882・9となっている。

母子保健関係については、乳幼児死亡率及び新生児死亡率は緩やかな低下傾向にあり、また、妊産婦死亡率、周産期死亡率は大きく低下してきている。

### 若年女子に多い覚せい剤乱用

平成八年の薬物の乱用による送致人員のうち、二十歳未満の者について女性の割合をみると、覚せい剤については47・1%、毒物及び劇物（シンナー等）については31・7%となっており、若年女子に薬物の乱用が広がっていることが懸念される。

## ○男女共同参画を推進する教育・学習

### 進む高学歴化

平成八年には初めて大学（学部）への進学率（24・6%）が短期大学への進学率（23・7%）を上回り、女子学生の四年制大学指向が強まっている。

### 女性教員は増えたが管理職には少ない

女性教員の割合は、小学校では六割を超えているが、中学校、高等学校と段階が上がるにつれ少なくなっており、また、校長・教頭に占める女性の割合は全般的に低い。また、高等教育機関でも、学長、副学長に占める女性の割合は低い。



## 教育に関する意識

男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきであるという意見について、父親、母親ともに、「思う思う」と「どちらかと言えはそう思う」という肯定派が、「そう思わない」、「どちらかと言えはそう思わない」の否定派を大きく上回っている。

## II 施策の推進

### 1 男女共同参画を推進する社会システムの構築

#### (1) 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

男女共同参画推進本部は、国の審議会等の女性委員の割合について、平成十二年度末までのできるだけ早い時期に20%を達成するように鋭意努めることを決定し(平成八年五月二十一日)、その目標の実現に努めている(八年九月末現在16・1%)。

#### (2) 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革

八年九月に、有識者及び女性団体、経済団体、マスメディア、教育関係団体等広範な各種団体の代表から成る男女共同参画推進連携会議(えがりてネットワーク)が発足し、各界各層との情報及び意見の交換や広報・啓発を行っている。

## 2 職場、家庭、地域における男女共同参画の実現

### (1) 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保

雇用の分野における男女の均等な機会と待遇の確保のため、男女雇用機会均等法、労働基準法等の関係法律の改正法案を、平成九年二月に第140回国会に提出した。

平成八年十二月十六日からは育児・介護休業取得者の代替要員に係る労働者派遣事業の特例制度が施行されるとともに、適用対象業種が拡大された。

### (2) 農山漁村におけるパートナースhipの確立

平成八年度から新たな部門経営を開始しようとする青年農業者等に融資する経営開始資金について、配偶者も対象としたほか、婦人・高齢者グループに婦人・高齢者活動資金を貸し付けている。

### (3) 男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援

保育所に関する情報に基づき保護者が希望する保育所を選択する仕組みに改めること、児童家庭支援センターの創設による地域の相談支援体制の強化を図ることなどを内容とした児童福祉法の改正法案を第140回国会に提出した。

### (4) 高齢者が安心して暮らせる条件の整備

保健・医療・福祉にわたる高齢者の介護サービスを総合的・一体的に提供する介護保険法案及びその関連法案を第139回国会に提出した（継続審議）。

### 3 女性の人権が推進・擁護される社会の形成

#### (1) 女性に対するあらゆる暴力の根絶

婦人警察官による事情聴取体制の拡大等により、性犯罪の女性被害者が被害を訴えやすい環境を整備するとともに、被害者の心情に配慮した事情聴取の推進等、捜査過程における被害者の対応を組織的に行っている。

男女雇用機会均等法等の改正法案では、職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止について、雇用管理上の配慮を事業主に義務づけることとしている。

平成八年度から人権調整専門委員制度が導入され、当事者間の紛争を円満に解決できるよう調整活動を行っている。

#### (2) メディアにおける女性の人権の尊重

二十一世紀に向けた放送の健全な発展を図るため、平成七年九月から、学識経験者、放送事業者、視聴者代表等を委員とする「多チャンネル時代における視聴者と放送に関する懇談会」を開催し、八年十二月に報告書を取りまとめた。

メディアにおける性・暴力表現について、青少年の健全育成のために、出版、販売等の関係業界への自主的な取り組みの徹底の要請、青少年保護育成条例における有害図書類の指定制度の効果的な運用、地域の環境の浄化を図るための啓発活動などに努めている。

#### (3) 生涯を通じた女性の健康支援

保健所等において女性のライフステージに応じた健康教育を実施している。

「地域保健対策強化のための関係法律の整備に関する法律」の一環として母子保健法が改正され、この改正により、妊産婦及び乳幼児に対する訪問指導、三歳児健康診査等の基本的な母子保健事業について、平成九年四月より、市町村に移譲し、その実施体制の整備を図ることとされている。

(4) 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

平成八年五月、お茶の水女子大学にジェンダー研究センターが設けられるなど、女性学に関する研究が徐々に広まりつつある。

平成八年度より、「青年男女の共同参画セミナー」を実施し、男女が多様な役割を担い、自らの人生を主体的に選択し、展開していく能力の育成を図っている。

#### 4 地球社会の「平等・開発・平和」への貢献

女性の地位向上に貢献し、地球社会における平等・開発・平和の目標を達成するため、第四回世界女性会議の成果及びフォローアップを踏まえ、内外のNGOとの協力・連携を図りつつ、国連諸機関の諸活動に対する積極的な協力、開発途上国の女性支援の推進、平和への女性の貢献の促進、国際交流の推進等に努めている。

第四回世界女性会議のフォローアップの一環として、第五十回国連総会第三委員会に提出した「女性に対する暴力撤廃に向けての国連婦人開発基金の役割」決議に基づき、国連婦人開発基金（UNIFEM）の中に女性に対する暴力撤廃のための信託基金が一九九六年九月に設置され、我が国はこの信託基

金に対し協力を行った。

平成七年十二月、「人権教育のための国連十年」に係る施策について、関係行政機関相互の緊密な連携・協力を確保し、総合的かつ効果的な推進を図るため、人権教育のための国連十年推進本部が設置された。

## 5 計画の推進

### (1) 施策の積極的展開と定期的フォローアップ

男女共同参画審議会は、平成六年八月、内閣総理大臣から諮問を受け、八年七月、「男女共同参画ビジョン―二十一世紀の新たな価値の創造―」を答申した。

平成八年十二月、男女共同参画推進本部において「男女共同参画二〇〇〇年プラン―男女共同参画社会の形成の促進に関する平成十二年（西暦二〇〇〇年）度までの国内行動計画―」を決定し、同日の閣議に報告、了承された。

### (2) 国内本部機構の組織・機能強化

平成九年二月、男女共同参画審議会設置法案を第140回通常国会に提出、同法は同年三月に成立し、四月一日より施行されることとなった。

### (3) 国、地方公共団体、NGOの連携強化、国民的取り組み体制の強化

総理府は、平成八年九月、男女共同参画社会づくりに向けて国民的な取り組みを推進するため、広く各界、各層との連携を図ることを目的として、男女共同参画推進連携会議（えがりてネットワー）を開催することとした。



## 法制審議会が組織犯罪対策法の要綱骨子発表

七月十八日に法制審議会刑事法部会は、組対法の法整備のための要綱骨子案を発表した。それに対して〈破防法・組対法に反対する市民連絡会〉は夕方に弁護士会館で記者会見し「人権侵害は避けられない」と抗議声明を出した。

また、同連絡会は八月三十日（土）午後一時から、東京・永田町の星陵会館（日比谷高校隣）で集会「つぶせ！盗聴法許すな！警察管理社会」を開催する。連絡先は東京共同法律事務所（03・3341・3133）。

## 「強姦・交際を強要」熊本県議に三百万賠償命令

「強姦され、その後も性的関係を強要された」として、熊本市の二十六歳無職の女性が熊本県の自民党県議を相手取って、五百万円の損害賠償を要求した民事訴訟の判決言い渡し

が六月二十五日、熊本地裁で行なわれた。

一九九三年にスポーツ団体の役員だった被告は、国体選手だった原告をホテルに連れ込み、むりやりに関係。原告の謝罪要求に対して被告は逆に「自宅事務所の窓や自動車を壊された」などと告訴。被告は退社においこまれた。

河田充規裁判官は「県議の行為は刑法上の強姦、またはこれに準じる行為というべきものだ。『結婚したい』などと甘言を述べ、社会的地位を背景として関係を続けた」などと女性の訴えを全面的に認め、県議に慰謝料三百万円の支払いを命じた。

性的被害にあった女性が相手を訴えた場合、勝訴するのは異例のことである。「民事訴訟で損害賠償要求」という道を開いた功績は大きい。

## 侵略・国の責任を問う八月集会

毎年夏に行なわれている「アジア・太平洋地域の戦争犠牲

者に思いを馳せ、心に刻む集会。今年は「三光作戦」「細菌戦」

被害者、元「慰安婦」の方をお招きして開催することになった。東京では「侵略・国の責任を問う八月集会」と題して八月九日(土)・十日(日)に行なわれる。九日は午後一時から牛込簗笥区民ホール(ＪＲ／地下鉄飯田橋駅十分)で証言集会。証言者は、森正孝さん(日本軍による細菌戦の歴史事実を明らかにする会)、何祺媛さん(中国・細菌戦被害者)、黄可泰さん(中国・細菌戦研究者)、ジョン・パウエルさん(米国・ジャーナリスト)、金福善さん(韓国・元「慰安婦」)。翌十日は星陵会館(永田町)で午後一時十五分から「戦後補償問題の立法解決を求めて」。森川金寿弁護士(報告「細菌戦と真相究明」)に続き、山田朗さん(明大助教授)、西野瑠美子さん(ルポライター)、土屋公献さん(細菌戦被害国家賠償請求訴訟弁護団長)によるシンポジウムが行なわれる。

三重県では三光作戦の被害者を迎えて八月十日(日)午後一時半から四日市市安島「じばさん三重」で、八月三十一日(日)には午後一時半から津市の三重県教育文化会館で、韓国から尹貞玉さんを迎えて「姜徳景さん追悼と中学歴史教科書」が行なわれる。

◆問い合わせは〒556 大阪市浪速区塩草 2-6-4-5118

心に刻む会実行委員会事務局

TEL 06・562・7740

## 国立婦人教育会館二十周年「女性の交流フェスティバル」と「女性と生涯学習国際フォーラム」

今年開館二十周年を迎えた国立婦人教育会館(埼玉県比企郡嵐山町)は、十一月に記念行事「女性の交流フェスティバル」と「女性と生涯学習国際フォーラム」を開催する。

「女性の交流フェスティバル」は七日(金)～九日(日)。各地の女性団体・グループに対し、開館以来二十年間の女性を取り巻く社会の変化や婦人教育・家庭教育の課題をもとに、会館が提供するプログラムや機能を活用した研修・交流の機会を提供し、ネットワークの充実を図る。

「女性と生涯学習国際フォーラム」は十四日(金)～十六日(日)。女性のエンパワーメントの推進・充実のため、女性センター・婦人会館の果たす役割や将来のあり方について討議し、国際的な女性のネットワークの形成を考える。

問い合わせは国立婦人教育会館事業課へ。

TEL 0493・62・6711

## ピル解禁大づめへ

諸外国ではずっと前から使用されている経口避妊薬低用量ピル。認可をめぐる厚生省も詰めの審議に入った。

ピルの認可申請が出されたのは六五年だが、審議が突然中断され、六六年、月経困難症の治療薬として認可された。九〇年、製薬七社から避妊薬として認可申請がだされたが、凍結。九七年、厚生省薬事審議会は、公衆衛生審議会（伝染病予防部会）の意見を聞いて結論を出すことにしたが、同部会は、認可に際してはHIV予防の措置を講ずること、という条件をだした。

女の間からは女自身が選択肢を持つとの認識に立って、六〇年代から七〇年にかけて「中ピ連」がピル解禁を積極的に打ち出したが、一方で血栓症、肝臓疾患などの副作用の情報も海外から入り、「中ピ連」は製薬会社の手先との批判も出て、その後、日本の女性からの積極的な動きはなかった。しかし、低用量ピルが開発され、副作用も軽減した今、HIVとの関係で見送られるのはおかしいとの声もある。

7月13日に「阻止連」の主催で開かれた集会では、女性医

師で自らも使用している丸本百合子さんが、避妊効果が高く、生理痛や月経量が減るなどの長所を述べ、医師の指導の下で使用すれば心配ないと主張したのに対し、「準備出産・からだのおしゃべり会」の安藤能子さんは、「効果があるといってもピルは薬、女の間からだがリスクを負うことになる。避妊に医療は必要だろうか」と反論した。

日本の女性は、リズム（荻野式）プラス・コンドームの避妊が圧倒的に多い。これは面倒ではあるが、つれあいとのコミュニケーションも進み、双務的になるのがよいという意見も根強い。しかし、ともかく避妊とHIVを組み合わせて可否を論じるのは筋違いでは、という点では意見が一致しているように思われる。

今や市民権をえた「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」、ともかく、HIVがらみの論議は拒否したいもの。

## 参議院、やつと通称使用を認める

衆議院では議員の通称使用はかなり以前から認められていたが、参議院ではこれまでずっと「独自性を出すため」とし



て戸籍名しか認めてこなかった。しかし、今年九月の臨時国会から、ついに通称使用が認められることとなった。参議院での許可願いは二十六年も前から出ていて、実に二十六年ぶりの実現とか。また、臨時国会から使用できるのも異例の早さとのこと。

円より子参議院議員は当選以来ずっとこの問題に取り組んできたが、「訪問者が受付で『円より子』と書いて訂正させられた方も多かった」と、四年越しの苦勞を振り返っている。

## 「第五福竜丸エンジン」を東京・夢の島へ「和歌山県民運動

昨年十二月二日、紀伊半島（三重県御浜町）沖の海底から、ビキニで被爆した第五福竜丸のエンジンが引き揚げられた。三十年前に船体と切り離され、別の貨物船の搭載エンジンとして再出発も束の間、横浜港から神戸港への航海途中、濃霧のため紀伊半島沖で座礁し、そのまま海底に沈んでいたものである。

第五福竜丸の故郷である和歌山県では、市民団体のよびかけでこのエンジンを船体と再会させようという運動が始まっている。和歌山県民が中心となって全国によびかけ、募金活

動を展開して引き揚げ・運搬・展示等にかかる費用を調達する試み。また、それに呼応して、東京でも主婦連や都民生協を中心に都民運動が始まっている。

◆連絡先 〒640 和歌山市太田430-17 わかやま市民生生活協同組合（TEL 0734・74・8653）

## 男女共同参画に関するイラスト・写真・標語の募集

総理府男女共同参画室は「男女共同参画推進連携会議（えがりてネットワーク）」の企画・協力のもと、男女共同参画社会の形成に向けた国民の積極的な取り組みの推進を図るため、各種の広報に活用する「イラスト・写真・標語」を募集することになった。

イラストはB3判程度の用紙を縦に使用、写真は白黒またはカラーの四ツ切りサイズ、標語ははがき一枚につき作品一点。住所・氏名・年齢・職業（学校名）・電話・作品へのコメントを記入すること。締め切りはイラスト・写真が9月10日、標語が8月20日。

問い合わせは03・3581・5003（男女共同参画室・募集係）へ。



## 集会

から

### とめろ！憲法違反の盗聴法案（組織的犯罪対策法）

六月二十八日、カンダパンセホールで「とめろ！憲法違反の盗聴法案」が〈破防法・組対法に反対する市民連絡会〉主催で開催された。

まず、水島朝穂教授（早大・憲法）と白取祐司教授（北大・刑事法）から解説があった。「この法案が出てきた背景は、武力を持つことを制度化するための法的根拠が欲しいということ。破防法の適用は非常に面倒で、もっと安易な方法として組対法が出てきた。組対法は憲法二十一条『通信の自由』に抵触する。通信の自由を制限するにはよほどの法的根拠が必要ではないだろうか」。

次に全国弁護士ネットによる劇「盗聴立法が施行された日」。ある環境団体が盗聴でバラバラにされていく課程、インターネットプロバイダーも標的にされる危険性などが、わか

りやすく演じられた。

デイスカッションのパネラーは佐高信さん、北村肇さん（新聞労連委員長）、小倉利丸さん（富山大教員）、N.T.T労働者のTさん。コーディネーターは海渡雄一さん（弁護士）。北村さんはマスコミが権力に取り込まれる危険性を指摘、Tさんは現場部門で盗聴器が何度が発見されているという事実、小倉さんは電子メールの傍受も簡単にできて、しかも管理が甘いことを指摘、佐高さんは株主総会、諫早干潟問題などからめた危険性など、それぞれの立場から組対法の恐ろしさを語った。

(A)

### 自閉するニッポン？ アジアからの問い

七月四日、シニアワーク東京（飯田橋）で開かれた「自閉するニッポン？ アジアからの問い」は、〈歴史の事実を見つめる会〉の主催で、歴史教科書に対する攻撃をアジア人の視点から見た集会。パネラーは洪祥進さん（朝鮮人強制連行真相調査団）、朴慶南さん（エッセイスト）、徐京植さん（作家）、陸培春さん（マレーシア聯合日報コラムニスト）。洪さんは「慰安婦」問題と「強制連行」について、「強制連行は国際法から

も国内法からも立証されることだ。日本政府公文書の公開がまだ三五%で非公開資料が多いのに「資料がないから強制連行を証明できない」とは言えない」。朴さんは自分のエッセイに書いた「関東大震災で朝鮮人を助けた日本人」の話が『教科書が教えない歴史』（自由主義史観研究会編）に「美談」として引用されたことに対し、「その日本人の職務は人の命を守ることであった。彼の孫も、当たり前のことをしたまで」と言う。それが変に美談として利用されるのはおかしい。徐さんは「日露戦争の頃の学生と今の学生が似てきているのが怖い。韓国の青年が『ゴーマニズム宣言』に共感の手紙を書いたというが、それは「差別からのがれたい」がゆえ。それを小林よしのりが「韓国人もそう言ってるじゃないか」と言うのは差別が見えていない」。陸さんは「マレーシアは言論統制が厳しいが、政府も慰安婦の存在を認めている。雄弁より事実。若い人たちは現地に言つて、見て、広げてほしい。私たちは考える材料を提供する仕事をしたい」。コーディネーターの西野瑠美子さんは「美談を強調するのは強要になる。過去を忘れるのではなく、それを忘れないことが友好につながる」と述べた。

(み)

## あこら二十五周年阪神集会——斎藤千代さん講演——

東京で開催されます記念イベントを前に、七月十日（木）クレオ大阪北にて、〈あこら阪神〉で斎藤千代さんを迎えて講演会を開催いたしました。山際美代子さんと私（澤田）が世話人をしています〈さわの会〉との共催にいたしました。準備不足もあり前日の集中豪雨のため参加者が少ないかと心配していましたが、滋賀県や京都など遠隔地からもご参加いただき盛況でした。

斎藤さんの講演内容はテーマ「女が働くことと生きること」にそって斎藤さん自身の生い立ちと戦争、戦後の女性の問題からBOCの設立、そして『あこら』の創刊号に至る経過などを中心に話して下さいました。二十五年の重みと活動を通して出会った人たちとの交流を「幸せです」と締め括って下さいました。創刊号の話をして下さいたので、〈あこら〉の会員以外の参加者が復刻版を購入して下さいました。私たちも忙しい中、斎藤さんの講演会を企画した喜びを感じました。いつもお手伝いいたしてく白井博子さんの体調が悪く参加できないので、講演内容をビデオ収録して見ていただくことにしました。（澤田和子）

# じょっぱりな女性たち

清水 典子

(陸奥新報文化部記者)

青森県弘前市で地方紙の文化部記者をしている。

「女性のスタッフだけで紙面を作ろう」と「女のページ」がスタートしたのは今から三年前。製作、整理、報道、文化の各女性記者によってそのページは作られている。

新聞はこれまで男性の視点で構成されてきた。特に津軽という土地は古くから男尊女卑（そんな言葉が今でも生きていた）の傾向があり、「女になにができる」的な好奇の目の中、スタッフ一同力を合わせてきた。

わたしが担当しているのは、津軽で頑張る女たちを紹介する「私的に素敵」という欄。津軽の女性と言えば「男性を陰で支える存在。おとなしく引つ込み思案」という印象を持っていたが、取材を重ねていくうちにそんなイメージは吹っ飛んでいった。漁師町に生まれ、中学卒業後は土木現場で働き、苦勞の末お金を貯めて今は弘前市内で漁師料理の店を開く女性。鉄筋工をしながら子どもを育てる豪快なお母さん。子どもを育て上げた後、自分の人生を生きたいと単身イギリスに渡り、フラワーレンジメントの勉強を始めた五十歳の女性など、それぞれが自分の足でしっかりと歩いていく。

津軽には「じょっぱり」という言葉がある。誰が何と言おうと自分の信念を貫く頑固者のこと。取材で出会ったじょっぱりな女性の一人が倉坪芳子さんだ。彼女は「放射能から子供を守る母親の会」の一員として、十一年前から青森県六ヶ所村に作られたつつある核燃料サイクル施設に反対している。毎月一回、弘前の町では女性たちがデモをしている姿が見られる。手には「子どもたちの命を守ろう」というプラカード。子どもの手を引く若いお母さんの姿も見られる。手作りのパッチワークの横断幕には「かくねんまいね」。「まいね」とはNOの意味だ。小さなデモは毎月一回、雨の日も吹雪の日も欠かさず続けられ、今月で百三十二回を数えている。

数年前、全国に吹き荒れた原発反対運動。その頂点に立つものが核燃料反対運動だった。津軽の女性たちは農家の人たちと共に反対の署名を集め、県に申し入れをし、ウラン搬入の際には六ヶ所村に座り込みに行き、体を張って核燃に反対をした。動燃の事故で使用済み核燃料再処理の問題が浮上しているが、津軽では十一年前から母親たちによって静かに反対運動が続けられている。

「子どもたちの命を守りたい。自然あふれる故郷を守りたい」という思いが女性たちの原動力。以前フリージャーナリストの増田れい子さんとお会いした時に「一九八一年に富山で起こった米騒動は子どもたちに米を食べさせたいという母親の思いから始まったもの。これが市民運動の原点」と話しておられるのを聞いた。富山で米騒動を起こした漁村の主婦たちの「子どもたちの命を守ろう」という思いは津軽の母親たちの「核燃まいね」の運動にも通じると思った。

デモを始めたころは背中におぶられていた子どもたちが、今はもう中学生になっている。「中学三年の息子が公民の授業で基本的人権を勉強してきて、『人間には誰でも平等権と社会権と自由権があるんだって。核燃反対と自由に言えるのも、デモができるのも基本的人権があるからなんだね。六ヶ所村で座り込んで警官にごぼう抜きされたなんて尊敬しちゃう』と言うのよ。普段は生意気なことばかり言っているのに」とメンバーの一人。子どもたちの命、故郷を守るために頑張ってきた母親たちの姿を見て育った子どもたちは何を感じ、何を思うのだろうか。

六ヶ所村に建設中の再処理施設は二〇〇五年に完成が予定されている。「核燃が止まるまで決して諦めない」というじよっぱりな津軽の女性たち。いつか母親たちの運動は次の世代に引き継がれ、大きな力となっていくに違いない。

これからも取材を通し、津軽に生きるさまざまな女性たちと出会うのを楽しみにしている。



「コンピューターは、美味しいごほうびをたくさん用意して、厳密に定義された手順を正確に実行できる人々をとりこにする。とにかくコンピューター的に思考していれば、コンピューターがわかる人ということで仕事も社会的地位も確保できる。ソフトウェアやネットワークでごほうびにあずかれるのは、絶対に盲目的に従うロボット人間ばかりだ。その実、コンピューターは、創造的な人や独創的な人に出来合いの思考パターンを強制し、彼らの自由な身動きを規制する。(中略)」

「コンピューターとはまったく正反対の人びと、つまりコンピューターを手順どおりに操作できない人びとは、じつは独創的なアプローチで問題解決にあたるのを得意とする人々だ。コンピューターを上手に扱えないから、しょっちゅうコンピューターと格闘しているが、それはプログラム作成者と彼の波長が合っていないだけの話だ。ダーウィンの進化論じゃないが、独創的な人々というのは、その独創性ゆえにコンピューター環境にうまく順応できないのだ」

と、この人は言う。

コンピューターゲームも、決められた候補のなかから正しい答えを選ばなければ先に進めない。だから「正解だけを絶対視するような子供になりかねない」と。この人が言うと言得力があり、前後にちりばめた皮肉や比喩もおかしい。

ネットワークのディスカッション・グループのトピックには、セックス、情欲、ポルノに関するものがやたらと多いという。「しがらみの存在しない虚構の世界」で、「人は他人になりすますことで、現実を逃避できる。そして、ネットワーク中毒者は、ネットワークという環境にどっぷり浸かることで、自己解放しているのだろうか」と言った後で〈本当の自分は何ひとつ変わらない〉というメッセージを繰り返す。〈人の発想力・洞察力を授けるものではない〉〈情報はすでにわれわれの頭脳で処理・理解・評価できるよりも多く氾濫している〉といったスタンスで貫かれている。

コンピューターネットワークの将来は情報革命の理想郷(シャングリラ)にたどりつけることを前提としているただの夢物語と断じ、たとえみんなでそこにつけたとしても来なければよかったと思う人のほうが多いんじゃないかと。

## シリコン・スネーク・オイル(Silicon Snake Oil)

奥川 睦

ふだん読まない種類の本を偶然手にし、しかもそれが思いもかけずおもしろかったときの喜びは大きい。実は、表題の語、本のタイトルなのである。『インターネットはからっぽの洞窟』（クリフォード・ストール著 草思社）の原題で、サブ・タイトルが Second Thoughts on the Information Highway となっている。情報のハイウェイが、タイトル同様、インターネットのことを指すらしいとは容易に察しがつくが、それに関する考察 (Thoughts) につけたセカンドはなんだろう。なかなか意味深長な気がする。

「スネーク・オイル」は蛇の生薬エキス。アメリカ西部開拓時代、万病の特効薬としてスネークオイルを売り歩く商人がいた。が、その多くはえせ医師や薬剤師で、効能さだかでないものが横行していたという。転じて、現在では、効能さだかでないものを万能薬と称して売り付けるセールスマンの意。

「インターネットがあたかも現代版万能薬のように宣伝され、金儲けの具に利用されている感のある昨今、著者が本書を“Silicon Snake Oil”と名づけたのは、こういう状況に対する彼の危機感の表れかもしれない。」とは、訳者の弁。

著者クリフォード・ストールは天文学者。インターネットで暗躍していたハイテク・スパイ団をコンピューター・ネットワーク上で追ひ詰め、つかまえた人である。コンピューターネットワークはおろか、ワープロに四苦八苦している機械音痴の代表選手のような私には、とても出会いがありそうな人ではない。それでも、タイトルを見て「わたしのために書いてくれたような」と、思ったのがページをくって見た始まりであった。難しければどんどん飛ばすつもりでいた。意外や意外、結構しっかり読んでしまったのである。

パーチャル・コミュニティの住人がネットワーク・シチズンで、短くしてネチズン。ネットワーク・コミュニティは、顔見知りにはえるサークルといった感じが好きで毎日アクセスしている。メールも受けるし、チャット・ネットサーフィンだってしている。といったぐあいにポンポン出てくるカタカナが、実際アクセスしない私にも面白い。それ以上に私の興味を引いたのは、著者クリフォード・ストールのこの問題に関するスタンス。つまりは、彼の生き方や個性だ。

## 高里鈴代さん、那覇市議選で大苦戦

七月十三日の那覇市議選で、〈基地・軍隊をゆるさない行動する女たちの会〉共同代表の高里鈴代さんは、「あの人なら絶対大丈夫だから……」という他派のふれこみの影響で、大苦戦。終盤やつと巻き返し、四十四人中三十八位ですべりこみセーフになりました。今回、共産党は六議席から七議席へと一議席増やしたものの、公明六、社大四、社民二と、親泊那覇市長の与党は軒並み苦戦。与党の中でも、親泊市政に同調しない党派もあり、前途多難とのこと。暑さの中、あまりの問題山積に、みんな元気を失いがちですが、はげまし合い支え合っている、という報告が入りました。

なお、女性議員は五議席から四議席へ、一議席減に。ただし、落ちた一人は、単身者、母子家庭、障害者バツシングを続けてきた人だそうで、これから女性の結束は固くなるとのこと。

また、同日行なわれた宜野湾市長選では、基地反対派の比嘉盛光氏が二位と一万票近い差で当選しました。

## この海を汚すな！

## ——ヘリポート基地はいらない——

七月十二日、東京・品川区の南部労政会館で、「ヘリポート基地はいらない！名護と本土をつなぐ 7・12 集会」が〈沖繩・一坪反戦地主関東ブロック〉主催で行なわれた。

〈ヘリポートいらない名護市民の会〉の安治富浩さんと許田清香さんが現地報告をした。安治富浩さんはパネル写真を指しながら「移設予定地はキャンプ・シュワープ沖の岸から三キロメートル。撤去可能と大田知事も言っているが、もし台風などがあつたら武器弾薬格納庫は外にあるので、大変危険だ。防衛施設庁はたかが二、三か月の調査で沖繩の氣候がわかるはずがない。ヘリポートのできる辺野古の海にはまだサンゴが生きているが、汚染でだめになってしまおうだろう。現に、普天間基地はPCB汚染が進み、恩納村の米軍格納庫跡地も汚染で使えない」と、基地が取り返しのつかない環境破壊を招く恐れを指摘。若いイラストレーターの前田さんは「今年四月、橋本総理に『基地をな



くして」と手紙を書いた。県はヘリポート問題については、地元と国が直接やって下さい」とノータッチだ。沖縄の北部は沖縄じゃないと大田知事は思っているようだ。彼女は辺野古の入り口に立つ平和のモニュメントの作成者で「最初は基地に苦しんでいる人々を描こうと思ったが、佐喜間美術館で丸木位里さん、俊さんの「沖縄戦の図」を見て、菩薩のイメージが沸いた」と述べた。

「ヘリポートいらない名護市民の会」は、六月から会報『ひろば』を発行し、地元住民の声や市民投票の動きについて詳しく説明している。六月号一部二百円、七月号一部五百円。申し込みは〒905 沖縄県名護市名護1591番地へリポートいらない名護市民の会 情宣部 (TEL 0980・54・3643)

### 「米海兵隊は日本にいない」意見広告

五月三十日付「ニューヨークタイムス」に掲載

三月中旬から本格的に動き初めた「米海兵隊は日本にいない」意見広告を「ニューヨークタイムス」に

掲載する運動（事務局・大分県湯布院町）が実現し、五月三十日に一面広告で掲載された。

「憂慮する日本人からアメリカの友人へのメッセージ」と題された広告の見出しは「Please Remove Your Marines from Our Soil」と大きな字。一九六五年に沖縄で米軍車両にひき殺された五歳の少女の事故現場写真を大きく掲載し、沖縄の基地反対運動、軍隊による性暴力、騒音、環境破壊などを説明して「あなたの意見や考えを手紙、FAXまたは電子メールでお知らせください」と呼びかけて連帯を訴えた。

六月二十日現在、広告への反響は六十七通に及び、「米国人はこのような事実を知らなかった」「軍隊は私もうらないと思う」などの賛成、「日本は戦時中に残虐行為をしたではないか」「米軍基地のおかげで日本経済は復興したのに」などの反対の賛否両論が寄せられている。「単刀直入な米市民の発言の中で、もの言わぬ日本政府」の姿が見えてくる。反対の立場の声にこそ耳を傾けよう」と、運営責任者は述べている。

◆問い合わせは「米紙意見広告を実現する会」へ。

TEL/FAX 0977・85・5003

「災害被災者等支援法案」成立をめざして

——「人間の国へ」大報告集会

『あごら』先月号でもお伝えしたように、「市民Ⅱ議員立法」である「災害被災者等支援法案」が六月の国会で継続審議になった。これを受けて六月二十九日（日）、東京では文京シビックセンター「シルバーホール」で報告集会が行なわれた。

開会直後、まず参加者全員で一分間、震災犠牲者のために黙祷を捧げた。そのあと、市民側・議員側両方から審議入りに至る経過が報告された。市民側からは〈市民Ⅱ議員立法推進本部〉代表の小田実さんが「去年の五月から、心ある議員の皆さんに声をかけて一緒に進めてきた。今までの陳情政治のやり方ではない、主権在民に一番ふさわしいやり方だった。国会に提出されてから宙吊りの状態で、その間街頭リレートーク、記者会見、デモなどいろんなことをやってきた。廃案を目の前にしてここまでもつていったのはたいへんなこと」と評価した。議員側（すべて参議院）からは本岡昭次議員（民主）が「国会は法をつくるところだから、

ら、市民から出た案を議員が仕上げていくのは道筋。政府と与党が支持しない議員立法で廃案にならなかったのは初めてで、画期的なこと。臨時国会ではまた吊されて廃案まで追い込まれないよう、始まったら即審議を要求する」。栗原君子議員（新社会）は「これから私たちが答弁に立つわけだが、自民党議員をどう引き込むかが問題。市民からも働きかけてほしい」。山下芳生議員（共産）は「各党の議員が立場を越えてまとめることができたのは大きい。被災地と各地方との温度差を埋めるのが課題」。緒方靖夫議員（共産）は「九月まで我々も英知を集め、理論武装し、どの賛同議員も説明できるようにする」と発言。

〈推進本部〉兵庫事務局長の山村雅治さんと、〈公的援助法実現ネットワーク〉事務局長の中島絢子さんが被災地の現状を報告した。山村さんは「被災地住民は法案に賭けている。これがあるから生きられる」という気持ちを、全国に広げていきたい。中島さんは「被災地では一月だけでも百六十二人が孤独死した。これは氷山の一角にすぎない。神戸には更地がまだたくさんあり、復興したのは表向き。生活保護すら切られ、

公園に住んでいれば住所不定とされる」と、現地のようすを生々しく語った。

伊賀興一弁護士からは「法案の歴史的意義と論点」と題して「この法案の基本は憲法第二五条（生存権）と一八条（幸福追求権）。自民党はこの国では公的援助はできない」とずっと言っていたが、憲法上はそうならない。実は、生活保護法にもその矛盾が内在している。同法一条には「自立を助長する」八条には「最低生活の重要を満たすに十分で、かつそれを越えないもの」とある。この矛盾に被災地支援法案は食い込んだと言える。この法は被災者の実情に根ざし、かつ「いつ被災するかわからない」市民のために、また自然と人類の共生のシステムとして必要」と解説。

支持市民からは内橋克人さんが「参議院災害特別委員会は必ず法案を審議して、本会議に出さなければならぬ。その際、優先順位では内容如何にかかわらず、期限付きのものが最優先である。議員立法は日本では少なすぎるし成立しにくい、どう増やすかが問題。住専に公的資金を使ったのは「金融システムの維持」のためというが、公的とは何か考えなければならない」

と発言。佐藤ひろこ中野区議と鈴木美紀保谷市議からは、各地元の取り組みが報告された。

最後に、九月議会に向けて賛同議員を更に増やし、各地の運動を盛り上げていく決意（被災地から各地への出前も可能）を確認し、閉幕した。（れ）

### 「プロジェクト結ぶ」が 夏休みボランティア募集

被災地ボランティアグループ「プロジェクト結ぶ」で、夏休みボランティアを募集中。仮設住宅ふれあい訪問、バザー手伝い、引越手伝い、被災地の復興を知るための調査など、仕事の内容はさまざま。資格・経験などは一切関係ありません。

宿泊も可能（要連絡）。活動中の事故が心配な方はボランティア保険（一年どこで活動しても五百円）に入れます。

◆連絡先 〒662兵庫県西宮市芦原町1-20

TEL 0798・64・5829

「プロジェクト結ぶ」八木まで。

# 語りかけたいあなたへ

大里知子

## ボタン

NHK総合テレビ、幼児向け番組「おかあさんといっしょ」の中に「パジャマでおジャマ」というのがある。二、三歳の子供に一人でパジャマが着られるかということで、ボタンのあるパジャマを丁寧に着る子、トレーナー式のものを着る子、それぞれに一所懸命に着ている姿を見ていると、知らず知らずのうちに、自分もテレビカメラの前でパジャマと格闘している錯覚にとらわれてしまう。そして、「こんな小さい子には、やっぱりボタンがあるパジャマがいいのだな」と、改めて納得したりしている。

たしかにボタンをはめることは、指の訓練になると思う。まだ私が、自分で身の周りのことが出来た頃、パジャマのボタンを時間かけて、ひとつひとつはめていた。でも、ボタンをはめることが指のために良いということを知りつつ、ある時からこの着脱方法をやめ、前あきの服やパジャマは着る前にボタンをはめておいて、頭からかぶって着たり脱いだりすることに決めた。当時の私は、一つのことをするのに時間がかかることと、自分でやる

\*\*\*\*\*

ことややりたいことを一杯抱えていて、いくらでも時間を有効に使いたいと思った。  
もっともつといういろいろなことをしたいという理由があったからだつた。  
すべてのことをかならず人の手をわずらわし、誰かの手にゆだねてすごさなければいけ  
なくなつた私にとって、今これらのことを想いかえすとき、何かとても大事でピカピカに  
光つたものに思えてならない。

(一九九七・六・十五)



Kiriko.

へシリーズ・母を語る 4へ

## 限らない受容の人——私の母

小林カツ代

テレビの中だと、話しやすい!?

小林カツ代です。今晩は。テレビというものは怖くて——むしろ自分自身が怖いというか——マイクを持つと全く人格が変わってしまうのです。私自身の中にタレント性があると思うのですが——(笑)。昔、落語家なんかが家に帰るとムツリしていたと聞いて「そんな馬鹿な」と思ったのです。私は家でムツリはしません。テレビで見ると馬鹿陽気な人間ではないのです。かと言ってあれが嘘ではないのです。ただ仕事だとテンションが上がるのですね。

うちの夫は英語ができるので、手紙を書くときまずはじめに英語で書くのです。そして日本語に訳するという人で、なんてキザなと最初思っていたのです。外国人と電話で話すと完全に「オクターブ声」が上がっていますね。「なんだ、嬉しがって。イヤなヤツ!」と思っていた(笑)。自分が喋れないもので——。ところが英語だと本当に喋りやすいらしいのです。日本語だと「あー」とか「うー」とか詰まっているんです(笑)。

私もちょっと似ていて、テレビだとかラジオだとかでは澁みなく喋れるのです。今日は普段の私だと思います。この私が静かにとつとつと喋るとは思わなかったでしょう。ところがあと二十分もすれば嘘のようにべらべら喋りだしますから（笑）。

## 体の弱い私を支えた母の愛

私は小さい頃、たいへん体が弱かったです。嘘みたいですが、少人数の相手だといつい本当のことを言ってしまうですね。めったに喋らないことですが、私は心臓が良くないのです。ところが心臓が弱いというみんな笑うんです。あ、皆さんは笑わない。いいですね、ここは（笑）。心臓が弱いという、「嘘ばかり。毛が生えてんじゃないの」と言われるのです。



小さい時「十九歳までしか生きないでしょう」と医者に言われたんです。なぜ十九歳なのか、十八や二十でもいいのに、とにかく十九歳と言われた。それで母はびっくりして医者に通っていたのです。当時は良い心臓の薬もなく、卵の油、これが心臓には一番いいとかで——卵の黄身をトロトロのこげ茶色になるまで練り上げる。それを毎日飲ませるのです。お皿に乗せたのをペロツと舐める。すると母がすごくほっとした顔をする。私自身は十九までしか生きられないとは知らないのですが、母は

十九で死んだらどうしようと、朝起きたら毎日とにかく土鍋で卵を何個も何個も使つて。それでもほんの少しの量しかできないものです。

小学校高学年の時、すごい儲け主義の医者に出会つたのです。どうして出会つたかというところ、熱を出した時かかり付けの医者がいなくて、「あそこにはかかるな、腕はいいけどすごい儲け主義だから」と、近所で言われていた先生に、母は「腕はいい」という言葉を信じて、「お金には換えられない」と来てもらつたのです。

案の定、「鴨が葱と調味料全部しょつてきた」とばかりに「一年で丈夫にしてあげるから、毎日注射に通いなさい」と（笑）。体質改善ですね。注射なんて毎日刺されたらたまらないですよ。でも母の必死な様子に私も何か察して通つたのです。何を注射されたのかわからないのですが、半年くらいでやめたのです。医者も金を取るだけ取つたら気が済んで「もういいでしょう」と（笑）。飽きちゃつたらいいですね。私は今でもあまり走れないし、運動は嫌いです。小学校から運動できなかつたので。あまり泳げないし。そそっかしいので早く結婚したのですが、彼は湘南の逗子の育ちだもんで、どんどん泳ぎに行こうとする。私は「浮き袋借りていく」と。「大人がそんな浮き袋なんて」と言われて、かつこつて泳いでみたら泳げるようになったんです。息継ぎが下手ですが。

今私は上手に呼吸をしています、上手にしないと心臓に負担なのです。講演なんか聞いていて心臓の悪い人はわかりますね、自分が心臓が良くないので。

でも十九歳で死にませんでした。それで「十九歳で死ぬ」と言つた医者に母が連れて行くと「うん、よくもつたけど三十八歳までだ」（笑）。ちょうど倍ですよ。その頃は母はもう彼を信用してなくて、「どうも腕が悪そうだ」（笑）。腕はいいけど金取り主義の先生のほうも、半年で見切りを付けました。結局三



十八になつても死にませんでした（笑）。

今でも人間ドックに行きますと、「心臓がちよつとよくない」と言われます。だから「太ってはいけない」と言われていますが、ごらんのように無視しています。

## 大阪の商家の御寮さんだつた母

私の母親はこよなく優しい人でした。とにかく優しい、それに尽きる人でした。私は人間はどれだけ優しくていいと思います。

自分が母親になるといやすね。良い母親になろうとするのですね。私の母はそんなことがなくてひたすら優しい。子どもが問題起こすと「わがままに育てたからだ」とか、「ほしいもの何でも買つてやつたから」とか「親が働いていたから」とか言いますが、私はほしいものは何でも買つてもらえたんです。悪徳医者にかかれるくらいだから裕福だったんです。自分で裕福というのもしやらしいんですが、大阪の古い商家の生まれ育ちですから。

差別の話からしないと大阪の食の話は語れないんです。大阪の食の話なんか読んだことないでしょう？ 京都ばかりで。京都の方はいらつしやいますか。いらしたらごめんなさい。あそこはあまり美味しくない私は思つてゐるんですけどね（笑）。京都の家庭料理は素材が、魚も良くて棒鱈とか鯨とかああいふ干したもので、京に都があつたから腕が発達したのです。大阪は商家の料理をもつと前に出してもいいですね。大阪商家の料理というと、丁稚さんとか、そういうところから話していかなければならないのです。

母親はいわゆる商家の御寮さん——ごりよんさん、奥様のことですね。おばあちゃんのことはお家さんと言います。お家さんというのは大阪の発音でおいえさんと言うのです。なかなか発音できない。おえさんと言つてはいけません。げつと（吐く真似）なつてしまいます。地方から来た人にはむずかしくて、「おいえさん」、「いや、おいえさんだ」と。ご隠居さんなんて呼んだら大変ですよ。まだ隠居してないつて。そういうところに生まれたんです。女中さんが初めて奉公してくると、古い女中さんが「この人がこいちゃん、この人が大い」と私と姉のことを紹介する。私の旧姓は浅野でしたので、浅野こい、浅野おい——変わった名前だなあと女中さんは思つたという話です（笑）。

私の家は、古い商家と言つてもそんなに古くないんです。父が一代で築いたものですから。母は非常に家柄のあるうちから来て、父と母は家柄も育ちも教養もまったく違うんです。現在は夫と妻の育ちがすごく違う人はいないと思います。そんなに貧富の差が激しくないのです。

うちの母親は旗本と勤王の政略結婚の末裔なんです。ところが私の母方の祖父が京都帝大を出たお坊っちゃん、めくら判、今は差別用語ですが、保証人の判を押しまくつたんですよ。気が付いたら全財産なくなつていたんです。それでおばあちゃんは「金持ちで教養があるような男は駄目だ。うちの長女は貧乏でも腕の良い人と結婚させたい」と思つたのです。

こんな話の良いように聞こえても、母にとつては不幸だった。母は良い家柄に生まれて、お金持ちに育つて、大学に行こうと思つてた。そして同じように学問の好きな人と結婚しようと思つていたので。今なら「三高」だとか言うかと軽蔑されますが、母にとつて理想の人は学問をする人だったので。ところがおばあちゃんが「そんな人は没落した途端に駄目になる。小学校さえ出たらどんな人でも金さえあればよろしい」となつちやつたんです。それで父と結婚することになったのです。

## 貧しい父の「結婚何か条」

父は徳島出身で貧乏な生まれ育ちなんです。ではなぜ私はこんなに料理が上手かといいますと——自分で言うといやらしい(笑)。でも上手だと思わないと専門家なんてやってられませんか(笑)。うちの徳島の父方の祖父は貧乏だけど、ものすごく料理がうまいおじいちゃんなんです。「腐っても鯛」と言ったら「鯛は腐ったらただの魚だ、生きているイワシにはかなわない」と言うような家庭に育った。父は貧しくても美味しいものを食べて育ったのです。ところが十三歳で大阪に奉公に上がったんです。まだ父恋しい、母恋しい、の年ごろですよ。父は非常に頭の良い人だったんです。父は頭が良くて、母は優しくて家柄が良くて、家が裕福で、いやらしい話はつきりですね(笑)。他人が言ったら私怒る。でもいいわ、自分が言うんだから(笑)。少人数だから言えるんですけど、こんな話。

父はめきめきと出世して二十四歳で番頭になったんです。すごいじめですよ、父を蹴落とそうとして。その徳どんを——父は徳太郎と言います——店の旦那は自分のところに置いておきたい。当時の一番の出世は何だと思いませんか？ そのお嬢さんと結婚させることなんです。当時はすべて親の思惑で、お嬢さんは徳どんと全然結婚したくなかったかもしれないのに。父はそのお嬢さんと結婚させられかけたんです。

ところが父は「あの人は私立の女学校を出ているから、頭が悪いに違いない」と思ったんですね。父の頭の中では、公立は頭の良い人で私立はそうではないという精神構造になっていたのです。自分は頭が良いかどうかわからないから、頭の悪い娘と結婚したら一層頭の悪い子ができてしまう(笑)と心配

して、その縁談を断りました。

面白いですよ。「結婚何か条」というのを作ったんです。まず「頭の良いこと」——それを選別するには公立の学校を出ていること。「家柄の良いこと」——自分には家柄がないので行儀作法を教えられないから。非常に理屈ですね。「美人であること」(笑)、「眼鏡をかけていないこと」——眼鏡をかけているとインテリに見えるので商売に向かない、と(私の家は製菓材料の卸問屋だったので)。最後に「達筆であること」——これが商売をものすごく広げることになる。ドラマに書きたいくらい、ドラマチックなことがたくさんありました。

この条件を近くの煙草屋に行ったのです。「こんな娘を見つけてほしい」と。煙草屋のおばさんが「ようあんた、そんな厚かましいこと言うねえ。自分の顔を見てごらん。自分の教養見てごらん。小学校しか出ていなくて。そんなもんどこに転がっている」と言われたのです。

その頃ちょうど、母方では祖母が母のおむこさんを必死に探していたんですね。子守と女中が近所の煙草屋さんに「うちのお嬢さんの旦那に、腕が良くて人柄が良い人を探してるんです。学校はどうでもよろしい、顔もどうでもよろしい」と話した。そしたら、煙草屋さんが「ああ、徳どんがいる」と思いついて、見合いをさせられ、あーもすーもなく母は結婚させられたのです。

## 明治女の「男女平等」

そういう母ですから、絶対本人の好きな人と結婚させたいというのが私や姉への夢でした。

ところが母は大変開けた人で、明治四十五年生まれ——明治生まれの女性はそういうところを持つて

いるのですが——男女平等を地で行ったのです。結婚するや否や「私は男女平等で、私とあなたは同じ人格だ」と言ってひっぱたかれた。——たった一度だけですがひっぱたかれる関係から始まったのです。手を上げた父のほうもびっくりしたんです。理想の女房を——一つだけ妥協したのは母は眼鏡をかけていたんですが、顔立ちがよくて、背も高くて（私がちびなのは戦争の後遺症ですが）——いっぺんでほれた妻を得たのに、「男女平等だ」なんて言うから「これはいかん」と思ったそうです。

## すべてを受け容れて

こんな風に私は生を受けました。生まれた時は父は戦争に取られて、いませんでした。戦争中になぜ生まれたんだ、よその子じゃないか？　と思わないでください。父は二回徴用されたのです。いったん帰ってきて私がおなかにできて、また徴用されたのです。ですから戦争が終わって帰ってきた時、私が「こんなおじさん、いやだ」と泣いたらしいです。覚えてませんが。そんな具合に日本が波乱のときに誕生したのです。

さて母親の話に重点を絞りますが、母は「受容の人」でした。どんな話でもまず受け入れました。どんな話でも母親はいつも「そう」と。私は子どもの話を聞いている途中に、つい「そんなことできるわけないでしょ」と言っちゃうんですが。

私はなんと学校休みの名人でした。ズル休みの。昔は登校拒否という言葉がなかったのです。登校拒否という言葉で縛られている子どもや母親が沢山いると思いますが。

私ってすごいんですよ。朝起きるでしょう。冬だと寒いでしょう。それだけで休むんです（笑）。虚弱

児カツちゃんと思われていたからすぐ都合がいいんです。朝起きて「うん？ 今日寒いな。布団から出たくないな」と冬ごもりの熊みたいに考えて、母に（低い小さい声で）「何か、熱あるみたい」と言うんですよ。熱なんか全然ないのに、ただあつたかい布団から出たくないわけ。母はそばにきておでこに手を置くわけですよ。（ゆったりした口調で）「ないように思うけどね」「どっか苦しい」。よく言うと思いますん？（笑）。「ここが」とかはつきり言えないので「どっか苦しい」って言うんですよ。「あ、そう」と母。私が「学校行かれへんわ」と言うとき、母は「ほな休みまひよ」となるわけです。

午前中布団の中でグウグウ寝ていて、午後になると当然おなかが空くわけです。「おなか空いたわ」「おかいさん炊きまひよか」。そんなもん全然食べたくないわけですよ、元気なんですから。「うーん、おかいさんやのうてご飯がいい」「梅干しでご飯にしますか」「ううん、卵焼きがいい」（笑）。母が布団のところに運んでくるんです。父が見て「何ちゅう甘やかしてんますのや。起こして食べさせなさい」と怒るんですが、「それでもこの子、しんどい言うてはりますから」って。

ここで注意しておきますが、よそのうちと違って父も母も子どもに敬語を使ってたんです。とつてもきれいな言葉なんです。それで私は小学校の頃からきれいに敬語を言えるようになったんです。でも、私も姉も父母に敬語を使わなくていいんです。面白いでしょ。例えば夜、母が「もう寝はったらどうですか」。寝はるといふのは敬語なんです。父も「そうやなあ。カツ代も節（姉）も寝はったほうがよろしいよ」と言うのです。そしたら私は「ほな、寝るわ」（笑）。「ほな、寝るわ。おやすみ」と言うとき、両親が「おやすみなさい」とこう言うんです（笑）。それが普通だったんです。

その代わり、学校に行くとき「行ってきます」と言うとき、母が「ちよっと戻りなはれ」と言うんです。「学校に行くのに『行ってきます』とは何ごとです」と言うんですよ。大阪弁では「いて参じます」。「学

校は勉強を習いに行くんです。『いて参じます』と言いなはれ」。

友達なんか「行つてきます」の世界の人だからかつこ悪いんですよ。今日こそはどさくさに紛れてと「行つてきます」と言うと、母が「戻りなはれ」「違いますやろ」。友達の手前、小声で「いて参じます」。みんなに「カッちゃんこ、いつも『いて参じます』、いて参じます」つて」と笑われたんですが、外への言葉はとっても厳しかったんです。家ではとてもぐうたらぐうたらしていたんですが。

昼ごろになると元気になるもんで、母に「治つたみたい」と言うわけです。母は「あ、そう、よかつたわね」と言うんですね。それで「なんか映画でも見れるみたい」(笑)と言うわけです。「あ、そう。ほな見に行きまひよか」。病氣の子を空気の悪いところに「ほな見に行きまひよか」ですから。おかげで私はものすごくたくさん映画を見ているのです。ずる休みのおかげで、私の脳の引き出しはいっぱいものが詰まったのです。

あるときはは京都の先斗町に都をどりを見に行つたんです。これも朝すごい雨が降っていて、こんな雨なのに学校行くのイヤだと思つて、例によつて「どつか悪いみたい」とくるわけです。私は母が死ぬまで一度訊いてみたかつたんです。「私のずる休み知つてた？」と。これだけは謎なんです。訊かなかつたのです。中学校もずる休み、高校もずる休み、大学もずる休み、ずる休みの女王なんですよ、私は。中学をなぜ休んだかというと、授業が面白くなかつたからです。だから、ほとんど寝ていたんです。学校で寝るくらいなら家でぐつすり寝たほうが良いんではないかと(笑)。

クラス会で「私は休む女王だつた」と言つたら、「カッちゃん、何言うてるのん。あんた遅刻の女王もやつたんよ」と言われました。遅刻のことはよく覚えてないんです。遅刻するとみんなはこそこそ入ってくるのに、私は先生の後ろについて、前の入口から入ってきたんですつて(笑)。

先生が「浅野、何でや」と言うと「近いから」。ちびなので席が前から二番目だったので(笑)。そういう生徒だったのです。でも母は父母会なんて一度も来たことがない。学校なんてどうでも良いんです。でも学校で理不尽なことを話すと学校に電話をかけました。「おかしい」とか言つて。

## その母の「ちよつと待ちなはれ」

母親はめつたに怒りませんでしたが、大変象徴的なことでせひ話したいことがあります。

それは私が女としてより、人間として目覚めた第一歩だと思ふのです。

私が大学の一年生の時、男性と付き合つてました。ボーイフレンドです。

私は見かけに惚れる性分で、すぐ飽きてくるのです。その人は背広がとっても似合ふんです。ところが春に付き合い始めた時は背広を着ていたのですが、だんだん暑くなつたので背広を脱いでポロシャツを着てきたんです。ポロシャツ姿を見た途端、私の手の先からパワーと恋心に羽が生えて逃げていった。まだ十九か二十ですから無理もないと思ひませんか。すごくいい人だったんですが。

その時、ポロシャツ男が「僕は共産党員だ」と言つたのです。ポロシャツと共産党員というだけで「そうか。あかん、あかん。これは別れる良い理由ができた」と。まさかあなたがポロシャツだからがつかりしたとは言えませんからね。「これはいい口実ができた」と、家に帰つたのです。

彼はその時に随分政治的な話をしたのです。私が「アカはいやだ」とか言つたら、彼は、そうじゃない、侵略戦争はどうとかこうとか言つたんですが、私は完全にノンポリでしたから眠くなるんです。

それでポロシャツ男性と別れようと思つて、家に帰りました。



母はちょうど布団のカバーを縫いつけていました。私は暮らしのことで母に随分教わりました。ただし「カツ代ちゃん、こうするのよ」と習ったわけではなく、全部母の姿と母の音と母のふるまいと母の声と、生活の音と暮らしの見聞きで覚えたのです。強制的に「女はこんなことをしなければいけない」とか一言もなかったのです。

母はカバーもフアスナーなんかでなく、全部糊のきいたホテルのようなシーツを額縁に縫い止めていくという人でしたから、私は母の作ってくれた布団ほど素晴らしい布団に寝たことがないです。私はフアスナーでビューというようなのでも面倒だなと思っているのに、母は丁稚さんの分まで全部それなんです。それを替えるときは大変だったと思います。

さて、それからです。映画のようにその光景を覚えていきます。うちへ帰るとルンルン気分で、私は内緒の話でも何でも母に話したいから、「着替えたら手伝うからね」「ありがとう、あんたは本当に上手だから」と。

「あ、そうそう。彼ね、アカやってんよ。それで別れてん」

「あの人、アカやってんよ」と、もう一度言いながらふだん着にかえるために部屋を出ようとした瞬間、母がものさしをピシャツとして「ちよっと待ちなはれ」。

この「ちよっと待ちなはれ」が怖いんですね。「いて参じます」以上に（笑）。

「なんで？」

「いいからちよっと座りなはれ」。

私の母は「足は真っ直ぐな方が良い」と正座も無理にはさせなかった人なんです。その母が「ちゃんとお座りやす」と言うのです。

## 理由がちゃんと言えないことで人を謗るな

座ったら「あんた、今、何言いはったん?」「あの人、アカやと言うてん」「アカがどないしたん?」「共産党やんか、お母ちゃん」「それがどないしたの?」「アカやん」「それがどないしたん」「共産党やん」(笑)。良く考えたら知識も何もないんです。私は当然「あ、そう、共産党の人。じゃあやめた方がよいわね」と言うと思ったんです。人間というのは二十歳まで育てられても、本当に親を理解しているかという、していませんね。

「それで別れたん?」……母はこう言うのです。まさかポロシヤツだから別れたとは(笑) いくらこよなく優しき母にも言えません。だから本当の恋なんてしてないんですよ。背広に惚れていただけなんです。

「別れても別にちつともかまいません。そやけど共産党やから別れたの?」「ほんでもお母ちゃん、怖いやんか、アカやよ、アカ!」。どうしてこの母はわからないんだろうと思った。そしたら「あんた、さっきからな『アカやん』『共産党やん』ばかり。もし共産党が怖くてアカが怖いなら、なぜ怖いと言ってごらん」。私はグツと詰まったのです。

「ほんでもみんな怖いゆうてるやん」。やっこの思いで言ったんです。小学校の時、共産党員の先生がいて、すごく良い先生だったんですが、授業の中で「ソ連の人たちも妻や子がいって、私たちと同じような生活をしている。悪者はかりがあそこに住んでいるわけではない」と言って、それだけで学校を追われたのです。

私に言えるのはそれだけでしたから、同じことばかり言ったのです。すると母は「理由がちゃんと言えないことで、人を誇ることは相成らん」と言うのです。「人を誇り、ものを誇る時にはちゃんと理由があるはずでしょう」と。——それは今も私の中に生きています。

それでも私には意地があつたので「お母ちゃん、怖いことないのん」と言ったのです。そしたら「よく覚えておきなさい。戦争真つただなかの時に、共産党だけがあの戦争に反対したのよ」と、その時、獄死した人のことやいろいろのことを話してくれました。「私は共産党でも何でもない。歴史の事実を話しているだけなのよ」と。母は饒舌な人ではなかったのです。ただ事実だけを話してくれたのです。

## 「自分で考える」ことを教えてくれた母

十九歳のこの時のことを、多分これは一生覚えているなと思つたくらい、自分自身が恥ずかしかったのです。

その時、母が自分でものを考えるように育ててくれたのが本当にわかつたのです。自分で全然考えていないんですから。「アカやん、共産党やん、アカやん、共産党やん」だけですから、私が言えたのは。

母が子どもにもっとも大事にさせたことは、自分でものを考えること、自分でものを見ることでした。そう言えば私がボーイフレンドと付き合ったり、恋人ができたり、結婚を申し込まれた時、「どんな人？」とは訊いたけど、「私と会わせなければならぬ」とか、「こんな人は相成らん」とは一切言わない人でした。

私は母に「ねえ、心配じゃない？」って言ったら、「全然心配していません、あなたのようない人が選ぶ人に間違いがあるわけありません。私はあなたが選ぶ人を大好きになるに違いないから、誰と結婚してもかまわない」と言うんです。「よその国の人でも？」「かまわない」。

本当に私が連れてきたら「ああ、カッ代はいい人と結婚するねえ」ときつと言ってくれる人なんです。もし例のポロシャツを「共産党員だけと結婚してもいい？」と訊いたとしたら「ああ、どうぞ」と言う人なんです。

その時に「何々が良いとか悪いとか言う時は、理由が言えなければいけない」とわかったのです。だってこの間、諫早湾の問題で政治家が「ムツゴロウより人間が大事」だとか言ってましたが、本当に海水を閉じて良いのか、「この人は自分でものを考えてないな」と思いました。自分でものを考える習慣が付いたのは母のおかげです。

いろいろなエピソードがあるのですが、「母がピシャツと物差しを置いた時にすごく恥ずかしかった」というのが、今の私の考え方を形作っていると思います。

## 何をしようかと娘を信じ続けた母

それともう一つ、小さい束縛をしなかった人です。髪が赤かろうが黒かろうがパーマかけようがズボン太くしようが、そんなこと人格と何の関係もない、「目を閉じたらわからないでしょ」と言う人でした。そう言われればそうですね。

実は私、アイススケートの名手なんです。皆さんに見せることないから名手といって良いと思うん

です(笑)。なぜできるかというと、中学の時禁止になったのです。アイススケート禁止。それまでは行きたいと思わなかったのです。なぜ禁止になったかというところ、先生が「男女共有の場である」と。帰って母に言ったら、母は笑いながら「あのねえカッちゃん、共有と言いはったんちがうと思いますよ。交遊の場と言いはったんと違いますの」と言われて、また学校で聞きました。「先生、男女共有の場と言ったんですか」「いや、交遊の場だ」と。

それを聞くや否や、「よし、アイススケート行ってみよう、本当に男女交遊の場なのか」というより、禁止されるとしたくなるのです。母に「アイススケートが禁止になった。だから行きたい」と言ったのです。

普通の親なら反対するでしょう。なのに「ほな、行きまひよか」とこう言うんです、母は。そしてデストロイヤーみたいな帽子を編んでもらったのです。目だけ開いた覆面です、覆面。よく考えたらそのほうがずっと目立つんです。スケート場で目だけ開いた真っ赤な帽子かぶって(笑)、冬で、氷の上なのに暑くて暑くて大変なんです。

母は観覧席にいて見てくれるわけです。見つかると停学だから。「お母ちゃん、学校の先生いたら知らせてよ。すぐ逃げるから」「はい、わかりました。よく考えたら母は学校に行かないから先生の顔知らないんですよ(笑)。寒かったと思いますよ。下手くそなデストロイヤー娘を見ているわけですから。

あまり暑いので覆面はやめて、親戚がスキーをやっているでサングラスを持っているので、サングラスかけてマスクして滑ったのです。それも目立つんですよ。スケート場で頭のおかしい子がいつも来ている。母親は心配でいつも見守っている、という具合で。

そのうち母も私も馬鹿馬鹿しくなつて、私が来なくて良いと言ったら「気を付けなはれな。見つから

んようにしなはれな。見つかったらえらいことになりますさかい」。言葉だけは上品だけどとんでもないこと言ってる親なんです（笑）。

一人でこっそりやるのはものすごく上達するんですよ、怖いものだから必死で。

フィギュアとか演技は習ってないんです。ピヤーツとかグワーとか、とにかくかけずり回っているだけの。スピードスケート、橋本聖子フィギュア靴版なんです。ただただ走り回っている。

だから子どもたちが中学生の頃、一緒に滑りに行くと、子どもたちに「あそこで中年の人がえらいスピードで滑ってるけど、あれ君らの母親？」と聞くんですって。身の縮む思いで「そう」と言うと、「変わった人だねー。すごいなあ、ただ走ってるだけで」と言うんですって。でも、今はやってません。一昨年に教えていて転倒して、後頭部をガーンと打って、やばいかなと思ってやめています、やらせればなかなかのものであります（笑）。

## 「うかつ」も勉強の一つ、と知らせてくれた母

いけないと言われたらやりたくなる性分で、パチンコももちろんい었습니다。でも、それも母に「パチンコというものをやりたい」と言っただけです。いくら母でも自分も行ったことがないから、近くの店には連れて行けないらしくて、「今度旅行で温泉でも入りに行ったら遊技場でやりましょう」と。

人間って何に一番心が安らぐかといったら「受容」ですね。ピアノやりたいと言ったら「ほなやりまひよか」と。父の方が私の性格見通しますから、小さめのピアノ買ってくれた。次に大きいピアノが必要な頃には飽きておりました。

先生がいつもこう言うんですよ、「カツ代さん、あんたここで練習しないでくれる」って。わかります？ 普通は練習して先生のところに行くわけですが、先生のところではレッスンの時だけ練習するわけです。それで「練習しないでくれる？」って。私、意味がわからなかったんですね。レッスンというのは先生のところで練習するものだとばかり思っていましたから。

「あなたは素晴らしい音を出す」と。ただし「音は良い。しかし余りに練習不足だ」と。そのうちに練習とはうちでやってくるんだとわかって、その途端いやになったんです。

それで母に「もう、ピアノ、飽きたみたい……」(笑)「そう、それで？」「やめよかなー、と、思ってたね……」「ほなそうしまひよ」(笑)とこう言うわけです。それですぐやめたんです。

お料理学校にも入ったんですよ。大学の時、夏休みに「新学期生募集」と料理学校に書いてあって、「これに行こう」と思って母に言ったら「ええことですなあ。ほな行きなはれ」。

高いんですよ。半年分の月謝払って、入学金払って、資料もらってきて、これいつからかなと思って見ると、九月からなんですね。よく考えれば、私の大学も九月から二学期。それで母に言うところ「それはうかつでしたねえ。どないします」というから「どないしたらええかしら」「一日くらい行きはります？」(笑)。

一日だけ行けたのです。入学より私の新学期の方が少し遅かったのです。何と半年分の月謝と入学金払って一日だけ行っただけです。普通責められますよね。裕福だっただけではないと思うんです。

母は「まあ、いつか取り戻せますやろ。全然取り返せなかった。

ところで、たった一日の料理がまずかったですよ。「行かんで良かったー。あそこの料理まずかったー」と言うと、「それはよろしうおましたね」(笑)。

そういう母なんです。

そうするとどんな子が育つかというと、こういう子が育つわけで(笑)。あまり良いことではないのかもしれないが。

## 欲求を受け容れて、現実を考えさせた母

先程ちょっと口走った「何でも買ってもらえた」ということ。これはなかなかできませんね。

例えば子どもが昨日ハンカチをほしがって買ったとしますね。今日も別のきれいなハンカチ見つけて「ママ、これもほしい」と言ったら、一枚三百円としますね。二百で六百円。そのくらい払えますよ、私働いているんだし。でも、ここで良き母としてのイメージがあるので、「昨日買って今日も買ったなら、この子は何でも買ってもらえると思う。ここでセーフしないと」と心が働くんですね。

例えば「夜十時まで起きていたらろくなことになる」と言われたら、何だか知らないけどろくなことにならないような気がして、無理やり子どもを九時に寝かせるとか、そういうものつていっぱい世間にあるではないですか。髪の毛染めたら非行になるとか。なぜ髪を染めたら非行になるのか。ここにも非行の方、結構いらつしやると思うんですが(笑)。私もそうですよ。

その当時、物を買ってもらおうというのは難しい時代だったかもしれませんが、母親はそんなに教育的に考えなかったと思うんです。例えば私が今日縫いぐるみのウサギちゃんを買ってもらったとします。次の日また、おもちゃ屋さんで熊ちゃんを見つけたとしますね。私は「あの…熊ちゃんもほしい」とこう言うでしょう。母が「あ、そう。ほな買いまひよか」。あーもすーもないんです。それで熊ちゃんを買



う。今度見に行ったら鹿が増えてる。「鹿ちゃんが増えてたよ」と言うと「また買うんですかあ」と言つて、「ほしい」と言つと「三匹くらいではつてもよろしいなあ」と買つてくれるのです。

これを違う書き方、違うしゃべり方をしたら、とんでもない親ですよ。「あれ欲しい」「はいはいはい」「これ欲しい」「はいはいはい」。おまけに母親が子どもに敬語なんですから。子どもが威張りくさつて「あれ買えー」と言つてゐたに聞こえるじゃないですか。

でも私は一匹より三匹の動物で空想がうんと広がったのです。一匹より三匹使つて遊ぶほうがずっと楽しくて、頭の中にストーリーがいつぱいできるのです。そして四匹、五匹、六匹と買つちやつたとする。どれかに飽きて黒くなつてそこらに放りなげてあつたとする。必ず心が痛むんです。そのうちに母にあれ買え、これ買えと言わなくなつたのです。母が買つてくれても、自分はすぐ飽きる。すごく心が痛むんです、母に悪いことをしたなあ。無尽蔵に与えると子どもがわがままになるなんてことないですよ。私を見てごらんさい(笑)。

それはなぜかという真の愛情は人を決して歪めないと思う。「過保護だ、過保護だ」とよく言いますが、しかし、過保護が悪いのではなく過干渉なのです。

## 命さえあれば、あとはいい

私は親が虚弱児だと思ひ込んでましたから、冬になると学校に行くまでぶんぶくりんに着させられていたのです。着せても着せても母は不安なのです。

言い忘れましたけど、母が私をあまりに大事にしたのは、私の三つ違いの姉を病気でなくしているか

らなのです。何をやったって生きていくだけでいい。これは子どもにとって楽ですよ。生きてりゃいいんだから(笑)。生きてニコニコしていたら、幸せそうなら、母親は嬉しくてならない。生きてるんだもの。それだけでいいの。

姉がなくなった理由を話しておきますね。母は自分が死ぬときの遺言が一つだけありました。それは「もし私が真冬に死んだら、もし真夏に死んだら、いろいろ言われても年寄りや病人には絶対知らせないでほしい。自分が死んだために年寄りや体の弱い人にお葬式に來させてはいけない。隠したために親戚に後でいろいろ言われてもいい」と。

それだけを言ったのは、姉をなくした理由が法事だったからなんです。その時、徳島で法事がありました。父は長男で出世しましたから、徳島では実家も父のおかげで金持ちになり、うちの一家が帰ってくるのが祖父母にとって自慢でならないのです。しかも二人目の孫ができて——まだ父の両親はその子を見ていなかった。

生きていれば三人姉妹。二歳で、一番可愛い時でした。一番上の姉が百日咳にかかったのがうつっていたのです。風邪引き程度だと思われて、ちょっと顔色が悪いくらいでしたが、母は絶対法事には行かないと言ったのです。

でも向こうから「風邪引いたくらいで何だ」とわあわあ言われたのです。父親と母親では絶対母親の方が勘が良いですよ。やっぱり産んでいるんだから。おなかから出ているんだから。

母は「この子は重くなるかも知れないから絶対行かない」と言ったのですが、父はこの子が自慢で自慢でならなかったのです。抱っこしていると「何て可愛い」と言われるんですね。みさおちゃんと言うんですが、父はその子を見せたくて見せたくて、そして決行したのです。

当時、徳島へは船で行くのです。着いたらすぐ病気が重くなって、ついに亡くなったのです。母の一生の悔恨がそれなのです。だから法事とか行事が大きらいでした。

今も教訓として生きているのですが、母は「命以上に大切なものはない。取り返しが付かないのは命だけだから。それ以外のものはどうにでもなる」と。

例えば私が試験で四十五点なんて取ってくるでしょう。「いや、これは五十点満点ですか」と言うわけです。私が「いや、それは百点満点」と言うと、「百点満点でよう四十五点も取りましたねえ。四十五点でも、そら、えらいわ」(笑)と言うんです。馬鹿にされたような気がするんですが、違うんです。「五十点満点と思って見たらよろしいわ」と言う人だったんです。

「生きているだけでいい」と思って、もし現代の教育界とかを見てもらなさい。すごく気が楽よね。私は自分の子どもに「生きているだけでいい」なんていう教育はなかなかできませんでした。子どもが四十五点なんて取ったら「何これ、五十点満点?」「いや、百点満点」「へえ、よくこんな点取るわね」なんて言ったら、次から見せなくなりますよね。

## 良いもの、おもしろいものは何でも見せる

母親で一番有り難かったのは、いつも心が自由だった。何を言っても「そんなこと言ったら人が何と思うか」とか一切言わない。「女だから」とか「下の子だから」とも一切言わない。楽よお、何考えてもいいんだから。空想の世界に生きていて、母に話すと「そおう、そおう」と聞いてくれるのです。

小さいときから映画を見せてくれて、本を買ってくれて、漫画を読みたいと言うと漫画を買ってくれ

て。親戚が言いました、「あなたとこのカッチャン頭が良いんだか、悪いんだか。あの年であれだけ漫画を読んでるといのはおかしいんじゃないの。どうして姉さん、カッチャンに漫画なんか買ってやるの」。母は澄まして「漫画だけやったら心配やけど、字の本もいっぱい読むからねえ」と言ってくれたのです。叔母たちはぐうの音も出ず、陰ではこそそ言ったらしいですが……。

でも母もおかしいですよ。もう漫画でも何でも買ってくれたんです。一言も「こんな本どうして欲しがるの」なんて言わないんです。少女雑誌、その頃は『少女』『少女世界』『少女の友』『りぼん』はだいたい後ですね、『たん海』という男の子の雑誌、それから『それいゆ』がありましたね。あれ欲しい、これ欲しいと言うので、大体月刊誌を六冊購読していたのです。ほかに小説とか童話とか単行本も次々。

学校ではほら吹き少女というあだ名が付いたのです。先生が、『少女の友』読んでる人「はーい」、『少女』読んでる人「はーい」、『たん海』読んでる



人」「はい」と全部手を挙げたから。おかげで本は好きですね、今でも。

学校から早く帰ったら、ある日母が「すぐ京劇、行きまひよか」「エーッ」「梅蘭芳来てますねん」。そんなもん知らん、私は。梅蘭芳だか梅焼酎だか。歌舞伎座に「梅蘭芳来てますねん。今やったら間に合うから、きつと補助席か何か買えると思いますから行きまひよ」。

商家のご寮さんだから忙しいんですよ。お店の人たちのお料理の采配振るわなければならぬから。だからこそそこそと行かなければならない。当日券のほうがけっこう良い券があつて、梅蘭芳見ました。梅蘭芳という名女形ですね。文化大革命の犠牲になつて、殺されはしないけど悲惨な最後を送りましたが、その人の舞台を母のおかげで見たのです。

「バレエが来た」というと連れて行つてくれる。「ルーブルの何とかが来たから行きまひよ」。——私は小さいときに訳もわからず見たことがすくく肥やしになつてゐるのです。

油絵を見ていて「日本髪の人がいるけど、これ油絵？」つて訊いたら、母が「そう油絵よ」「これ誰？」「黒田清輝よ、この人の油絵は見事でしょ」と言つたのを覚えてゐるのです。

三越で日本画展があつた時に「私は上村松園が好きやから、カツ代ちゃん行きまひよ」と、また行くわけです。どれもこれもノペーッとした日本画を見て「こんなのどこが良いんだろう」と思つてたら、今度は息子さんの上村松篁。「私、悪いけどやつぱり上村松園さんのほうが好きやねえ」と言いながら、ちゃんと見に行くのです。すると私は上村松園と上村松篁の絵の違いがわかつたのです。伊東深水という、浅丘雪路さんのお父様、あの絵も母はあまり好きではなかつたですね。私も、やつぱり上村松園は素晴らしいとだんだんわかつてきたのですね。

芸術も音楽も本当に母はたくさん見せてくれました。一つは家が裕福であつたこともあるかもしれま

せん。でも裕福であつても違う面でお金を使う人もたくさんいました。母がそんなことにお金を使うから、父はこう言いました。「もし私があなたと結婚してなかったら蔵が七つは建つたでしょう」つて。母は「今、見せられるときに見せておきたい」と言いました。戦争を経験しているから、いつなんどき見せられなくなるかわからないつて。

「ハムレット」、ローレンス・オリヴィエ主演の、それも見に行つたのです。でも飽きてくるんですよ。幽霊が何かぼわーっと出てきて、ハムレットは「生きるべきか」とかうろろして、退屈で死にそうなんです。それで母をコンコンとつづいて「私、退屈」と言つと「はい、出ましょ」と出ちゃうんです。私だったら「もうちょつと見てなさい。もつたない、千五百円」(笑)と思うじゃないですか。

## 父の好みも母の好みも受けて

父は、サーカスとか安いものが好きだったのです。変な一家だったんです。昨日は「うーん、上村松園か」「京劇か」とか言つて、今度は父が「今日の夜サーカス見に行きましょ」と言うわけです。サーカスと言つても今のあんな立派なのじゃないんですよ、ターラララ、ラーラー(ジントのメロディ)という哀しいところで。父は最初から最後まで泣いてるんですよ、サーカス見て。「ようやるなあ、よう」。猿が何かやつても泣くんです。綱渡りで傘持つてふらふらしてるのを見ても泣くんです。恥ずかしくてならないんです。

帰りは「めし屋」といつて今でいう定食屋に連れてつてくれるんです。自分が丁稚時代に行つた家を懐かしんで。母はフランス料理とかで。子どもの頃に全部馴けられたんです、ナイフを外側から使つて

いくとか。

父は「フランス料理も美味しい。せやけどこの鯖の炊いたんも美味しいですやろ。麦の入ったご飯も美味しいですやろ。お母ちゃんが行ったところと同じくらい美味しいやろ」って。「私は貧乏に育ったからこつちが美味しい。お母ちゃんは金持ちに育ったからフランス料理が美味しい。せやけど、美味しいことはおんなじですやろ」。これは私にとって財産なの。フランス料理も鯖の煮たのも平等。

だから私が『料理の鉄人』に出たとき、「家庭料理というのは一つのジャンルである。フランス料理、イタリア料理、中国料理等と並ぶもので、家庭料理はその上でも下でもない。ジャンルが違うだけで同じ線上的ものである」という話ができたのは、父と母、環境の違いから来る料理が、どちらもおいしい、ということから来ていると思うのです。

## 中国人大虐殺をひたすら恥じていた父

ここで父の話もさせて下さい。父が満州に第一回目に参戦した時は、本当に残忍な中国人の大虐殺の真つただ中にいたんです。それを私たちに伝えようとして、「日本人は中国人にこんなことをしたんだから、カツ代、覚えておきなさい」と残酷な話をするのです。「私はすごく臆病だから、赤ん坊をだっこしてるのを銃剣で突き刺すなんてできなかった」と。できないと今度は自分が軍の中でいじめにあうのです。遊びで殺しているような時代だったんです。吉武輝子さんにその話をしたら「聞き取りをしたい」と言われたんですよ。

私は、戦争については逃げ回って、話を聞いてませんでしたし、二十歳で選挙権が与えられたときも

「あの人、椿という名前できれいだから入れよう」とか「顔がハンサムだから入れよう」とか、そんな清き一票ではなくて愚かな一票を平気でやっていたのです。父は中国でのことを「いつでも話す」と言っていたのに、その前に病に倒れ、大事な大事な歴史の生き証人をなくしてしまいました。

母が泣く泣く結婚した相手ではあったんですが、父は立派な人だったんです、本当は。「貧乏でも楽しい家庭」とか、「ハングリーでなければならぬ」とか言うじゃないですか。あれは言葉の遊びだと思えます。父は言っていました。「本当の貧乏からは何も生まれない」と。本当に貧しいと、自分が食べたいとか生きていたいとかだけで、少し良くなって初めて人のことが考えられると。もし父に学問が与えられて、もう少しお金があつて、十三歳で奉公しなくて済んだら、父はもつともつと楽しい人生を過ごせたと思うのです。

## 死の間際、医者にしつぺ返しをした父

両親はよく喧嘩をしました。よく「子どもの前で喧嘩をする姿を見せるな」とか言うじゃないですか。私はそれは嘘だと思います。子どもの前で喧嘩しないと、子どもは「こういうのは正しい」「間違っている」ってわからないじゃないですか。

私は両親の喧嘩を見て「ああそうか。女だつてこんな発言をしなければいけないんだ」「悪いときには子どもに親が謝ることもあるんだ」と覚えしました。父が女だてらにどうかと怒ると、母が「これは悪いことだから叱るんで、女だから叱るべきではありません」と闘うわけです。非常に両親は闘っていました。



父は、先ほど申したように母にはほれほれの人でしたから、死ぬ前日も父の目は母を追ってました。突然ですが父の死んだ時の話をしたいと思います。

父は直腸癌だったのです。最初医者に痔と間違われて、結局亡くなったのです。当時でも人工肛門で大丈夫だったのに、何とその時に医院長が手術するはずだったのが、急に特別な患者が来たとかで若い医者にさせたのです。若い医者が途中で功名心に燃えて、何とか人工肛門でなくしようと無理な手術をしたのです。当然人工肛門にしなければいけない癌を、医者が「ここで実績を上げねば」と心はやったもので、癌を取りきれなかったのです。三日目に再手術です。再手術のときに細菌が入って、体の中から腐ってきました。

誰も父に死期が迫っていることは言いませんでしたが、父は知っていて、前日に「もうあかんわ」と言うのです。ユーモアのある人でした。「もうお父ちゃんはおかん。だから看護婦さんとかみんなを集めてほしい。お礼が言いたい」と。私の夫とか姉の夫とか、みんな枕元に集まったわけです。

一人ずつ「どうもありがとう。カツ代、遠いところを来てくれてありがとう」と、お礼を言うわけです。看護婦さんにも「どうもありがとう。とつてもお世話になりました。今日ぐらいいいかもう声が出ないと思うから」。母には「別嬪さんだすなあ」(笑)。息も絶え絶えなのに「別嬪さんだすなあ」なんて笑っちゃいけないのに笑っちゃうくらい死ぬ前まで冗談言う人だったのです。そしたら手術をした医者の番になった。医者も当然自分もお礼を言われると思って(身を乗り出す)こうなっているわけです。ぽんと飛ばしちゃったの、そこで。父はしつべ返しをしたんです。「この医者によつて自分の手術は失敗した」と知っていたのです。次の看護婦さんに「どうもありがとう。もう思い残すことはない」と。医者は大恥かいたんですね。非常に小気味良かったです。

手術の失敗を本当は裁判にしたかったんです。でも遺族は疲れ果てて起こしませんでした。

## 仕事は命がけ、責任を果たせ

父は七十三歳、母は七十一歳で亡くなりました。

母は本が大好きでした。あらゆる本を読んでいた。私はまだかいません。よくこんなこと言っていました。「私は本に囲まれ、本を読みながら死んでいきたい」。そのとおりになりました。だから皆さん、死ぬ時のことを言っていたほうがいいです。

しかし読んでたものが悪かった。それで早く死んだ。アガサ・クリステイの推理小説読んでいたんです。私の母は真っ先に犯人を読む人なんです。一番最後から読むんです。それから最初に戻って「ふん、ここが伏線か」「だまそうたつてそうはいかない」。——犯人を知ってるんですからね(笑)。途中で「これが落とし穴か」と思つて心筋梗塞起こしたんじゃないかと思うのです。心筋梗塞で倒れて、夜の九時に逝ったのです。

昼に母が倒れたという知らせが入ったのですが、ある仕事のリーダーをやっていたので抜け出せませんでした。すべて終えて、責任を果たして大阪に飛んでいったときに——ふしぎなんです——新幹線を降りて車より私鉄で行ったほうがいいと乗り換えて、そのとき時計が九時を打って、その瞬間「ああ、間に合わなかった、母は死んだ」と思つたのです。

死んだことを知らないのに、靈感なんか何もないのに。今でも母の死に目に間に合わなかったことが辛いのですが、最後にこの話をします。

子どもが小さいときに大阪に里帰りしていました。その時サンケイ新聞に連載を持っていました。子育てのことを書いていたのです。今のようにファックスのない時です。そこで台風に見舞われたのです。東京も大阪もすごい台風だったのです。

いつもなら郵便で速達で送れば良いのですが、郵便なんかとんでもない。ぎりぎりになると電話で聞き取りをしてくれるわけです、「健太郎とまりこがどうたらこうたら」と。電話もずたずた。それでも穴をあけられないんです。

「これ、運ぶ！」と私が言ったら母が「運びましょう」。姉が「こんな台風の中、とんでもない。そんなのいいじゃない、命を失うよりいいじゃない」と言ったのです。母は、「それが仕事だから。私、ついていく」と。

新大阪駅に行くともう新幹線は動きません。父も一緒だったのですが、父が「飛行機で行こう」と。「飛ぶかしら」「行つてみるとわかりませんやろ」。うちはみんなそうなんです。「やってみないとわからない」と言ううちです。みんなO型ですから。

すごい台風の中を空港に行つて、最後に飛ぶ一機に乗つて、それもものすごく揺れて死ぬかと思ひました。羽田からタクシーに乗つて、新聞社の手前で「もう降りてください」と言われて降りて、子どもも私もずぶ濡れになつて、原稿をふところ深く入れて新聞社に行きました。今でも語り草なんです、ずぶ濡れ祖母と親子四人がたつた何枚かの原稿を持ってきて、間に合つたのです。

こんなふうにも子ども私が仕事を届ける姿を見ているし、母も一言も「こんな思いをしてなぜ仕事をするのか」とか言いません。言つたのは「良かったねえ、間に合つて良かったね」だけです。仕事を持つのがどれほど覚悟のいるものか母は知っていたから、死に目に会えなかったこともきつと許してくれ

ると思います。

## 命をいとおしみ続けた母。だから私は戦争は大きい

命にまさるものはないんだから、とにかく私は生きていればいいんです。だから私は戦争には大反対なんです。どんな理由も説得力があるとは思えないのです。だって命を殺しに行くんだもの。だからすごい反戦者。母が物差しでピシヤツとやった時から私はびつたりとノンポリではなくなった。政治的に生きなくちゃ、女としてだけでなく人間として生きなくちゃと思ったのです。

私は動物も大好きですけど、最近すごくいやなのは公園で「野良猫に餌をやらなくてください」と、猫の絵にピヤーと斜線が引いてあるんです。

マンションでは犬も猫も小鳥もいけない。神戸の被災者の仮設住宅、今度被災者のための家ができたのにも、犬、猫、小鳥に至るまで禁止と書いてある。

十年くらい前、つまり犬猫をマンションで飼ってはいけなかった頃から、どんどん人間の心がずさんできたと思うのです。おまけにこんどはノラ猫まで生きることを許さない。この間の生首事件の前にも、残忍に猫が殺されましたね。必ず弱いものをいじめる時代がくるだろうと思ったのです。弱いものとは今は残念ながら動物たちです。もう私たちの保護がなければ生きていけない。もし弱いものを大事にする時代がきたら、日本はもっと良くなると思うのです。

母は犬も猫も受け入れて、雑草一つにも「カッ代ちゃん、見なはれ。こんなところから可愛らしい花つけてますなあ」、蜘蛛が巣を張ってたら、「カッ代ちゃん、見なはれ。蜘蛛がこんな一所懸命きれいな巣

張つてますなあ」つて。教育的に「ちよつと見なさい。素晴らしい幾何学模様ね」(笑)と言われたら見なかったと思うのです。

母が「きれいなあ」と思うから、私も「きれいなあ」と思って見たのです。昨日張った蜘蛛の巣に雨の後がきらきら光っていて、「お母ちゃん、昨日の蜘蛛の巣なあ、きらきら光ってたよ」と言ったら「ほな私も見にいきますわ」と忙しいのに見にいってくれた。

愛情つて代々続くと思うのです。私もこれからひたすら優しくなりたいたいと思うのですが、どこまでできるかわかりません。みんな優しくなれば日本も良くなると思います。終わります。(拍手)

斎藤(千代) いいお話でしたね。本当に何ていいお話でしょう。それに、この語り口のすばらしさ。ビデオに撮っておかなかったのが残念です。さすが上方の方ですね。あの間(ま)の良さ。吉本サンがきょうの話を聞いてたら、すぐスカウトに飛んでくるんじゃないかと思いました(笑)。お話を聞きながら、ああ、もっとたくさんの人に聞かせたい、とりわけ神戸の犯人、と思っていましたら、やっぱり神戸の話が最後に出ましたね。小林さんのお心が空を飛んで、伝わるいいのですが。

私が小林さんにお会したのは、二十年以上も前、何かの取材でお目にかかったのですが、私は小林さんに本当に一目ぼれしたのです。まだご本もあまり出ていない時で、「ぜひあなたのお料理の本をBOCで出させて下さい」とお願いしました。その本はまだ実現していませんが……。何度もお会いしてないのに私の気持ちの中で小林さんはとても大きな位置を占めている。その理由が今のお話を聞いてわかって、「私もなかなか目があるな」と自分を褒めたい気分です。このステキなカツ代さんに、皆さん、どうぞとしどし質問なさって下さい。

## 小林さんは「ゴキブリ」を殺せますか

A 下らないことですが、台所とゴキブリは切っても切れないですね。どのように処理されているでしょう。動物を大切にされていて、「動物を見ると笑顔が出て優しくなれる」とお書きになっていますが自分でもゴキブリは嫌いで殺しちゃうのじゃないですか。その辺を（笑）。

小林 とてもいい質問です。私はシュウアイツアーではないのでゴキブリは殺します。でも殺したくないので、ひと思いに彼らが予測をしない殺し方をします。バシーツです。絶対にバシーツで、一気に死んでもらいたいと思うのです。生きたエビを料理するとか絶対にできない気弱な料理家なんです、ゴキブリは私と競合してますし放置しておくが増えますから。

おもしろいことに猫を飼っていると増えないんです。ところが一匹の猫が病んで、口の中が莓みたいになって悪臭がひどかったのです。その子が病気になったら出てきたんですよ、ゴキちゃん。だからゴキちゃん是不潔だと出るんですね。ゴキブリだけは餌を与えてやりたいとは思わないですね。

ゴキブリホイホイなんて、あれはかなり残酷ですね。だからあれを仕掛けて、そのままにしておいたら楽だけど、自分に痛みを持つ方が良いと思ってバーンと叩きます。

A 何で叩くんですか？

小林 新聞紙です。一気に死なせないとかわいそうじゃないですか。そして必ず言うんです、「今度はゴキブリに生まれないでね」と（笑）。蝇とゴキブリは殺しますね。それも生かして、となると、ちよつとアブノーマルになりますが、私は普通の人間です。

あとは野良猫がうちの木を枯らそうとかまいません。小金井公園に子どもと行った時、毛虫が出てきたんです。みんな「キヤーツ」と言うので、「大丈夫よ、これウール百パーセントだから」と言ったのです。子どもは意味不明のまま「ふうん」と言っただけ。そして何と学校の帰りに「ウール百パーセントを連れてきた」と、桜の木の下通つたら落ちてきたので「匹連れてきたのです。「困った」と思っただけに放したら、その日の夜にわーっと湿疹ができたのです。私はひどい親なんですよ、「まりちゃん、少しアクリルが入っていたみたいね」「ふーん、アクリルが入ってたんだ」と、わけは分からないけどなぜか納得。けっこのんきな子育てをしています。

いま猫よけにペットボトル並べたりしているの、暇な女性が増えたんです。近所でペットボトル十五本並べているうちがあるんです。十五本も水を入れているの、女性だと思ふのですが、いやですねえ。一本入れることに「うーん、クソー、猫め」(笑)。人生もつたないじゃないですか。ペットボトルを並べるのを見て「ここまで来たか、この時代はすごく悪くなるな」と思ったのです。私が必ず言われるのは「あなたは動物好きでしょ、でも嫌いな人もいるんだ」と、こういう言い方です。でも動物はタバコじゃないんです。命なんです。

ペットボトルを見た時、何を思ったかというと、「とうとうここまで来たか、昔は動物が嫌いだった」と優しくなれるから、正々堂々とは言わなかった。それがもう言っているんだ。『私は動物が嫌いです。だからペットボトル並べます』と。これってすごく怖いことなんです。

公園で「餌をやらなくて下さい」と言うのは、もう猫は死んでいいんです、餓死させていいんです、と言っているのです。それでは殺人が起らないわけじゃないですか。「死んでいいんです、野良だから」、そう思っているのです。餌をやらなくては確実に餓死するんです。ものすごい悲惨な死に方です。

でも、ノラ猫退治の人たちはその末路を見ていない。

私の母親は「それはなぜなの」ということと同時に、「それからどうなるの」ということをよく会話で言いました。「それからどうなるの」という視点が欠けているんですね。餌をやらなければ自分のところはきれいだ。でもそれをやらなければ確実に猫は死ぬんです。昔、私の母親は猫が魚を取っていくと「あらあら」と言ったんですね。今は「あらあら」で済ませないんですね。

幼稚園の帰りに他の母親たちと歩いていると、鳩が私にだけ眼鏡の縁に糞をしたの。糞をビチョーとしたから、突然視界が暗くなつたんです。みんなキャーッと言つて「小林さん、ビチャビチャの糞よ」。眼鏡を外して見るとどうも下痢をしているみたいなんです(笑)。「あらー、あの子下痢しているんじゃないかしら」と空を見上げてたら、子どもたちも寄つてきて「ママ大丈夫かしら、鳩」(笑)と。その時に他の母親が「小林さん、いいわねー、あなたみたいな性分」と言つたのね。その人は「私だつたらまづ叫ぶ。そして汚い、どうしよう」と騒ぐ」つて。拭けばいいんだから、怒ることはないんですね。

生き方についていろいろあるけど、絶対私の生き方のほうが楽で、笑つていられて。その代わり辛いことも多いですけどね。もし生き物が好きでなかったらどんなに気が楽だろうと思うもの。でもやっぱりこの生き方が好きですけどね。

## 娘と「いい関係」になれないのですが

B お母様のお話がすごく良くて、私も体の中が暖かくなりました。私は母親なんですけど娘との関係がうまく行かなくて、「母を語る」ということで、いい母親になりたくて今日来たのですが、娘との関係を



どういうふうにしたらいんでしょう。

小林 なぜ愛せないんですか。

B どういうふうに接触したらいいかわからないんです。

小林 お子さんはお幾つですか。

B 二十五歳です。小さいときから先生のように受け容れるということができなくて、何となく突き放してきたところがあるんです。

小林 お子さんのことが気に入らない？ 性格とか。

B とてもいい子なんです。私自身がコミュニケーションができないというか。

小林 よく話していただきました。多分質問なさったあなたも、お母さんとの関係があまりうまくいってなかったんじゃないですか。「愛は続く」ですが、その逆もあります。きつと愛情を注がれてなかったんだと思います。だから今日から演技しましょうよ、演技。權威をもった偉い先生ならいろいろな教訓を言うと思うのですが、突然目覚めたみたいにもいいし、「あなたみたいな素敵な娘になぜ気が付かなかったんでしょう」と。

今からでも遅くないと思うんです。ただ、今、愛しておかないと、お子さんが次の世代に持ち越しませんね。

料理の仕事をしていて、またお店で人を使っている、たくさんの人から相談を受けるのですが、問題のある人は必ず両親に問題があるのです。もう百パーセントといっていいくらい。ある人は、決して私の顔を見て喋らないんです。何か注意しようとすると必ず目を下に向けるんです。三十歳なんです、何に怯えているんだろうと思うと、お父さんが今でもとても怖いんですって。暴力と暴言で、顔を合わ

せると叩かれるんじゃないかと。私は決して彼女を叩かないとわかってるのに。

二十五歳になろうが三十歳になろうが、母親に愛されていないことはご存じだと思っんですね。そして次のお孫さんまで響くんです。

だから演技で良いと思うんですね。わざとっぽくても。

私って、心で思ったことがパツと口に出るんです。子どもがテレビを見ている顔を見ていて「何でこの子、可愛いんだろう」と思うことあるんです。思わず「まりちゃん、好きだわあ、私」と言うんです。突然言われてびっくりするんですね。そんなところでラブコールされて。「何よママ、気持ち悪いわね」って言うから、「ごめん、でも私あんたみたいな人間好きだわ」と言うのと、「もう」と言いながら、すごく嬉しそうですね。

だから口に出して「好き」と言ってみたらどうかしら。嘘でもいいんです。でもお子さんを騙してでも、今しかないとします。ずーっと響きます。愛も続くけど愛の反対も続くから。よく勇気を出して口に出してくださったと思うのです。

自分の子どもでも愛せない親を知っています。二人いて一人をどうしても愛せないんです。何も理由はない。でも愛せない。そういうこともあると思う。なぜって子どもは選べないもの。他人で、どうもいけ好かない人いるじゃないですか。それがもしわが子だったら。子どもは母親を選べないし、母親は子どもを選べない。でも子どもは四十になっても五十になっても愛されたいんです。ずっと愛されたいと思うと思う。

でもそんな良いお嬢さんに育てたのはあなたじゃないですか。だから嘘でもいいから「ホントにあなたのこと好きだわ、どうしてこんな気持ちになったのかしら」でもいいんです。きつと気持ち悪がると

思うんですが、「好きだ、好きだ」と言ってる間に本当に好きになると思うのです。

お嬢さんお一人ですか？ 息子さんが一人？ 息子さんのほうが好き？（Bさん、うなずく）そうですね、友達もそうなんです。でも子どもにとっては母親は一人ですものね。お嬢さんは母親に愛されてないことに気がついてらっしゃる？（Bさん、うなずく）どうしたらそれを救えるかというと、ほんとに演技しかないです。

おかしいですね。嫌ってた子に結局面倒みてもらう。そのケースすごく多いの。なぜかというと、嫌われてた子はここで母親の愛を取り戻せると思うから世話をするのです。でもその時は手遅れなんですね。

突然声を出しましょう。気持ち悪がられてもいいのよ。私の友達が息子のすることは全部許せるんですって。そして同じことを娘がやると腹が立つんですって。娘さんは大きくなると自分は本当は愛されてないとわかってきたんです。それで、演技したんです。自分に言いかけように。そしたら友達は成功したのです。そして今までなぜ嫌いだったかわからないのです。今では一緒にいれば映画に行きたくないなんて言い出して、娘さんにうるさがられているらしいですけど。

今日をきっかけに、〈あごろ〉にお便りいただければ、またお役に立ちたいと思います。

## 料理研究家になるには

C 先生のお話聞いていて、私も帝塚山学院なのでびっくりしました。私も料理の世界で頑張りたいと思ってますので、料理の世界に入られたきっかけと、どういう人が向いているのかとか、アドバイスいた

だければ。

小林 この質問ほど難しいものではありません。料理研究家になろうと思うなら、一番簡単なのは、女子栄養大に行くことです。料理研究家で女子栄養大出身の人、多いから。

私、若い頃はもの書きと画描きを目指してましたが、ある女性ディレクターとドラマチックな出会いをしました。見ていたテレビに「料理のコーナー作った方が良い」と投書したのです。全く料理家になるつもりはなくて。すると、どうしても本人に会いたいと。

私はその時神戸にいて、夫の転勤が三日後に迫っていたのです。会いに行ったら、そのディレクターが私のタレント性を見出したらしく、突然テレビに引っ張りだされたのです。後で聞いたのですが、そのときのテレビ、大好評だったとのこと。

そうとは知らず、私はすたこらさつと引越して、東京デザインカレッジに入り直して、一年半後に講談社からデビューしたんです。森村桂の次に売り出されることになって。

そこにテレビに出た話を書きたかったのです。それでテレビ局に「写真を貸してください」と行ったら、「小林カッツ代がいたー」と大騒ぎになったのです。転居して行方がわからない私をずっと探していたらしいのです。東京の自宅に電報が来て、すっ飛んでいくと、その日からレギュラーを持たされたという、ものすごく劇的な出会いがあったのです。

映画評論家の荻昌弘さん——每週二緒して試食されたのです——が「天賦の舌を持った人が現れた」と本に書かれたのです。「腕のいい人はたくさんいるけど、数少ない天才的な舌を持っている」と言われて、わーっと仕事が入ったのです。そのまま抜け出せないままなんです。

こんなきつかけは皆さんには通用しません。売り込んで努力して、じゃなかったものですから。でも、

もしあなたが本当になりたいなら、必ずなれます。女子栄養大に行くとか誰かのお弟子さんになるとか。ただしあなたに才能があるかどうかはわからない。

料理研究家の仕事は、毎回新しいアイディアをどんどん出さなければならぬのです。これは大変なことです。私がいくら発表しても盗作されまくっています。「あ、この先生、また私の盗んでいる」、そういう世界です。私は人の料理を紹介したい時は、必ずその人の名前を出します。たとえばNHKで「しんちゃんのおひじきサラダ」を紹介しましたが、それはしんちゃんという友人のサラダなんです。

もう一つは食えることが好きですか？ 大好きですか？ それがいい料理家がものすごくいます。好きでなくても料理家にはなれます。だから好きだったらかならずなれます。なぜかという私はすごく小説が書きたかったのに、料理の方にいったでしょう。ところが今、私が頼まれるのは「書いてください、書いてください」と。二十六年間講談社は私の小説を待っていてくれるのです。エッセイを書きたいので、もう小説は書かないと思いますが。

私は料理家をやりながら、すごくジレンマがありました。「ああ、私は料理家としてばかり名前が売れていく。私はもの書きなのに」と思っていた。だけど今、多くの出版社が私にエッセイを頼んでくるじゃないですか。なりたいたいものには絶対なれます。もしなれなかったら、それはあなたが本当はなりたくなかったから。最終的には必ずなりたいたいものには、なれます。

私は仕事を持ちたいと思っていた。「小林カツ代」という名前を世に出したいと思った。それはなぜだと思えますか。ただのおばさんだと聞いてくれないことがたくさんあるんです。大切なことでも。例えば武力を出そうとか、憲法を改定しようとかいう時に、ただのおばさんが「いや、憲法第九条は大事だ」と言ったって誰も耳を貸さない。小林カツ代という名前があるからなんです。渋谷のハチ公前で敗戦記

念日に「小林さん、話をしてください」と言われて何年も続けているのですが、小林カツ代だから人は耳を傾けるではないですか。小林カツ代だからラジオで「小林カツ代が憲法第九条を絶対守ると言った」と流すではないですか。だから小林カツ代という名前は必ず出したいと思ったのです。

どんな仕事であれ、どんな方法でも、あなたがなりたいと思ったら必ずなれます。これが私のアドバースです。（拍手）

## 小林さんの「料理の師」は？

D 先生の料理はお母様を見て覚えていたのですか。

小林 私、結婚するまでほとんど料理したことないんです。舌がおいしいものを覚えていたのですね。結婚して初めて作った料理がひどくて「こんなもの一生食べるのはとんでもない」と、二回目から母に電話で聞いて作ったら、そのとおりにできたのです。

吉川英治氏の「私には師はいないけれど、すべてが師だ」という言葉を覚えていて、八百屋に行ったら「この野菜はどうやって食べるのですか？」と訊きました。結婚した時名古屋にいましたから、母に電話すると料理のこと、近所の人と話すと料理のこと、雑誌を買って料理のこと、あらゆるものから料理を覚えたのです。

これは不思議なんですが、私は靈感はなくて料理だけには靈感が働くのです。

『アエラ』の「現代の肖像」に出た時に、「ホウレン草を洗う」ということでライターさんが私のことを見ていてびっくりして書かれたことをお話しします。講演で「あれ、本当ですか」と訊かれたんです

が本当なんです。

ホウレン草は土の中に立つて植わってますね。上向いて。雨は上から降ってきますね。それと同じことをやってやるわけです。私は今〈アーく〉という動物のボランティア団体で、ボランティアのために料理を作りに行くんです。しなびたホウレン草を洗う時に、それを葉っぱの方から雨に当たるようにサツとぬらして、今度は根の方を土の中に入っている状態のようにパツとやるんです。シャツシャツシャツと、また裏返してシャツシャツシャツと洗うでしょう。三回くらい水を替えて、絶対流しっ放しにせず、に止めて、それをサルに上げたのです。私のことを書くために半年くらい付きつきりだったライターさんが「小林さん、マジックですね。これさっきのしなびたホウレン草ですか」。彼女、何度も聞いたんです。私は野菜が「こうしてほしい」と言うのがわかっちゃうんです。

私はよく、なぜそんなに元気かと聞かれるのですが、自然食とか追いかけて回したりは何もしません。近所の野菜やお肉を買って、ありがたく食べているんですが、まず季節のものを食べます。無農薬ホウレン草を夏に求めるなんて愚はしません。つまりこういうことなのです。食材は野菜もお肉も全部、まだ生きていきたいと思っているもの、まだ生き続けようとしているものなのです。キャベツを二つに切つて、すべて根っこ部分を水にいけておくと、緑の球体になったことがあるんです。とても感動しました。三つ葉は、地の三つ葉が出た時にやってほしいんですが、切った後に水に漬けるって普通にやりますね。ちよんちよんと途中で切つてふと気付いたら、一本の中で次の生命が芽を吹いていたんです。ああそうか、ただ切るより、芽吹いたところの真上を切ればいいんだと気がついて、みそ汁に使う時、全部そうやって切ったんです。新しい芽が透いて見え、みんな天を向いているわけです。すべて一本ずつに。これを切ったらまた次の芽がスタンバイです。

これも実に感動的なのです。まさに生き続けているのです。それを私たちが食べるのですから、元氣にならないとおかしいのです。生きているものを食べて、それが私を生かすのですから。

雑草って私とても好きなんです。草の研究家が「小林さん、草が生えてきたら引っこ抜く人がいるでしょう。ところが草は地球を守ろうと必死なので、抜かれた瞬間に必ず種をばらまくんです。それを今は除草剤で生態系を壊している。雑草だといって刈ったり切ったりしようすると、必死でわーと散る」と。次の生命を伝えようとしている。だから三つ葉もそうなんですね。それに私は氣がついた。よほど私は食べ物の生命と相性がいいと思うんです。

生命とか地球とか宇宙とか月とか、そこまで料理は発見するものです。例えば一夜漬けといいます、本当に一夜というものがどんなに大事かわかります。カレーの広告で「一晩おけば」と言ってますが、あれは私のキャッチコピーなんです。

ある撮影で、朝カレーを作ったのです。前の日時間がなくて作っておかなかったのです。「先生、大丈夫ですよ。十時間も経ちます。朝九時に作って夕方七時に撮影ですから」。違うんですよ、味も色も。今年の夏もグリコのCMに出たのですが、夏は一晩おいてはいけません。腐りやすいですから。ジャガ芋入れたらいいんです。だからあのカレーはあくまで「一晩おいた味」で、「一晩おきなさい」と言うわけではありません。

食べ物のいのちって、すごく不思議なんです。それをこつこつ書いているのですが、なかなか書き終わらないんです。皆さん面白く思ってくださいと思います。魚の干物ひとつとっても、一夜干しと風干しひとつと、全部違う。人間が一人で料理作っていると思ったら大間違い、宇宙ぐるみです。地球ぐるみで私たちの生命を守ろうとしているのに、それをどんどん壊そうとしている。



炒めものする時、上に持ち上げると空気が入りますね。持ち上げることで鍋の水分が蒸発するんです。持ち上げようとするとき、「気」というものが入らないとできないんです。「気」が入らないとくたつとなるんです。そういう原理がわかれば、料理は誰でも美味しくできるんです。でも、テレビではそんな話をする時間がないんです。そのための時間をテレビは与えてくれないんです。NHKだけは時間がたっぷりなので、そういうことを話していこうと思います。小林は理屈っぽくなったと言われても、きつとわかってもらえると思います。ではこれで、本当に終わります。(拍手)

斎藤 心に沁みるお話をありがとうございます。小林カツ代さんが〈あごろ〉の会員？ なんて、よくふしぎがられますが、こんな方だからこそ〈あごろ〉を支え続けてくださっているのですね。

「母を語る」、どうぞまたおいで下さい。講演録を掲載しますが、何と言ってもライブです。きょうも小林さんがたくさんのおーラを与えてくださいました。本当にありがとうございます。このオーラで、やさしい地球をつくっていきましょうね。ではまた、お元気で。  
(一九九七年五月三十日)

◆「母を語る」次回は寿岳章子さんです。九月十一日(木)六時半から四谷区民センター(☎33354・6173) (丸ノ内線新宿御苑前駅大木戸口下車) 十一階第二会議室でお待ちしています。

(新宿御苑前駅)は出口が二か所あります。新宿方面からなら最先頭車、赤坂方面からなら中央連絡通路を渡って反対側ホームから出てください。新宿通りを左に二分。右手の十二階建て、新築の白いビルです。座席が限られていますので、ご予約下さい。(03・33354・3941 あごろ)

「母を語る」を聞いて

5月30日、四谷区民センターでの小林カツ代さんの講演を聴かせてもらい、あつたかい何とも言えない豊かな気持ちになっています。私にとって久々の、自分にしてあげることができた心へのプレゼントでした。

今年2月に出産を体験してからは、なかなか勇気を出して勉強会や講演会に出席できませんでした。まだ手のかかる息子を抱いて集中できないことや、迷惑になると思って諦めていたのです。新聞で「母を語る」というテーマと小林カツ代さんのお話にとても興味を持ち、電話してみたところ、とてもやわらかな対応をして下さり、「子連れでOKですよ」と言ってもらえ、実行できたのです。産後初の出席、私にはとても意味のあるものでした。

小林さんの人間味、やさしさ、私たち一人一人への愛情あふれる働きかけ、すつか

り大ファンになってしまいました。料理の味は最後にたっぷり注ぐ愛情が最高の調味料になるんですね。実感しました。

(中野区 粕谷なち)

〔出前講座いたします〕

◆〈あごろ〉二十五周年記念として「戦後のフェミニズム雑誌」をテーマに、斎藤千代と舟本恵美がお話します。あごろ事務局(03・33354・3941)までご連絡を。全国無料です。

〔私が見たチエチエンとロシア〕

寺沢潤世上人が一時帰国、マスメディアには出ない貴重な情報を話して下さいます。8月18日(月)午後6時から四谷区民センター12階和室(3354・6173)で。地下鉄丸の内線「新宿御苑前」下車2分。

『女ひとりドケチ旅』を読んで

辻みゆきさんの『ドケチ旅』。女の冒

険物つて今までであつたかなアー？ お話と  
 しては「アリーテ姫の冒険」があるけれど、  
 あの時以来の感動でした。彼との恋のはじ  
 まりはもつとエッチでもつとセクシヤルな  
 描写でもよかつたなアーと、その方面では  
 多少マニアックな（？）私はニンマリする  
 のでした。  
 （鳥取 芦谷美鈴）

(鳥取 芦谷美鈴)

〔編集後記〕

◆この号をつくるに当たって私自身の働き方を考えたら、ほとんど「男型」で、時には夫の方が家庭のアンペイド・ワークを多く担っていることもありました。もっと外で働く時間（市民運動も含めて）を減らさなきゃ！反省……。（礼）

(礼)

◆AGORAZEIN、皆さんの議論のすすめ方、迫力に、いつもながら感心しました。「主婦というシステムが問題」——ウーン。感想をお待ちしています。

(七)

辻 みゆき

## 女ひとりドケチ旅

神戸港からポーランドまで、44日間8万円の超ドケチ旅。23歳の夢とユーモアがいつばい！元氣の出る本です。イラスト写真入り。

四六判 一五〇〇円

記録——

## 少女たちの 勤労働員

日本の中での強制連行。一三六〇校の史実を洗い、国家権力のすさまじさを検証した力作。第二回PCJF賞受賞。B5判 三八〇〇円

山下智恵子

## 幻の塔

信じていた人は特高のスパイだった！戦前のハウススキーバーの実像を描きだした衝撃の作品。好評重版。四六判 一九〇〇円

白鳥美津子

## ほおずきの詩

子育てしつつ家事をしつつ、平凡な『日常』の中から、小さな『非日常』を詩団集に。心あたまる言葉の数々。B5変形 一五〇〇円

斎藤 千代

## ガンさんありがとう

闘うな、でもなく、闘うのでもなく、いつも自然体。だから元氣なのでしょ、という筆者の率直なドキュメンタリー。B6判 近刊

あごら 231号 ●発行 1997年8月10日

●編集 あごら新宿＋無報酬労働の数値化を考える会

●発行所 あごら MINI 編集部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替 00100-0-5264

●定価 本体1300円＋税

この ひろい宇宙に  
たった一つの地球  
その 大きな地球に  
たった一人のわたし  
そして あなた

かけがえのない地球  
かけがえのないわたし  
かけがえのないあなただから  
たいせつに たいせつに しよう  
あなたも  
わたしも  
地球も

たった一度きりの人生だから  
思いきり  
のびやかに生きよう

だれもが だれをも  
ふみしだくことなく  
胸の底まで深く息をし  
ああ 生きててよかったねと  
ほほえみあえる地球にしよう

へあごら  
人と人の出会うひろば  
へあごら  
人と人の共に生きるひろば